

地方独立行政法人大阪市博物館機構
令和5事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果
小項目評価

年度評価
令和6(2024)年3月31日現在

内容

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

I-① さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	1
(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備	1
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信	17
(3) 戦略的広報の展開	36

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

I-② 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	44
(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備	44
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携	53
(3) 民間企業等との協働等	56

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

I-③ 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	61
(1) こども及び教員等への支援	61
(2) 幅広い利用者への支援	64
(3) 参画機会の提供	72

大項目Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 人材の活用と育成	77
(2) 評価制度の活用	78
(3) ICTの導入及び活用	79
(4) 民間活力の導入	79

大項目Ⅲ 財務内容の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

- (1) 収入の確保 81
- (2) 経費の節減 82

大項目Ⅳ その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置

- (1) 環境整備 83
- (2) 重要なリスク回避のための体制の構築 84
- (3) 利用者等の安全確保 85
- (4) 環境保全の取組み 86
- (5) 情報公開の推進 87

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 I-①	<p>I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備</p> <p>(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信</p> <p>(3) 戦略的広報の展開</p>
------------	--

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>法人は、大阪の都市格の向上に寄与するよう、博物館等における歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)の蓄積と人々が学び、楽しみ、育んできた成果を更に発展させ戦略的に発信する</p> <p>(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備</p> <p>各館の活動の成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む</p> <p>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館等資料(寄託品を含む、以下、同じ。)の新たな収集 ・防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化【1-(2)において記載】 ・博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供 <p>【中長期的 発展を見据えて 取り組む事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 ・博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 ・博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 ・ICT等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化(重要な資料等をひとまとめにしてデジタルデータ化すること等により、資料等を広く相互利用が可能な形式で保存することをいう。以下同じ。)による公開の推進【1-(2)において記載】 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 ・調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備						
各館の活動成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、次の通り、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む。						
<p>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>1 博物館等資料の新たな収集</p> <p>各館が対象とする実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)について、調査研究、寄贈、購入等を通じて、新たな獲得を目指す。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3</p> <p>各館とも寄贈による資料収集を進めることができた。自然史博物館では令和4年度に引き続き、重要コレクションの寄贈は順調に推移しており、歴史博物館では280件310点の寄贈を受領した。</p>	3		
	(大阪市立美術館)	1	ア 購入0件 寄贈12件(※うち重文4件) 【令和4年度実績】購入0件 寄贈2件 イ 受入118件 返戻119件 【令和4年度実績】受入4件 返戻22件		3	

	(うち中之島236点) (大阪市立自然史博物館) ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。 イ 収蔵品の増加ペース及び残存収蔵スペースを精査し、将来にわたる確実な収蔵のために必要な計画を立てる。	1	(大阪市立自然史博物館) ア 令和4年度には「西表島他の魚類」8,000点、春沢圭太郎昆虫コレクション12,900点等が寄贈され、5年度に入っても重要コレクションの寄贈は順調に推移した。 【令和4年度実績】総資料数1,955,279点昨年度末比28,316点増 イ 将来の大規模改修及びつなぎの収蔵場所についての検討を行い、前者は基本計画に記述した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。 【令和3年度実績】 ・寄贈件数6件(作品数19件19点) ・寄託作品8件(作品数44件、うち新規受入1件(作品数3件)、継続7件(作品数41件))	1	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 寄贈 0件(作品数0件0点) ※新規寄贈の受け入れの申し出に対しての検討を行った。なお、収蔵スペースを含め、受け入れ準備の関係で、寄贈の手続きは次年度の予定である。 継続寄託件数5件(作品数28件29点) 新規受入寄託件数0件(作品数0件0点)	3	
	(大阪市立科学館) ア 物理、化学、天文、科学史、気象、科学技術を中心とした分野の新規資料を収集する。 【令和3年度実績】資料寄贈2件、借用6件 イ 科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。 【令和3年度実績】 展示場1階一部改修に伴う新規展示作成2件、改修等3件。その他改善等7件	1	(大阪市立科学館) ア 令和5年度における資料の寄贈はなかった。収蔵品の一部は常設展示等で活用している。 イ 展示改装等に伴う資料や実験装置等の調査を7件行った。また、令和6年にリニューアルする展示場に設置する展示のために、足踏み発電を体験できる装置、物質の密度の違いを体験できる展示、風の動きを可視化する装置など多数の体験型展示等の開発や予備実験を行った。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。 【令和3年度実績】寄贈491件546点 イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。 【令和3年度実績】9件9点	1	(大阪歴史博物館) ア 令和5年度実績 購入0件0点、寄贈280件310点 【令和4年度実績】購入0件、寄贈746件1,217点 イ 収蔵可能なスペースを考慮し、特に博物館活動に有効な寄託品の確保に努めている。長期的な受け入れを見据えて寄託の在り方を再検討しているため、受入れを大きく制限した。 【令和5年度実績】0件 0点 【令和4年度実績】48件 65点	3	
	(大阪中之島美術館) ア 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。 イ 作品資料収集活動に必要かつ適切な情報を入手するため、国内外の美術動向に関する資料を継続的に収集する。 ウ 所蔵作品作家の著作権状況について継続的に調査を進める。	1	(大阪中之島美術館) ア 令和5年度作品収集：購入9件、寄贈等61件 ・作品収集の準備・情報収集については、随時積極的に実施した。 ・所蔵作品作家の著作権状況についても継続的に調査を進め、情報を更新した。	3	
2 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3 各館とも、計画通りに温湿度管理、IPM、防	3	

<p>切に保管し、将来へ継承する。</p>	<p>(大阪市立美術館) ア 地下ギャラリー各室および事務スペースでの総合的虫菌害の管理 (IPM) を行う。 イ 作品を保管している倉庫で月に1回害虫トラップ調査、半年に1回の空気環境調査を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。</p>	<p>2</p> <p>(大阪市立美術館) ア 地下ギャラリー および事務スペースにおいて、毎月害虫トラップ回収、目視、温湿度計測を行うとともに、隔月で壁・床の落下菌・付着菌調査を行った。 ※地下1室は除湿器を毎日運転およびIPMメンテナンス 地下2室は温湿度計測のみ、地下3室は調査対象外 事務スペースは害虫トラップ、大掃除2回、浮遊菌調査2回を実施した。「保存担当学芸員研修(基礎コース)」(文化財活用センター主催)を受講した。 イ 外部倉庫(三井倉庫・住友倉庫)において、毎月害虫トラップ回収、目視、温湿度計測を行うとともに、夏季に大掃除3回、浮遊菌調査2回を実施した。 ウ 文化庁補助金による展示室・収蔵庫の防火扉工事を完了した(最終検査待ち)。 エ 受け入れの度を実施している。</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワーク・文化財防災ネットワークなどとの連携による災害対策の検討を進める。</p>	<p>2</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア トラップによる監視、データロガーによる監視、定期的な点検を行った。ドアブラシ設置によるIPM管理を強化した。地下エレベーターホールのカビ害対策として、除湿対応を継続している。 イ 入退室記録簿、各研究室による資料貸借簿による適切な管理を行っている。 ウ 防犯・防災システムの定期点検を行い、2月に防災訓練を実施した。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止を検討をすすめている。 オ 防災に関する記事を全科協ニュースに執筆、文化遺産防災ネットワークのプロトコル検討にも参加。</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 【令和5年度目標】定期清掃(収蔵庫、資料展示室、李博士研究室)12回(月1回) 【令和3年度実績】10回 イ 館蔵品の点検を計画的に行う。 【令和5年度目標】国宝2件、重文13件、重要美術品9件及び本館・新館収蔵庫収蔵作品約1,500件等 【令和3年度実績】 ・出品、調査、修復、撮影による状態確認を320件行った。 ・令和4年2月7日～10日 指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 ・令和3年3月23日 令和2年度の新規館蔵品(寄附、寄託等)について監査法人による実査調査を</p>	<p>2</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展示室環境を把握するため収蔵庫・展示室の温湿度測定を継続して行った。 ・虫菌害の対策として定期清掃(収蔵庫等)を6回行った。 ・展示室及び収蔵庫において虫害対策のためのモニタリングトラップを設置した。10月～2月実施。 ・収蔵庫における浮遊真菌の調査を行った(10月1回実施)。 イ 館蔵品の所在確認及び状態確認を「大阪市立東洋陶磁美術館 館蔵品管理方法」に沿って計画的に行った。 ・令和5年6月1日及び令和6年3月12日に会計監査人による館蔵品の実査を行った。また、令和5年12月19日に内部監査による館蔵品点検方法に関する調査を行った。</p>	<p>3</p>

	<p>行った（2回目）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年11月10日～19日 指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 ・令和2年10月20日 令和2年度の新規館藏品(寄附、寄託等)について監査法人による実査調査を行った（1回目）。 <p>ウ 防犯・防災システムを定期的に点検すると共に既存設備の改修工事を行う。令和4年11月の変圧器故障に伴う全館停電が発生した事案に対して、本館の電気機器の改修工事を行う。</p> <p>エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度寄贈件数6件（作品数19件） 		<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年6月27日～29日に指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 ・令和5年8月24日、25日、28日、29日に館藏品全件(5,732件：令和4年度末時点の館藏品数)のうち1,567件の所在確認を実施。ウ 防犯・防災システムを定期的に点検すると共に既存設備の改修工事を実施した。 <p>エ 新規受入作品なし</p>		
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 常設稼働展示品を保守管理し、故障・運用停止を可能な限り少なくするよう努める。</p> <p>イ 特に重要な資料に関しては、機械警備などによるセキュリティ確保を図る。また展示改装にあわせ、機械警備、防犯カメラ充実の設計を行う。</p> <p>ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。</p>	2	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 展示物は、故障・運用停止を少なくするように日々の点検のほか、定期的なメンテナンスを実施した。また、老朽化の激しい3点の展示について代替展示を行った。</p> <p>イ 重要な貴金属資料等については、機械警備、ビデオ録画、定期的な警備員の巡回確認を実施した。また、展示改装に合わせ、館内の防犯カメラの設置を検討している。</p> <p>ウ 所蔵資料の出納実施の際は、出納簿に記録を行った。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。</p> <p>イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。</p> <p>ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。</p> <p>エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。</p>	2	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 年1回の生物調査を実施した。収蔵庫前に粘着シートを設置するなど靴底に付着する虫菌の侵入を防ぎ、収蔵庫・展示室の温湿度管理を恒常的に実施している。</p> <p>イ 出納簿を収蔵庫前室に設置し、資料の出し入れを適切に管理し記録している。</p> <p>ウ 6階特別展示室を中心に、防犯・防災システムの点検・修理を行い、システムの維持に努めた。</p> <p>エ 令和4年度の新規受入資料は登録を完了した。統合データベース、登録手続き、館藏品台帳が連動する企画は継続して準備を進行中である。</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 博物館等資料の燻蒸及びIPMを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵作品資料及び図書燻蒸を実施する。 ・策定した作品資料収蔵エリア等のIPMクリーニングの計画に基づき実施する。 <p>イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に行う。</p> <p>ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。</p> <p>エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行う。</p>	2	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 適宜、燻蒸及びIPMクリーニングを実施し、委託事業者を含む館内スタッフに対し、IPM研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PFI事業者と協働し、収蔵作品資料及び図書の燻蒸を実施した。 <p>イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に実施した。</p> <p>ウ 防犯・防災システムを定期的に点検した。</p> <p>エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行った。</p>	3	
3 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3</p>	3	

<p>博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。</p>		<p>中：3 各館とも計画通り、図書・雑誌の収集を着実に実施した。また、館蔵品のデジタル撮影や、収蔵資料の目録の発行など、データベースの作成やアーカイブ化も進めた。</p>		
	<p>(大阪市立美術館) ア 継続的に館蔵品のアーカイブ化に向け、基礎となるデータベースの構築と、作品情報の作成を行う。 イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。 【令和3年度実績】図書・雑誌購入148点 ウ リニューアルオープンに向けて、館蔵品を中心に作品紹介のテキスト化を進めていく。</p>	<p>3 (大阪市立美術館) ア 所蔵作品全点の基礎データ(名称・数量・年代等)のテキストをデータベースプラットフォーム(早稲田システム)へ入力実施し「デジタル大阪ミュージアムズ」にデータを提供した。また主要館蔵作品の画像登録(約500点)を開始した。 イ 購入 図書・雑誌110点 【令和4年度実績】 購入 図書・雑誌119点 ウ 主要館蔵作品270件の作品紹介(400字・200字)をテキストデータ化を実施した。</p>	<p>3</p>	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 継続的な資料の登録・整理を進め、収蔵資料目録を発行する。 イ 標本資料だけでなく、自然史科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理を進める。 ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。</p>	<p>3 (大阪市立自然史博物館) ア 収蔵資料目録55集を3月に発行した。 イ 継続して取り組み、その成果を特別展「自然史のイラストレーション」に展示した。 ウ 図書資料の購入・寄贈受け入れも順調に進めた。科研費により獲得した間接経費を投入しての自己努力により、将来の公開に向けた整備を進めた。 【令和4年度実績】 単行本965部、逐次刊行物7,435冊増</p>	<p>3</p>	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 継続的に館蔵品を撮影し、データベース化するとともに、オープンデータ化を進める。 【令和5年度目標】 デジタル撮影 作品20件 【令和3年度実績】 デジタル撮影 作品 173件(柳原睦夫作品4件、濱田庄司作品39件、オープンデータ化作品20件、韓国陶磁110件) イ 継続的に研究図書などの収集を行う。 【令和3年度実績】 購入図書資料241点(図書48点、雑誌34誌193点) 寄贈図書資料415点(図書322点、雑誌15誌93点) ウ ホームページでの収蔵品検索・収蔵品オープンデータの公開など情報発信と合わせて各サービスの多言語化を継続的に推進する。 エ ジャパンサーチ、グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。</p>	<p>3 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵品8件(中国陶磁3件、韓国陶磁5件)のデジタル撮影を行った。 イ 継続的に研究図書等の収集を行った。 購入図書資料34点(図書14点、雑誌9誌20点) 寄贈図書資料71点(図書46点、雑誌9誌25点) ウ ホームページでの収蔵品検索・収蔵品オープンデータの公開など情報発信と合わせて各サービスの多言語化を継続的に推進した。 エ ジャパンサーチ、グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行った。</p>	<p>3</p>	
	<p>(大阪市立科学館) ア 現在提供している資料・展示物画像を引き続き有償提供する。 【令和3年度実績6件】 イ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。</p>	<p>3 (大阪市立科学館) ア 資料画像12件の有償提供を行った。 その他、プラネタリウム発明100周年事業に関して日本プラネタリウム協議会に当館プラネタリウムの画像資料を提供し、全国の類似施設等が画像利用をしやすいよう、協力を行って</p>	<p>3</p>	

			る。 【令和4年度実績】6件 イ 市民の閲覧・調査研究に資するため、研究用図書45冊、雑誌9誌を収集した。 【令和4年実績】研究用図書33冊、雑誌8誌		
	(大阪歴史博物館) ア 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 【令和3年度実績】館蔵資料撮影 158カット イ 「なにお歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行う。 【令和3年度実績】図書3,128点	3	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料撮影 38カット マイクロフィルム撮影 なし 【令和4年度実績】館蔵資料撮影 70カット マイクロフィルム撮影 なし イ 市民図書・調査研究図書等として購入図書77冊、寄贈図書2,625冊を受け入れた。 【令和4年度実績】購入図書194冊、寄贈図書2,252冊	3	
	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。 イ アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。 ウ 大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。	3	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して実施した。 開室日：87日間 予約閲覧利用者：15名 レファレンス対応：23件 収蔵資料（情報公開）：公開75件 収蔵図書（OPAC）：図書登録 一般書 9,876冊 雑誌 8,612冊（456タイトル） デジタルコンテンツ：公開資料数 5,180件 イ アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理・配架を進めた。 ウ 作品資料の撮影。 ・美術館にて大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施した。 ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図った。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 法人の活動を支える専門人材を安定的に確保するため、条件を整備するとともに、成果に対する適正な評価を実施する。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：4、事：3 学芸員について、欠員にともない市立美術館、東洋陶磁美術館で各1名を採用し、また、東洋陶磁美術館において3名、歴史博物館において2名、令和6年度採用予定の準備を進めた。 また、文化庁補助金を得て博物館のDX化にかかる研修を2回実施した。	3	
	(大阪市立美術館) ア 個々のスキルアップを図るため、調査や研修に職員を派遣して情報収集に努める。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。 ウ 館の将来の運営を見据えた専門的な人材の獲得をめざす。	4	(大阪市立美術館) ア 学会・研究会・シンポジウム・セミナー等へ計75回参加した（ZOOM含む）。奈良国立博物館での学芸業務研修を通年継続。 イ 欠員（仏教工芸・仏教絵画）がでた学芸員を速やかに補充し、リニューアル関連の業務を中心に分担を見直した。今年度末退職予定学芸員の担当職務についても同様の見直しを行い、業務遅滞を防止した。 ウ 教育普及WGを組織し、実践事例研として周辺	3	

			館で実施したヒアリング調査を提言としてまとめた。		
	(大阪市立自然史博物館) ア 個々のスキルアップを図るため、調査や研修に職員を派遣して情報収集に努める。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。 ウ 館の将来の運営を見据えた専門的人材の獲得をめざす。	4	(大阪市立自然史博物館) ア 西日本自然史系博物館ネットワークの研究会を当館を会場とし、更にオンライン講習も実施した。 イ 日本甲虫学会、関西自然保護機構大会などを館内で実施した。また、植物分類学会や日本生態学会、日本魚類学会などに各学芸員が参加、発表をおこなった。 ウ 2月に、総務職員・案内スタッフ、ミュージアムショップスタッフなども対象とした博物館の氏名に関する研修などを実施した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 専門的人材の採用・育成と職務の役割を進め、国際的陶磁専門美術館としての体制の充実を図る。 【令和3年度実績】欠員に伴い、アルバイト(学芸員)を1名採用した。インターン受入4名。 イ 学芸員のスキルアップを図るため、国内外での研修参加を推進する。 【令和3年度実績】会議、研修等参加のべ21名、顕彰受賞1名 ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。	4	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 学芸員の欠員に伴い、アルバイト(学芸員)を1名採用した。また、新たにインターン2名を受け入れた。さらに次年度の学芸員2名の採用を公募し、3名を採用した。 イ 学芸員のスキルアップを図るため、国内外での研修参加を推進した。 研修実績のべ 8件(参加者数のべ18名) ・文化財(美工品)保存修理講習会 1名 ・博物館DX研修(第1回) 3名 ・博物館DX研修(第2回) 2名 ・研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインについて 5名 ・研究倫理研修(eラーニング/Zoom研修) 4名など ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを検討、実施した。	3	
	(大阪市立科学館) ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。 イ ブラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価や、常設展示の改良評価の実施を通じて、学芸員の資質向上を図る。	4	(大阪市立科学館) ア 全国科学博物館協議会、日本プラネタリウム協議会研究大会、日本科学史学会、全国理工系学芸員展示研究大会に参加した。 イ プログラム公開前には、プラネタリウム試写会、サイエンスショー検討会を実施した。公開後は実施内容を検討する事業検討会を合計3回開催し、事業に活用した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 職員のスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め、参加機会を得る。 イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担などを模索する。	4	(大阪歴史博物館) ア 学芸員の研修は文化庁主催「公開承認施設担当者会議」(6月)、「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」(6月)、奈良文化財研究所文化財担当者専門研修「遺跡地図・GIS課程」(7月)に参加した。 イ 前年度からの欠員1名と今年度退職者2名のうち、令和6年度に向けて学芸員2名を採用した。残る欠員1名は来年度中に募集し、令和7年度の採用を目指す。なお、ジョブローテーションの実施により、職員の適切な配置を目指すとともに、来年度以降の新たな展開に対応した体制を構築することができた。	3	

	(大阪中之島美術館) 安定した運営とブランディングに資する協賛金・協力制度を構築し、人材を配置する。	4	(大阪中之島美術館) 安定した運営とブランディングに資するべく、協賛金・協力制度を構築するとともに、学芸員の増員を行うなど、必要な人材を適宜確保・配置した。	4	
	(事務局) ア 新任の学芸員に対して、機構、各館の運営、活動等について研修を行い、今後の現場での活動に役立つよう育成を行う。	4	(事務局総務課) ア 4月採用の学芸員に新採研修を行った。新規採用者も含め、博物館のDX化にかかる研修を2回実施した。	3	
5 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 博物館等資料に関する専門の見地からの調査・研究を実施する。 博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。 博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4 中：3、事：3 各館とも着実に調査研究を進め、館活動に大きく寄与する状況となった。特に、市立美術館では、改修に向け、各地の博物館の保存・展示設備の現地調査を実施し、また歴史博物館では展示ケースの有機酸・アンモニア問題について、文化庁の公開承認施設会議に参加し最新情報を得る等、新たな知見を得た。また、文化庁補助金を得て各館の所蔵品をデジタルコンテンツ化し、令和6年2月に公開した。	3	
	(大阪市立美術館) ア 館蔵品や関連作品に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和5年度目標】著書・論文等10件、研究発表10件、展覧会報告1件 【令和3年度実績】著書・論文等21件、研究発表5件、展覧会・コレクション展報告14件 イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努め、改修後の保存・展示環境への反映をめざす。	5	(大阪市立美術館) ア 著書・論文等6件、研究発表等15件、展覧会報告1件(美術館だより「美をつくし」(号外198号)に掲載) 【令和4年度実績】著書・論文等11件 研究発表12件 イ 改修後の保存・展示環境、展覧会運営等の最適化を目指して各地で情報収集を行った。 MOA美術館、岡田美術館、三井記念美術館、広島県立美術館、福岡市美術館、九州国立博物館、熊本県立美術館 計7件	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会などと連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。 ウ 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究課題を継続的に実施する。	5	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館の収蔵庫利用は高いレベルで活用された。 【令和5年度実績】一般・特別収蔵庫 研究利用 699人+アルバイト 217人+実習 93人 液浸収蔵庫 102人+アルバイト 0人(アルバイト、館員や業者を除く) イ 西日本自然史系博物館ネットワークと協力して、デジタル化による保存と利用の両立等に関する議論をシンポジウムで行なった。 ウ 令和5年度は当館学芸員(外来研究員含む)が研究代表者となる科研費の新規採択は得られなかったが、継続課題主担10件(うち延長課題7件)、継続課題分担7件と合わせ17件を獲得し、著書・論文等も順調に公開された。民間助成7件やJST助成金1件も採択された。 【令和4年度実績】当館学芸員(外来研究員含む)が研究代表者となる科研費は新たな採択は得られなかったが合計22件を獲得	3	

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。 【令和3年度実績】 論文等5件、その他原稿10件、研究発表7件、講演会等10件、取材協力3件、科研4件</p> <p>イ 保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集を行う。 【令和3年度実績】研修、シンポジウム等参加のべ21名</p>	5	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進めた。 【令和5年度実績】論文等4件、その他原稿9件、研究発表等8件、講演会等18件、図録編集1、研修(講師・発表者)2件、科研5件</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 館蔵資料に関する基礎研究や科学教育に関する実践的研究等を継続的に進める。 【令和3年度実績】著書・論文等33件、研究発表6件</p> <p>イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加する等、最新の情報の収集に努める。</p> <p>ウ サイエンスガイドから展示物等について意見徴収し、展示物等の改善・改修のための調査研究を行う。</p>	5	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 館蔵資料等に関する基礎研究を実施し、成果を公表する大阪市立科学館研究報告第33号を発行した。 【令和5年度実績】著書・論文等30件、研究発表17件 【令和4年度実績】著書・論文等30件、研究発表10件</p> <p>イ 全国科学博物館協議会大会に参加した。日本科学史学会、全国理工系学芸員展示研究大会に参加し、発表を行った。</p> <p>ウ サイエンスガイドリーダーから展示の意見を月1回程度のペースで聴取し、改善・改修の検討を行った(長期休館期間中を除く)。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和3年度実績】 共同研究事業3本、基礎研究事業2本、著書・論文等44件、研究発表46件</p> <p>イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。</p>	5	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 個々の学芸員による日常的な館蔵品研究を実施している。</p> <p>イ 展示ケースの有機酸・アンモニア問題については、文化庁の公開承認施設会議に参加し最新情報を収集するほか、空気清浄の方法について文化庁・文化財活用センターの助言を得た。照明のLED化については調査を継続した。新たな展示手法としては「XR難波宮」を制作し、「WEB GIS」の検証作業を進めた。</p>	4	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 収蔵作品資料に関する調査研究を、継続的に進める。</p> <p>イ 作品資料保存や展示方法について、最新の情報の収集に努める。</p>	5	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 収蔵作品資料に関する調査研究を進めるとともに、収蔵作品資料についての照会に積極的に対応した。</p> <p>イ 作品資料保存や展示方法について最新の情報を収集した。</p>	3	
	<p>(事務局)</p> <p>ア 大阪関西万博に向けて取組む各館所蔵品の公開方法、デジタル発信等について検討し、デジタル発信のテスト公開を目指す。</p>	5	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 文化庁補助金Innovate MUSEUM事業の採択を受けて、大阪関西万博に向けて各館所蔵品をデジタルコンテンツ化し、2月に公開した。 【令和5年度実績】ページビュー数21,239(2024年3月31日現在)</p>	3	
6 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等	<p>他館の事例研究等、博物館運営に関する調査・研究を実施する。</p> <p>国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う。</p>		<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 事：3 令和4年度に引き続き、従来の紙面でのアンケート調査に加え、ウェブ上でのアンケート作成を行い、積極的に入館状況等の分析に努めた。ま</p>	3	

			た、モバイル端末による人流データを用いた来館者分析を取り入れ、分析結果を各館に共有した。		
	(大阪市立美術館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、これまでの各種アンケート結果をもとにリニューアルオープン時の広報戦略に向けた分析を行う。	6	(大阪市立美術館) ア 開館後を見据えた広報戦略を策定するため、各種アンケート結果のみならず、これまでのマーケティング調査実績を用いてより確度の高い広報戦略のための分析を行った。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。 イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって、効果検証などの手法開発を試みる。	6	(大阪市立自然史博物館) ア 令和5年度は「自然史のイラストレーション」展を開催。その目的などについては3月のオープンセミナーに公表した。 イ ミュージアム・ショップにおけるアンケート調査を受託業者が実施し、選定委員会がその評価を行った。 【令和4年度実績】ワークショップに関するアンケートを実施	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 入館者に対するアンケート調査（ウェブ版含む）とその効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討する。 【令和3年度実績】 ・黒田展 実施回数: 3回 実施期間: 18日 回答数 162(実施期間中入館者の約 5.1%) ・柳原/古九谷展 実施回数: 7回 実施期間: 42日 回答数 219(実施期間中入館者の約 6.3%) ・コレクション展関連テーマ展示 感想フォーム 設置期間: 会期中常時 回答数46	6	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 入館者アンケート調査に関する情報の収集ならびに今後の活用について検討を行った。 ・泉屋博古館東京での特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」に関するアンケートデータ ・九州国立博物館での特別展「憧れの東洋陶磁 一大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」の来館者の反応に関する情報収集 ・特別協力による作品貸出を行った国立故宮博物院での特別展「朝鮮王朝と清朝宮廷の芸術めぐりあい」（南部院区）及び「16世紀の大航海時代における文化と芸術」（北部院区）での来館者の反応に関する情報収集。	3	
	(大阪市立科学館) ア 展示・プラネタリウム・サイエンスショーなど各種事業に関して、アンケートにより入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の運営、事業内容の改善を行う。	6	(大阪市立科学館) ア 入館者に対するアンケートをオンラインと紙媒体の両方で実施し、合計4,447件の回答を収集し（11月5日まで）、プラネタリウム、展示場、その他内容について10段階での評価や記述意見を収集している。来館者対応委託業者の日報、また委託業者を交えたCS会議を実施し、来館者状況の把握とサービス向上に努めている。聴取した意見・感想・クレーム等は職員への回覧、館内の事業検討会等で参考にし、事業内容の改善に役立てている。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。 イ 展覧会事業を館内組織で事後検証して効果を確認し、特別展示室リニューアル後の企画立案に活用する。	6	(大阪歴史博物館) ア 常設展示（施設含む）のアンケートは内容を精査し、再開を検討中である。特集展示4本、特別企画展1本については、アンケート結果を分析して事業策定の参考とした。これらはGoogleフォームを活用し、QRコード形式で実施することで集計の効率化を図った。また、SNS等のコメントも収集し、分析材料として活用している。 イ 特別企画展終了後に実施する振り返りの会に	3	

			<p>において、アンケート結果を参照し、検証に役立てた。</p> <p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 令和4事業年度にかかる自己評価及び中期目標期間前年度までの自己評価を6月末に大阪市長へ提出するとともに、上半期終了時の令和5年度中間評価を実施した。</p> <p>イ 各館における入館者状況について、入館者数と推移を把握し、各館とも共有した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じて、業務改善を促した。 モバイル端末による人流データを用いた来館者分析を試行的に取り入れ、経営会議で分析結果を共有した。 	3	
7 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 博物館等資料の保存・継承と、展示等による効果的な活用を図るため、必要な修復を進める。			<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：2 中：3</p> <p>各館とも資料の状況等により必要な修復を判断し、計画的に館蔵資料の修復や展示物の改修を実施した。</p>	3	
	(大阪市立美術館)	7	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、修復を行う。</p> <p>【令和5年度目標】 4件</p> <p>中国書跡(重文) 1件 陶磁器 1件 金工 1件 近世絵画 1件 仏教絵画(重文) 2件 ※請負業者決定(令和6～7年度実施)</p>	3	
	(大阪市立自然史博物館)	7	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア ネイチャーホールのウォールケース基本照明をLEDに変更した。また収蔵庫の証明を一部LED化を進めた。</p> <p>イ 岸川蔵書の和本の一部の綴じを学芸員が修復した。</p>	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館)	7	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 修復作品 韓国陶磁計14件14点</p> <p>作品修復の費用は作品の状態により増減もあり、決められた予算内で展示優先順位の高いものの修復を中心に効率的に行っている。今年度は実際の修復経費が予定を上回ったため、残りの1件1点については次年度に行うこととした。</p>	3	
	(大阪市立科学館)	7	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 常設展示について、令和6年夏の完成に向けて、展示改装基本計画に基づいた展示改装の実施設計と施工を進めている。</p>	3	

	工を進める。 (大阪歴史博物館) ア 予算削減のため本年度の修復実施を見送り、館蔵資料の中から、資料の状態を勘案した館蔵品の修復の短期計画を作成する。 【令和3年度実績】 1件1点	7	【令和4年度実績】 展示物の改善等7件 (大阪歴史博物館) ア 館の運営状況と資料の状況に鑑み、本年度の修復を見送った。 【令和5年度実績】 0件 0点 【令和4年度実績】 0件 0点	2	
	(大阪中之島美術館) ア 収蔵作品資料について、作品保護と展示の必要性を考慮して、修復と額装を行う。	7	(大阪中之島美術館) ア 修復：6件 (内訳：美術6件、デザイン0件) 保存額装：5件(8点) (内訳：美術6件、デザイン1件)	3	
8 各館の施設の計画的な整備及び改修博物館施設としての機能と利用者サービスの向上を目指し、次の改修等を計画的に実施する。		8	【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 市立美術館では館の機能強化や魅力向上に関する協議を重ねながら、計画通りに改修工事を行った。東洋陶磁美術館では老朽化したエントランスを中心とした既存施設改修を実施するとともに、展示ケースの改修や分かりやすいサインの掲出など、博物館機能等の向上を目指した改修工事を進めることができた。また、科学館では展示改装の基本計画に基づき、各展示室の実施設計と施工を進め、歴史博物館では特別展示室の展示ケース改修工事に着手した。	3	
(大阪市立美術館) 館の機能強化やサービス・魅力向上を目指し、教育普及活動の場の確保も念頭に、本館の大規模改修計画を策定して、2021年度からの実施を目指す。	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修が着実に進むよう、各部門と綿密に協議を重ね、令和7年春のリニューアルオープンをめざす。	8	(大阪市立美術館) ア 機能強化やサービス・魅力向上を目的とした取り組みを各部門と協議を重ねながら進めた。	3	
(大阪市立自然史博物館) 今後50年を見据え、収蔵体制や常設展示をより魅力的な情報提供の場とするため、将来の展示改装に向けた構想づくりに着手する。 常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫の再配置、高密度化などを進めていく。また、将来に向けた精査を進める。 イ 老朽化した建物の計画的整備として、第2展示室の天井改修に向けた検討を進め、本館の耐震補強について検討を進める。 ウ 研究機器などの継続的更新を進める。webサーバ、電子顕微鏡、デジタルマイクロスコープの更新手法の検討を進める。 エ 照明のLED化の推進による照明環境の向上に努める。ケース照明、居室・収蔵庫のLED化を計画的に進め、標本に悪影響を及ぼしえる収蔵庫の残置灯の問題の解決をめざす。 オ 将来的な展示更新のための調査を進める。情報機器の刷新計画と合わせ、魅力的な展示の実現に向け外部コンサルタントも依頼し、検討を行う。	8	(大阪市立自然史博物館) ア 新規の標本棚は価格高騰と間接経費の不足によって購入できていない。 イ 第2展示室の天井改修に伴う更新に向けての検討を進めた。 【令和3年度実績】 講堂改修を行った。 ウ ドメイン移行に伴うwebサーバのクラウド移行を実施した。 エ 収蔵庫照明のLED化と残置灯対策を実施した。 オ 本館改修の基本計画について調査を行った。また、WEBはCMSを導入し刷新を進めた。 【令和3年度実績】 メールサーバシステム更新	3	
(大阪市立東洋陶磁美術館) 館の機能強化のため、本館エントランスを中心とした大規模な改修計画を策定し、2020年から実施を目指す。	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 本館エントランスを中心とした既存設備改修を実施する。 イ 老朽化した展示ケースをはじめ展示室の改修等を実施する。 ウ 快適で分かりやすい館内誘導や案内のため、ロゴマークやサイン計画の統一の更新を検討する。	8	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 空調や電気系統、さらに応接室等、老朽化した本館エントランスを中心とした既存設備改修を実施し、リニューアルオープンや万博に備えた。 イ 老朽化した展示ケース等改修・修繕を実施し、リニューアルオープン後の展示空間の魅力	3	

			向上につなげた。また、老朽化した展示ケースのLED照明機器更新を実施し、作品本来の魅力をさらに引き出す展示空間の実現を果たした。 ウ 快適で分かりやすい館内誘導などのため、ロゴやサインの統一的更新とキャラクターによる案内方法を実施した。		
(大阪市立科学館) 展示情報を更新し老朽化を回避するため、計画的な改修・改装を実施する。	(大阪市立科学館) ア 「大阪市立科学館展示改装基本計画」に基づき、老朽化した館内施設整備の設計・施工を行う。 イ 常設展示品・展示場の老朽化対策や安全対策を計画に行う。 ウ 館内防犯カメラ設置を計画する。 エ ブラネタリウムホールの客席について、座席指定のあり方を試行する。	8	(大阪市立科学館) ア 展示改装基本計画に基づいて、改修等業務委託業者を交えて各展示場等の実施設計と施工を進めている。 イ 展示物の定期的な保守については、業者委託による保守も含めて計画的に実施している。 ウ 館内防犯カメラの設置については、展示等改修業務委託業者と検討を進め、システムや設置個所をほぼ決定した。 エ ブラネタリウムホールの客席について、座席指定のあり方をチケット販売システムの更新と関連付け検討したが、当館の運用上適当ではないと判断し見送ることとした。	3	
(大阪歴史博物館) 常設展示場の見直しを行い、老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示機器の更新等を実施する常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。 増加する海外からの来館者に対応するための施設整備に努める。	(大阪歴史博物館) ア 老朽化した展示ケースや展示端末等の展示機器、展示照明の状況を把握し、修理や備品類を新調する等適宜対応を行う。 イ 展示改修基本計画に基づき、活動の見直しや展示の部分改修へ向けての準備を進める。 ウ 展示ケースの有機酸対策について、特別展示室のケースの一部を改修・新調するとともに、日常的に必要なデータを集め、空気環境の改善を図る。 エ 特別展示室の有機酸対策として展示ケース改修・更新を実施し、展示環境の改善を図る。 オ 大阪・関西万博に向けて、令和7（2025）年公開を目標に、展示改修基本計画推進の一環として、展示室のネットワーク環境を構築する。 カ 通常の博物館運営ならびに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。	8	(大阪歴史博物館) ア 展示ケースおよび映像機器、展示情報端末の経年劣化・故障は、随時予算の範囲内で修理などの対策を実施した。展示用蛍光灯の点灯不良は昨年度確保した最後の市場在庫で対応した。 イ 展示改修基本計画に基づき、活動や部分改修を再検討した。 ウ 展示ケースの有機酸対策については、特別展示室の壁面ケースの全てを改修し、予定分の独立ケースを新調した。同時に日常的な換気や必要データの収集により、空気環境の改善を図った。 エ 特別展示室の有機酸対策について、展示ケース改修工事を文化庁、文化財活用センターとの協議を経て7月に着手した。工事は予定どおり年度内に終了した。改修後のケースは9月・10月・11月・1月に空気環境測定を行い、いずれも良好な結果を得た。未改修のケースも空気清浄機を使用することで、公開承認施設復帰への目途を立てた。 オ 大阪・関西万博に向けて、令和7年（2025）公開を目標に、展示改修基本計画推進の一環として展示室のネットワーク環境整備を進め、今年度は10階～7階の常設展示場および6階特別展示室のWi-Fi工事を終了した。 カ 通常の博物館運営ならびに展示改修の支援を得るべく、法人賛助会員の獲得活動に努めた。	3	
9 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 科学研究費補助金をはじめ助成金等の獲得に努める。 科学研究費補助金の新たな館での研究機関指定を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：5 科学研究費補助金については、代表研究19件・分担研究18件合計37件が進行して（内令和5年度	3	

指す。			の新規採択は、機構全体で8件）、令和5年度の研究助成費は16,959千円であった。（件数は延長を除く）また、自然史博物館では文化庁補助金「Innovate MUSEUM事業」に西日本自然史系博物館ネットワークの一員として応募し、採択された。	
	(大阪市立美術館) ア 科学研究費補助金等の外部資金の獲得をめざす。	9	(大阪市立美術館) ア 新規採択 2名 継続 2名 【令和4年度実績】 科研費：2名獲得	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。 イ 文化庁補助金「Innovate MUSEUM事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。 ウ 科研費調査で行った自然史博物館に対する寄付支払い意思額の調査に関して分析し、寄付マーケティング動向を探り、自然史博物館の活動に還元する。	9	(大阪市立自然史博物館) ア 科研費について新規申請代表者として課題12件を申請民間助成金にも多数応募した。令和6年度は科研費新規2件が採択された。 【令和4年度実績】 新規申請代表12件 新規代表採択0件 イ Innovate MUSEUM事業に西日本自然史系博物館ネットワークの一員として応募し、採択された。また機構主体のミュージアム活性化実行委員会の一員としても参加している。 ウ 支払い意思額の調査結果は概要が「博物館研究」で公表された。来館などの体験が意思額を高めていた。同時に認知も重要であった。寄付に対する認知や博物館での体験を促進するため、恐竜の講演会等を行い、また、寄付を促すパンフレットを作成、少額ではあるが寄付件数が増加した。	3
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金等を活用した研究課題を継続的に実施し、また、新規の応募を行い研究資金の獲得に努める。 【令和3年度実績】 新規申請2名3件（研究代表者1名、研究分担者2名）、継続5件（研究代表者4名、研究分担者1名） イ 文化庁補助金等、国の補助金について各館とともに獲得に努める。 【令和3年度実績】 採択1件（事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された）	9	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 科学研究費補助金等を活用した研究課題を継続的に実施し、また、新規の応募を行い研究資金の獲得に努めた。 【令和5年度実績】 ・新規申請1件（研究代表者1名） ・新規採択2件（研究代表者1名、研究分担者1名） ・継続3件（研究代表者2名、研究分担者1名）	3
	(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金をはじめとした各種研究助成金を獲得するため、新規に応募をする。 【令和3年度実績】 新規応募14件、採択3件	9	(大阪市立科学館) ア 科学研究費補助金を獲得するため、令和6年度に向けて6件応募した。 【令和4年度実績】 応募8件、採択0件	3
	(大阪歴史博物館) ア 科学研究費補助金等外部資金を獲得するため、学芸員が新規に応募する。 【令和3年度実績】 研究代表者6件（継続課題5件、新規採択1	9	(大阪歴史博物館) ア 令和5年度の科学研究費助成金は新規応募件数が4件で、うち3件が新規に採択された。その結果、前年度からの継続課題を合わせて、令和5年度の研究代表者は9件（うち、昨年度終	3

	件)、研究分担者6件(継続課題7件、新規採択1件) イ 博物館を対象とする文化庁補助金に各館と共に応募する。		了予定で今年度に繰り越した課題が1件)、研究分担者5件(組織内部の分担者2名を含む)となった。 【令和6年度実績】 研究代表者5件 新規採択0件 研究分担者3件 新規採択1件 【令和5年度実績】 研究代表者9件(継続課題6件、新規採択3件) 研究分担者5件(継続課題4件、新規採択1件) (組織内部の分担者2名を含む) 【令和4年度実績】 研究代表者8件(継続課題6件、新規採択2件) 研究分担者6件(継続課題6件、新規採択0件) (組織内部の分担者2名を含む) イ 文化庁補助金(令和5年度Innovate Museum事業(地域課題対応支援事業))に機構各館とともに中核館として参画し、館藏品データの作成、「大阪博」の企画を推進した。		
	(大阪中之島美術館) 公的補助金や民間助成金の申請を視野に入れ、情報の収集に努める。	9	(大阪中之島美術館) 公的補助金や民間助成金の申請を視野に入れ情報の収集に努めた。	3	
	(事務局) ア 科学研究費補助金に応募を行い研究資金の獲得に努める。 イ 大阪・関西万博開催時の機構「大阪博(仮称)」の開催に向け、令和5年度「日本博2.0最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業等」に応募し、補助金獲得に努める。 【令和3年度実績】 各館と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された。	9	(事務局経営企画課) ア 科学研究費補助金に応募し、機構全体で4件の採択を受けた。 イ 大阪・関西万博開催時の機構「大阪博」の開催に向け、令和5年度「日本博2.0最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」で採択され(39,697千円)、文化庁補助金Innovate MUSEUM事業でも採択され(31,542千円)、外部資金の獲得ができた。	5	
10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。 さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。			【機構の評価】 美：4、自：3、陶：3、科：3、歴：3 市立美術館、東洋陶磁美術館については改修工事に合わせてバリアフリー化を進めることができています。また、歴史博物館においては観光庁「心のバリアフリー認定制度」に申請し、認定されました。	3	
	(大阪市立美術館) ア 大規模改修に際し、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮して設備を整える。	10	(大阪市立美術館) ア バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮しながら大規模改修工事を進めた。 ・地下展覧会室の出入口のスロープ改修(踊り場の設置)	4	

			<ul style="list-style-type: none"> ・地上から中央ホールへのアプローチの際の車いす用スロープを廃し、エレベータとエスカレータを設置。 ・館内サインについては、指針を定め、コンセプトを設定し、館（学芸・事務）・設計者の混成チームでグループディスカッションを行い、サインやビクトグラムを検討・確定した。 		
	(大阪市立自然史博物館)	10	(大阪市立自然史博物館)	3	
	<p>ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。</p> <p>イ 受付カウンターなどでのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を行う。</p> <p>ウ ポストコロナの高齢者ニーズについて検討を進める。また、バリアフリー化の施設改修に絡めた検討を行う。</p>		<p>ア 障がい者の観覧に向け展示会総計画の一環として調査を行った。</p> <p>イ 受付カウンターなどでの支援を行った。</p> <p>ウ 施設改修の一環として検討を進めた。</p>		
	(大阪市立東洋陶磁美術館)	10	(大阪市立東洋陶磁美術館)	3	
	<p>ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及びユニバーサルデザイン化を推進する。</p> <p>イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設など来館者ニーズを踏まえた環境整備を行う。</p>		<p>ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化やお客様導線の検討及び、ユニバーサルデザイン化をエントランス増築工事にて精美した。</p> <p>イ エントランス増築工事にて、最新式の多目的トイレ、授乳室の新設など来館者ニーズを踏まえた環境を整備した。</p>		
	(大阪市立科学館)	10	(大阪市立科学館)	3	
	<p>ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペースなど、来館者ニーズに応じたサービスが提供できるよう、計画的に点検し、整備・改修する。</p>		<p>ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、多機能トイレ、授乳室を設置しているほか、車椅子とベビーカーの貸し出しを実施した。また、新しい授乳スペースについて展示改装に合わせ検討している。</p> <p>【令和5年度実績】</p> <p>「地下1階の車椅子用館内入口」</p> <p>「プラネタリウムホール内車椅子スペース5席分、及び車椅子用入口」</p> <p>「おむつ交換台：8か所」「トイレ個室内ベビーチェア：7か所」「車椅子対応トイレ：6か所」</p> <p>「移動式別途対応トイレ：1か所」「オストメイト対応：1カ所」</p>		
	(大阪歴史博物館)	10	(大阪歴史博物館)	3	
	<p>ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。</p> <p>イ 回復が予測される海外からの来館者対応のため、トイレの洋式化等の調整を進める。</p> <p>ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来者に対応できる方策を検討する。</p>		<p>ア 全館バリアフリー化（多目的トイレ設置、車椅子貸出しなど）対応済み。観光庁「心のバリアフリー認定制度」に申請し、全国の博物館に先駆けて令和5年11月に認定された。</p> <p>イ トイレの洋式化については改修計画を策定し、予算の目途がつき次第改修へ。</p> <p>ウ AED（自動体外式除細動器）を複数階に設置。被災時のマニュアルの見直しを進めた。</p>		

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信 博物館等の魅力を広く伝えるため、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 ・博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用 ・各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 ・ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進 ・他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた相互の資源の保全及び効果的な活用 ・各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信						
博物館等の魅力を広く伝えるため、次の通り、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関と積極的に連携する。						
【各館及び法人(以下、「各館等」という。)の基礎的活動の充実を目指す事項】 11 常設展における展示替え 常設展示について、次の方針のもと、展示更新をはじめその充実にも努める。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：4、歴：4 自然史博物館、科学館、歴史博物館において、前年の入場者数や当初目標人数を大きく超えることができました。特に、自然史博物館においては常設展入場者数過去最高を記録した。 【令和5年度常設展来館者数】 自然史博物館：390,745人（目標：246,000人） 科学館：234,629人（目標：200,000人） 歴史博物館：243,229人（目標：207,000人）	4		
(大阪市立美術館) 最新の研究成果を基に館藏品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。	(大阪市立美術館) ア 改修工事期間中のため展覧会の開催なし。	11	(大阪市立美術館) ア 改修工事期間中のため、展覧会の開催なし	3		
(大阪市立自然史博物館) 「自然と人間」をテーマにした展示を行い、自然科学研究の進展や、新たな資料やコンテンツの活用に合わせて適時の更新を進める(開館日)。常設展示室内で、小規模な企画展示を適時実施する。	(大阪市立自然史博物館) ア 常設展示室内でのテーマ展示・コーナー展示などを開催する。 ・ミニ展示「道頓堀川のニホンウナギ」 令和5年1月31日～4月9日 ・ミニ展示「モウコガマ」 2月23日～4月23日 ・テーマ展示「絶滅危惧種 東南アジアの霊長類～奥田達哉写真展～」 3月11日～5月12日 ・ミニ展示「大阪と牧野富太郎」 時期未定 ・テーマ展示「自由研究展」12月～令和6年1月予定	11	(大阪市立自然史博物館) ア 「毒展」および「恐竜博2023」の好調を受け常設展示入館者数も過去最高となった。本館の常設展示においては、ミニ展示「道頓堀川のニホンウナギ」 令和5年1月31日～4月9日 ミニ展示「モウコガマ」 2月23日～4月23日 テーマ展示「絶滅危惧種 東南アジアの霊長類～奥田達哉写真展～」(～5月12日)、「自由研究展」12月～令和6年1月、干支展示「辰年」令和6年1月、もうひとつの自然史のイラスト	4		

	<p>・干支展示 「辰年」令和6年1月予定ほか</p> <p>イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化する。感染症の蔓延など、実施できない場合には、オンラインコンテンツなどを提供する。また、適宜アンケートなどによる評価を強化する。</p>		<p>トレーション「菌類の掛図」（3月8日～）を開催。また、長居植物園のMAKINO博～牧野博士のふるさと・高知県～（4月3日～12月27日）主催長居植物園、当館は協力も開催した。</p> <p>【令和5年度実績】常設展示入館者数 390,745人</p> <p>イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施した。特別展などの企画と連動し、より深い学びを提供できた。参加者の保護者を対象としたアンケートを実施し、事業にフィードバックすることができた。</p>	
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>独自の展示方法による魅力ある館蔵品の展示を行う。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸等の中から代表的作品を中心に約300点（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示するコレクション展のリニューアル計画案を策定する。</p> <p>イ コレクション展に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20～30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示等について、リニューアル後の計画案を策定する。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器」8月11日～2月6日 ・「福井夫妻コレクション 古丸谷」8月11日～2月6日 <p>※コレクション展と関連したテーマ展示を新たに企画し、文化庁支援事業に申請して採択(5,851千円)され、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁「ARTS for the future! コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」〈大阪市立東洋陶磁美術館コレクション展テーマ展示「加彩婦女俑に魅せられて」〉9月28日～12月26日 	11	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸等の中から代表的作品を中心に約380件（特別展・企画展開催時は規模縮小）をそれぞれ陶磁史の流れやテーマに沿って展示するコレクション展示のリニューアル計画案を策定し、展示を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国宝「油滴天目茶碗」の魅力さをさらに引き出し、その魅力を鑑賞いただける専用の独立ケースを導入した。 ・来館者に分かりやすく、またコレクションや展示品の特徴を示す展示室番号や名称、展示名等の検討を踏まえ更新を行った。 ・作品本来の魅力をさらに引き出せる新たな展示用の紫色励起(れいき)LED照明を導入した。 ・作品解説や説明パネル等の検討を行い、更新した。 ・新たなサイン計画を実現した。 ・特別展・企画展の関連性をもたせる等コレクション展示の魅力を高める検討を踏まえた展覧会を実現した。 <p>イ 安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌（イ・ビョンチャン）コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁等のコレクション展示のリニューアルに向けて検討し、新たな計画案を策定し、実施した。</p>	3
<p>(大阪市立科学館)</p> <p>物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料及び実験装置、観測装置の実物資料の展示、並びに体験型展示を行う(開館日)。展示化が困難な現象やより展示内容を掘り下げた現象について、サイエンスショーを通じて演示する。</p>	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>【令和5年度目標】常設展示入場者20万人</p> <p>ア 実験装置、観測装置の実物資料静展示や体験型展示を設置する。</p> <p>イ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演し、新プログラムを3か月に1本実施する。</p>	11	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>常設展示入場者は234,629人。(4/1～11/5)</p> <p>ア 常設展示場では、実物資料静展示や体験型展示を221点設置しているが、老朽化の激しい展示3点については代替展示を行っている。</p> <p>イ サイエンスショーの演回数は641回。またサイエンスショーの動画16本をYouTubeで公開した。</p>	4
<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>「都市おおさかの歴史」をテーマに展示を行うとともに、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催する(開館日)。</p>	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>【令和5年度目標】常設展示入場者 207,000人</p> <p>【令和3年度実績】常設展示入場者実績 65,167人</p> <p>ア 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた展示、話題性のあるテーマ・内容の展示をおこなうことで常設展示の更新に取り組む。</p>	11	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>訪日外国人旅行者の来館が増加傾向にあり、対目標進捗率は117.5%となった。</p> <p>【令和5年度実績】 243,229人</p> <p>【令和4年度実績】 131,844人</p> <p>ア 常設展示の更新は36件を実施。令和6年1月に</p>	4

	<p>【令和3年度実績】 テーマ展示1回</p> <p>イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。</p> <p>ウ 館蔵資料および市内出土の考古資料を紹介するため、4本の特集展示を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なにこれ？のこうこがく 6月28日～10月2日 ・新発見！なにわの考古学 10月4日～1月8日 ・肖像画展（仮題） 1月10日～3月4日 ・大坂城の石垣関連展（仮題） 3月6日～5月6日 		<p>テーマ展示として「新年と干支」を実施した。</p> <p>イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。音声ガイドについては、展示室のWi-Fi化と並行してクラウド型へ移行し、多言語対応する準備を完了した。</p> <p>ウ 特集展示は5本のうち下記の5本を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新収品お披露目展—令和元年度から令和3年度まで—」令和5年3/23～5/15 ・「ナニコレの考古学」6/28～10/2 ・「新発見！なにわの考古学2023」10/4～令和6年1/8 ・「描かれた人たち—尊崇・憧憬・追憶—」1/10～3/4 ・「再発見！秀吉の大坂城—金箔瓦と家紋瓦—」3/6～5/6（開催中） 		
12 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化	特別展等について、次の方針のもと、利用者ニーズにも配慮した魅力的な企画の実現に努める。		<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：2、歴：4 中：3</p> <p>歴史博物館においては、特別企画展の入館者数が目標数よりも大きく超え、科学館のプラネタリウム観覧者数においても引き続き好調を維持した。</p>	3	
(大阪市立美術館)	国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催する(年3～4回程度)。なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館)	12	(大阪市立美術館)	3
		<p>ア リニューアル後の大規模な特別展に向け、着実に準備を進めて行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル後の特別展に向け、出品交渉を順次進めていき、展覧会の核となる作品を決定し、展示構成の枠組みを策定する。 ・リニューアル後の特別展にかかる作品リスト作成のための交渉を進めるとともに、展覧会の企画テーマを定める。 ・秋の展覧会の企画案を策定し、調査を進めるとともに、マスコミと共催について交渉を行う。 		<p>ア 令和7年度の自主企画による特別展を検討・決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リニューアルオープン記念展」（毎日新聞社共催） <p>出品交渉を順次進めていき、出品予定作品はほぼ確定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本国宝展」（読売新聞社共催） <p>出品希望の9割程度は所蔵者内諾を取得し、広報事業戦略の仕込を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「根来展」 <p>産経新聞社に共催を打診中。東京巡回館は決定しているが、出品交渉継続中。</p>	
(大阪市立自然史博物館)	博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局等と連携して、特別展を開催する(年2～3回程度)。	(大阪市立自然史博物館)	12	(大阪市立自然史博物館)	3
		<p>ア 博物館の自主企画特別展</p> <p>本年度4本の特別展のうち、これまでの調査研究の成果を活かし、関係機関の協力を得て、自主企画展を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「自然史の図」展（仮称） 令和6年1月～ <p>イ マスコミと共催で実施する巡回特別展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「毒」令和5年3月18日～5月28日 読売新聞社、関西テレビ共催 <p>ウ ミュージアムショップ利用者、ワークショップ参加者、特別展見学者アンケート分析をより深く進め、運営の改善を図る。</p>		<p>ア 博物館の自主企画特別展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「自然史のイラストレーション」展を令和6年2月より開催中。 <p>イ マスコミと共催で実施する巡回特別展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「毒」（読売新聞社、関西テレビ共催）、特別展「恐竜博2023」（朝日新聞社、NHK共催）とも計画を上回る入館者数 <p>・収支を達成することが出来た。</p> <p>ウ ミュージアムショップ利用者、ワークショップ参加者、に対するアンケート調査を実施者と協力して行った。特別展見学者に対するアンケートは、混雑の中では難しかったため、マスコミ共済展では電子チケットなどでの購入者アンケート、自然史のイラストレーション展では会場で実施している。</p>	

<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館等と連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が増減することがある。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 大阪・関西万博(2025年)開催時を含めたリニューアル後の特別展等の計画案を策定する。 【令和3年度実績】 「黒田泰蔵」6,766人</p>	12	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 大阪・関西万博(2025年)開催時を含めたリニューアル後のコレクションを最大限活用した特別展等の計画案を策定した。</p>	3	
<p>(大阪市立科学館) プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、定期的にテーマを変え、実施する(開館日)。 小～中規模の企画展を開催する(年1～2回程度)。</p>	<p>(大阪市立科学館) ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、適宜、「学芸員スペシャル」等の特別プログラムを実施する。 【令和5年度目標】 プラネタリウム入場者数 22万人 イ 企画展「プラネタリウムの歴史」(仮称、自主企画)を実施し、発明100周年を迎えるプラネタリウムの紹介を通じて、市民の興味を喚起する。 ウ プラネタリウムや展示等の各種事業において学芸員の専門性を生かして、幅広い層にアピールするプログラムを開発する。 エ 万博連動企画展の準備を進める。</p>	12	<p>(大阪市立科学館) プラネタリウム観覧者数は203,719人。(4/1～11/5) ア 一般投影: 3か月毎に2パターンずつプログラム更新し、840回実施した。 ファミリータイム: 幼児から小学校低学年の子どもとその家族を対象としたプログラムで、280回実施した。 学習投影: 小中学校の天文分野の学習内容に準拠した学校団体専用プログラムで、151回実施した。 その他: 学芸員の専門性を活かしたプログラム「学芸員スペシャル」を72回、小学校の夏休み自由研究向けの特別投影を1回実施した。 イ 企画展「プラネタリウムの歴史と大阪」(8/30～11/5)を実施した。(開催期間中の展示場入場者数35,984人)。その他アトリウム(無料スペース)において以下の期間限定展示を実施している。 ・「蔵出しコレクション展2023」(4/1～5/28) 期間入館者数: 94,407人 ・「カールツァイスⅡ型プラネタリウム天文遺産認定記念展」(4/1～7/17) 期間入館者数: 186,517人 ・「星図展」(8/8～11/5) 期間入場者数: 111,324人 ウ プラネタリウムにおいて、学芸員がそれぞれ企画・制作したプログラムで投影を行う特別プログラム「学芸員スペシャル」を72回実施した(4/1～11/5)。また、サイエンスショーは3か月ごとにプログラムを更新し、153回(4/1～9月末)実施した。 エ 万博をテーマにした特別企画展を令和6年度に開催するための計画を進めている。</p>	2	
<p>(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局等と連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催する(年3～4回程度)。</p>	<p>(大阪歴史博物館) ア 7月以降に特別展示室を改修するため、春季に特別企画展1本を開催する。 ・「異界彷徨」(自主企画) 4月28日～6月26日 開催日数53日 人々が古くから想像し畏怖してきた「異界」について、それまつわる怪異、祈り、生と死などを民俗・考古・絵画・歴史資料等から紹介する。</p>	12	<p>(大阪歴史博物館) ア 下記の自主企画の特別企画展を開催した。 特別企画展「異界彷徨―怪異・祈り・生と死―」 ・入館者数 54,067人(目標15,000人) ・会期 4/28～6/26 開催日数53日 ・特設ランディングページを開設し、ネット広告やSNSを活用した広報を展開し、課題であった新規来館者を開拓した。収入・観覧者数など主要指標は目標を上回った。なお、7月～3月まで展示ケース改修工事のため、特別展・特別企画展は開催しなかった。</p>	4	

<p>(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を、新聞社・テレビ局等と連携して開催する。</p>	<p>(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する展覧会を開催する。 ・開館1周年記念展 デザインに恋したアートに魅了したデザイン 会期：令和5年4月15日～6月18日</p>	12	<p>(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する展覧会をメディア等との連携により開催し、多くの観覧者を迎えた。 会期：令和5年4月15日～6月18日 観覧者数：31,785人(目標：30,000人)</p>	3	
<p>13 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。 踏査や見学会を通じて、実物に接する機会を提供する。 ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。</p>			<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4 中：3、事：3 対面、オンライン、対面・オンライン併用、動画配信など、さまざまな方法で教育・普及事業に取り組むことができた。市立美術館や東洋陶磁美術館では、巡回展を実施し、巡回先の博物館・美術館で講演会を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館) ア 展覧会等の関連事業としての講演会、ギャラリートーク等を開催する。 ・大阪市立美術館巡回展において、講演会を実施する。 イ ウェブサイトやSNSなどを通じてこれまでの講演会やワークショップの動画などを紹介していく。</p>	13	<p>(大阪市立美術館) ア 大阪市立美術館名品展(「美をつくし」展)の記念講演会を巡回先の福島県立美術館で実施した。 イ 「美をつくし」展(熊本会場)子ども向けワークショップ取材をInstagramに投稿した。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。 ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。</p>	13	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施している。 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催し、ハイブリッド方式で配信も行っている。 ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会として、以下のようなシンポジウムを開催した。 地球科学講演会・「地質の日」協賛行事 「日本海拡大時の日本列島の変動—地質と古地磁気の研究からどこまでわかっているか—」5月14日(地学団体研究会) 大阪湾セミナー「大阪湾の自然の変遷と課題」8月13日(大阪府環境農林水産研究所) 和泉葛城山ブナ林 これまでの100年 これからの100年(8月26日)(大阪緑のトラストなど)</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討する。 【令和3年度実績】実会場1回、オンライン4回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャーなどを継続的に実施する。なお、感染症予防対策及び休館中のため、オンラインによる実施に取り組む。 【令和3年度実績】2回(オンライン) ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。</p>	13	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討した。 ※なお、休館中の館外展に併せて泉屋博古館 東京と九州国立博物館で館蔵品の魅力を発信する講演会を行った(計5回)。また、国立故宫博物院南部院区・北部院区で行われた展覧会にて発行された図録(余佩瑾ほか主編『朝鮮王朝與清宮藝術交會』2023年10月、余佩瑾主編『無界之涯 從海出發探索十六世紀東西文化交流』2023年11月)への画像提供・執筆協力を行った。</p>	3	

	<p>【令和3年度実績】 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」をオンライン開催(令和4年3月5日)で行った。</p>		<p>イ 3月1日にYouTubeで配信された「TALK&THINIK」において、学芸員の調査研究の成果を選元するための講演を行った(1名)。 ウ 今年度の韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座については、コレクションや展覧会の理解促進や広報効果を一層図り、韓国陶磁研究のさらなる推進のため、リニューアル後の特別展の期間に展覧会に関連したテーマで実施することとした。</p>		
	<p>(大阪市立科学館) ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。 【令和3年度実績】12件 イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。 【令和3年度実績】サイエンスガイドによる展示解説を実施 ウ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。 エ オンラインによる事業を実施する。</p>	13	<p>(大阪市立科学館) ア 学芸員等による各種実験教室・講座・講演会として、天体観望会(4回)、中之島科学研究所コロキウム(6回)、夏休みの自由研究教室(3回)、会員制のジュニア科学クラブ(5回)を開催した。 【令和4年度実績】15件 イ サイエンスガイドによる展示ガイドを実施したほか、エキストラ実験ショーを58回開催した。 【令和4年度実績】2件 ウ 中之島科学研究所コロキウムを6回実施した。 【令和4年度実績】1件 エ 大阪では見られない部分日食を和歌山県からインターネットで中継するオンライン事業を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連携を図りつつ「なにわ歴博講座」やテーマをもった連続講座を実施する。 【令和3年度実績】なにわ歴博講座6回 イ 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する。 ウ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。 エ 学習情報センターなにわ歴史塾を窓口に、学芸員が利用者の質問等に応える。 オ 学芸員によるオンラインでの講座開催を企画・検討する。</p>	13	<p>(大阪歴史博物館) ア なにわ歴博講座は9月から毎月実施し、計7回、279名の参加者があった。 ・「なにわの日講演会」と連続講演会「極める!難波宮」を計画し、難波宮関連の講演会を7月から計8回開催し、590名の参加者があった。 【令和4年度実績】11回 784名 ・ガイドレンナーを利用した見学会として、10月から考古学入門講座「考古学散歩」、「はじめての歴史散歩」、「おおさか街歩き」、「「大坂の陣」激戦地を歩く」を計13回実施し、198名の参加者があった。 【令和4年度実績】2回 38名 イ 特別企画展「異界彷徨一怪異・祈り・生と死一」 ・講演会 227名、スライドトーク 4回 488名 ・異界'生'通信(Twitterスペース) 2回 202名 特集展示「新発見!なにわの考古学2023」 ・講演会 76名 ウ 「中世大阪の沿海開発と村・城館」(10月)で館長が講演し、見学会「「大坂の陣」激戦地を歩く」(3回)でも案内を担当した。 エ 日常的に利用者の質問に回答している。 オ オンライン講座の検討を進め、既存サービスを活用した下記のイベントを実施した。 ・異界'生'通信(Twitterスペース) 2回 202名</p>	4	

			(再掲)		
	(大阪中之島美術館) ア 大阪市内を中心に学校と連携して学校向けのプログラムを企画・提供を行う。	13	(大阪中之島美術館) ア 学校と連携し、学校団体観覧対応やミニレクチャー等学校向けのプログラムの企画・提供を行った。	3	
	(事務局経営企画課) ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。 【令和3年度実績】学芸員連続講座 Talk & Think16回実施 イ 大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員等が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回程度、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。 【令和3年度実績】 大阪市立大学との連携で1シリーズ(6講演実施)、歴史に関する連続講座を1シリーズ(4講演実施)、近世、近代、近現代までの大坂画壇についてのシンポジウムの実施、理系講演会の実施 ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。 【令和3年度実績】1回	13	(事務局経営企画課) ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を2月13日～3月5日に合計15講座を配信。 イ 大阪公立大学等と連携して以下の事業を実施した。 理系講演会「素粒子と宇宙」：7月29日 歴史に関する連続講座「古代難波宮研究の最前線」：11月(4講演) ミュージアム連続講座「大阪 水辺をめぐる物語」：3月1シリーズ(6講演) 博学連携講演会「森ノ宮には何があった？ー大阪の「ヒガシ」の歴史をさぐるー」：3月2日(8講演)	3	
14 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する。 収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録等のアーカイブ化と公開を促進する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3 各館とも、展覧会ごとに図録を発行し、シリーズ・定期刊行物を発行する等堅実に取り組み、調査研究や博物館の活動の成果を公表することができた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 研究紀要を刊行し、ホームページ上で公開する。 【令和5年度目標】1冊 イ 広報誌『美をつくし』を発行する。 【令和5年度目標】1回	14	(大阪市立美術館) ア 大阪市立美術館紀要24号を発行し、ホームページ上で公開した。内容は、論文1本、研究ノート1本、修理報告1本、研修報告2本 イ 広報誌「美をつくし」(号外198号)を発行した(HP掲載のみ)。 「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」展の令和5年度巡回先である福島県立美術館、熊本県立美術館での実施内容を報告した。両会場の展示室の構造や展示手法の比較、教育普及事業、広報展開の特徴などをレポートした。	3	

	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 研究報告、自然史研究の発行とホームページ上での公開を進める。</p> <p>イ 収蔵資料目録・ミニガイドなどを継続的に発行する。</p> <p>ウ 特別展「博物学と図譜」展の解説書を発行する。</p> <p>エ 友の会発行の月刊誌 Nature Study を12冊監修、編集する。</p> <p>オ 出版社と連携した学術書の発行を検討する。</p> <p>カ SNS (Facebook, Twitter) や YouTube、ブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。</p>	14	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 研究報告、自然史研究を発行したホームページ上での公開を順次進めた</p> <p>イ 収蔵資料目録・展示解説を発行した。</p> <p>ウ 特別展「自然史のイラストレーション」展の解説書を発行した。</p> <p>エ 友の会発行の月刊誌 Nature Study を12冊監修、編集発行した。</p> <p>オ 出版社と連携し「ニッポンの氷河時代」を出版した。</p> <p>カ SNS (Facebook, Twitter) や YouTube、ブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館藏品に関する書籍・図録の制作、監修、発行及びその準備を行う。</p> <p>【令和3年度実績】編集発行2件、編集2件</p> <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。</p> <p>【令和3年度実績】報告書「李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」を印刷・発行。あわせて、同報告書のオンライン開催用カラーPDF版を作成・配布した。</p>	14	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館藏品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売等を行った。</p> <p>編集(編著)3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館藏品図録『李秉昌コレクション韓国陶磁ー純真なる美』のデザイン制作(編集・発行、印刷・発行は翌年度以降) ・泉屋博古館東京展覧会図録「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」展図録(編著、一般書籍) ・九州国立博物館展覧会図録「憧れの東洋陶磁 大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」展図録(編著、一般書籍) <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告については、HPでの発信を目指した見直しならびに公開講座の見直しにより、紙媒体での発行は取りやめることになった。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、ホームページを通じて公開する。</p> <p>イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。</p> <p>【令和3年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。</p> <p>エ 展示解説の動画配信やSNSツールを利用した情報発信を行う。</p> <p>オ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。</p> <p>カ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。</p>	14	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪市立科学館研究報告誌や月刊「うちゅう」等の発行物をHP上で公開し、成果を広く公開している。また、学芸員による研究成果の学会・研究会発表(口頭、論文を含む)を3件行った。</p> <p>イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。</p> <p>【令和4年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 「科学館だより」を2号発行した。</p> <p>【令和4年度実績】4号発行</p> <p>エ HP上で展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」108件を配信している。またX(旧Twitter)では「大阪市立科学館広報」、「学芸員@大阪市立科学館」の2つのアカウント、その他Instagramにて情報発信を行っている。</p> <p>オ ミニブックは18冊を販売している。9月に新たに新刊1冊の刊行を実施した。</p> <p>また、「こよみハンドブック2024-2026」を発行した。</p>	3	

			<p>【令和3年度実績】12冊発行。 カ HP上においては、月刊「うちゅう」や研究報告誌等のオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。</p>		
	<p>(大阪歴史博物館) ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する。 【令和3年度実績】 「大阪歴史博物館研究紀要」第号 イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を発行する。 【令和3年度実績】 「共同研究報告書」第16号、「大阪歴史博物館館蔵資料集」第18号 ウ 年報の作成およびホームページ上での公開をし、館の活動を公開する。 エ 開催する特別企画展のリーフレットを作成する。 【令和3年度実績】 2本の特別展において、それぞれ図録、参考図書を作成。 オ 特集展示リーフレットの印刷・配布方法を見し、ホームページでPDFを公開する。 【令和3年度実績】 6本の特集展示において作成した。</p>	14	<p>(大阪歴史博物館) ア 研究紀要第22号を発行した。データは総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」で公開予定である。 【令和4年度実績】 研究紀要 第21ア 研究紀要第22号を発行した。データは総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」で公開予定である。 【令和4年度実績】 研究紀要 第21号 イ 共同研究報告書と館蔵資料集の発行計画を見直し、隔年ごとに交互に制作することとした。よって今年度は館蔵資料集19「興上清雅」を発行した。 【令和4年度実績】 共同研究報告書、館蔵資料集とも館の運営状況に鑑み作成を見送った ウ 令和4年度年報を10月に発行、ホームページでも掲載した。 【令和4年度実績】 「大阪歴史博物館年報」令和3年度を発行、ホームページに掲載 エ 特別企画展「異界彷徨」では、概要を紹介するリーフレットおよびコーナー解説シートを作成・無料配布した。 【令和4年度実績】 1本の特別展で図録を作成した。 オ 開催した5本の特集展示でリーフレットを作成し、幅広く周知するためホームページでPDF公開を実施した。 【令和4年度実績】 開催した6本の特集展示において作成・配布した。</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイト等を通じて開する。 イ 特別展の図録を作成・販売する。</p>	14	<p>(大阪中之島美術館) ア ウェブサイトにて調査研究成果を発信するとともに、大阪中之島美術館YouTubeチャンネルや外部機関によるYouTubeチャンネルによりトークイベントのアーカイブ配信をした。 イ 8本の特別展において図録を作成・販売した。</p>	3	
<p>15 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用 博物館等資料の公開と認知度の向上を図るため、他館への貸し出し等を行う。 博物館等資料の館外研究者への特別研究や、図書等の貸出しの対応を行う。 他の施設に対して、展覧会企画やプラネタリウム番組の配給を行う。 企画展や特別展等の充実のため、他館資料を借用し、有効活用する。</p>			<p>(機構の評価) 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3 中：3 各館とも計画通りに博物館等資料の貸し出し等を実施した。特に、休館中の市立美術館で7件330点、東洋陶磁美術館で7回約255件を貸し出し、収蔵資料の公開に務めた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館) ア 令和7年度までは改修期間となるため、通常の</p>	15	<p>(大阪市立美術館) ア 貸出：7件 330点</p>	3	

	<p>作品の貸借は原則として行わないが、館蔵作品の活用の観点から、昨年度に引き続き、大阪市立美術館の名品展を巡回させる。5「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」 福島県立美術館 令和5年3月～5月 熊本県立美術館 令和5年9月～11月 【貸出予定作品数】 約150件 6)</p>		<p>大阪市立美術館名品展（「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」） 福島県立美術館 172点 熊本県立美術館 149点 その他：9点（寄託品）</p>		
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。</p>	15	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努めた。コウホネレプリカを岐阜県率博物館に貸し出し、生痕化石及び生痕標本を地質標本館に貸出した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。なお、休館期間を利用して、当館の安宅コレクションをはじめとした主要作品の貸出による大規模な特別展2本を他館との共催により開催する。 ・泉屋博古館東京：特別展「大阪市立東洋陶磁美術館所蔵 安宅コレクション名品選101」（令和5年3月18日～5月21日、101件） ・九州国立博物館：特別展「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」（7月11日～9月3日、88件） 【令和3年度実績】 貸出件数6回、貸出作品数計151件 イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の博物館・美術館等の所蔵品の借用について準備を行う。 【令和3年度実績】 ・柳原睦夫展：国内個人コレクター等所蔵作品 ・古九谷展：国内個人コレクター所蔵作品</p>	15	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の著名美術館とのこれまでの深い友好・信頼関係のもと、国宝・重要文化財なども含めた重要な作品を特別協力と題して展覧会へ多数出品し、国内外の人々に当館コレクションの魅力を大きくアピールすることができた。国内展としては、泉屋博古館東京の特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」では安宅コレクションの特別展を実現し、東京を中心に当館とそのコレクションのすばらしさをアピールすることができた。九州国立博物館での特別展「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」では国宝や重要文化財を含む当館主要コレクション88点を出品したもので、九州国立博物館所蔵の重要文化財「油滴天目」との競艶など見どころも多く、九州地区をはじめ西日本での当館とコレクションの知名度向上に大きく貢献することができた。海外展としては、韓国Leeum美術館や姉妹館関係にある台湾の國立故宮博物院での展覧会への特別協力出品を通して館蔵品の国際的な魅力発信を実現した。とりわけ、韓国Leeumの展覧会は韓国国内では若い人を含め多くの来場者を迎えた画期的な展覧会となり、会期中岸田総理の訪韓に併せて尹大統領夫人が岸田総理夫人を案内し、当館作品の前での解説や撮影などを通して全世界に発信され、日韓文化交流の象徴として大きく注目された点は特筆される。 イ 特別展などの開催に際して、必要不可欠な国内外の博物館・美術館等の所蔵品の借用について準備を行った。 ・貸出件数7回、貸出作品数計約255件（うち海外42件） ・韓国Leeum美術館、「朝鮮の白磁、君子志向」（特別協力）22件 ・泉屋博古館東京、特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」（共催）101件 ・中之島美術館「デザインに恋したアート♡ア</p>	4	

			トに嫉妬したデザイン」1件 ・九州国立博物館「憧れの東洋陶磁 大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」88件 ・九州国立博物館「うるわしき祈りの美一高麗・朝鮮時代の美術」1件 ・台湾・國立故宮博物院南院「朝鮮王朝と清朝宮廷の芸術めぐりあい」35件 ・台湾・國立故宮博物院北院「16世紀の大航海時代における文化と芸術」7件		
	(大阪市立科学館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料、展示物の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。 【令和3年度実績】3件 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。 【令和3年度実績】8件	15	(大阪市立科学館) ア 展示物貸出実績は1件、資料貸出は1件。 【令和4年度実績】2件 イ プラネタリウム番組は、18件に配給した。 【令和4年度実績】26件配給	3	
	(大阪歴史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、継続して各館への資料の貸し出しおよび借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。 【令和3年度実績】貸出21件114点 イ 常設展は国指定重要文化財長原古墳群の出土資料等、文化庁や大阪市教育委員会等から年間借用を実施し、展示の充実に図る。特別企画展についても、大阪市教育委員会から出土品の借用を行い、企画内容の充実に図る。	15	(大阪歴史博物館) ア 他館から展覧会のため借用申請を受けた資料については15件47点を許可した。 【令和4年度実績】貸出21件 108点 イ 国指定重要文化財長原古墳群の出土資料など、常設展示に活用できる考古資料については、文化庁や大阪市教育委員会などから年間借用を実施し、展示の充実に図った。	3	
	(大阪中之島美術館) 企画展のために外部から作品資料を借用する。	15	(大阪中之島美術館) 企画展の充実にために、積極的に外部から作品資料を借用した。	3	
16 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 法人の複数館が連携・協働した企画展・特別展を開催する。 定期的な刊行物を通じて、法人各館の情報を一元的に発信する。 法人の複数館が共同して外部資金等の獲得し、総合的な調査研究を実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：4 各館とも機構内の博物館の資料の貸し借りや、事業の共同実施、共同で研修を行う等、連携を図り、それぞれの強みを生かしながら、より良い事業を実施することができた。 また、文化庁 Innovate MUSEUM 事業（補助金）を獲得し、機構全体を横断する各館の収蔵品のデータベースを作成し、公開した。		
	(大阪市立美術館) ア 改修期間中、館蔵品の一部を大阪中之島美術館に保管するとともに、同館学芸員との共同作品調査や、同館開催の展覧会での活用をめざす。 イ 大阪博（仮称）開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成に着手する。	16	(大阪市立美術館) ア 大阪中之島美術館 「大阪の日本画展」8点出品 「女性画家たちの大阪」12点出品 イ 「大阪の宝」サイト上で、所蔵名品20点の基本情報、画像を公開中、また「デジタル大阪ミュージアムズ」に所蔵作品データベースのテキストデータを提供、公開中	3	

	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の収蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。</p> <p>イ 将来の特別展示などの企画、及び常設展示の更新につながる共同研究を模索する。</p> <p>ウ 科学研究費に関連して、職員向け研修を機構内に公開して実施する。</p> <p>エ 市民向け共同事業の開催 科学館と協力して「ジオカーニバル」を実施する。</p> <p>オ 大阪博（仮称）開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成に着手する。</p>	16	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 科学館に貝標本を貸し出した。</p> <p>イ RISETX 事業によるSDGsの展示を試行した。</p> <p>ウ 今年度も研究倫理研修を企画実施、機構内に公開した。</p> <p>エ 科学館と共催してジオカーニバル（11/4～5）を実施した。</p> <p>オ 大阪博（仮称）開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 大阪中之島美術館や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、国立国際美術館やこども本の森 中之島など中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を行う。</p> <p>イ 文化庁補助金等、国の補助金について各館とともに獲得に務める。</p> <p>ウ 万博PT会議に参加し、万博に向けた取り組みの検討と計画案を策定する。</p> <p>エ 大阪博（仮称）開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成に着手する。</p>	16	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 大阪中之島美術館や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を行った。</p> <p>イ 文化庁補助金等、国の補助金について各館とともに獲得に務め、日本博補助金申請が採択された。</p> <p>ウ 機構の万博PT会議に参加し、万博に向けた取り組みの検討と計画案を策定した。（2万博）</p> <p>エ 大阪博開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成・公開を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 自然史博物館と協力して、こどものためのジオカーニバルを実施する。</p> <p>イ 東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。</p> <p>ウ 大阪博（仮称）開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成に着手する。</p>	16	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 「こどものためのジオ・カーニバル」は11/4～5に自然史博物館で開催し、およそ3000名の参加があった。大阪市立科学館は運営全般を協力したほか、科学館友の会有志とともに望遠鏡観察のコーナーを出展し、コーナー参加者は500名であった。</p> <p>イ クリエイティブアイランド中之島では、実行委員会や企画チーム会議に参加しているほか、同プロジェクトのホームページに随時情報を提供している。</p> <p>ウ 大阪博の開催に向け、「大阪の宝」の選定データベース化のための準備を行い、「大阪博」のホームページで10点の写真を掲載した</p>	3	

	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別企画展等のポスターを掲出する。</p> <p>イ 各館と連携した展示や共同研究の企画を模索する。</p> <p>ウ 各館と共に博物館を対象とする文化庁補助金等獲得に努める。</p> <p>エ 大阪博（仮称）開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成に着手する。</p>	16	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア あべのハルカスの掲示スペースに美術館と共同で広報を実施した。</p> <p>イ マスコミ事業部との展覧会企画で機構内の連携を模索した。</p> <p>ウ 文化庁補助金（令和5年度Innovate Museum事業（地域課題対応支援事業））に機構各館とともに中核館として参画し、「大阪博」開催に向け、各館が所蔵する作品をその来歴等を含めてWEB上で紹介する「収蔵品データベース」の作成に着手した。</p> <p>エ 上記ウと同じ。</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 他館の学芸員と協力して調査・研究を進め、展覧会でその成果を広く公開する。</p>	16	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 機構内外との学芸員と協力して、調査研究を進めた。</p>	3	
	<p>(事務局)</p> <p>ア 展示・収蔵環境、オンライン発信の整備等の各館に共通する課題について、情報・意見交換の場、研修を主催し、課題の改善に取り組む。</p> <p>・情報化ネットワークに関する検討を行う。</p> <p>イ 収蔵資料貸借による展示の充実、共同研究、地域イベントへの参画など連携・協業を通じて、事業内容の向上に取り組む。</p> <p>・自然史博物館と大阪歴史博物館学芸員などによる「教員のための博物館の日」の実施。</p> <p>・自然史博物館と科学館が連携し、「こどものためのジオカーニバル」を実施する。</p> <p>・東洋陶磁美術館、科学館、大阪中之島美術館の「クリエイティブアイランド中之島」への参画による、クリエイティブコンテンツの開発・創出。</p> <p>ウ 共同広報、連続講座、講演会の開催を主催し、各館、機構のPRに取り組む。</p> <p>・インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載する。</p> <p>・Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。</p> <p>・各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を4回発行する。</p> <p>エ 大阪博（仮称）開催に向け、各館が所蔵する作品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「収蔵品データベース」の作成に着手する。</p> <p>【令和3年度実績】Osaka Museums 4回発行</p> <p>・各館の概要を案内する「総合案内パンフレット」（多言語）の内容変更等を検討する。</p> <p>・各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。</p> <p>・大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ（6講演）、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催す</p>	16	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア Innovate MUSEUM事業で博物館のDXの研修を2回実施（1月15日、2月15日）</p> <p>イ 自然史博物館（8月4日）と大阪歴史博物館（8月7日）において、学芸員等による「教員のための博物館の日」を実施した。</p> <p>・自然史博物館において、科学館と連携し、「ジオ・カーニバル」を実施した。（11月4日5日）</p> <p>・東洋陶磁と科学館、中之島美術館が「クリエイティブアイランド中之島」へ参画し、コンテンツの開発・創出に取り組み、共同広報にも参加した。</p> <p>ウ ポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で運営し、継続的に展覧会情報等を掲載した。「大阪博」のwebサイトを1月15日に公開し、展覧会情報等各館・機構のPRに取り組んだ。</p> <p>・TwitterやFacebookといったSNSによる展覧会情報等、6館一体となった情報を発信した。</p> <p>・各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「OSAKA MUSEUMS」を4回発行し、デジタルブック化した。</p> <p>エ 大阪博開催に向け、各館の所蔵品を、その来歴等を含めてデータ上で紹介する「デジタル大阪ミュージアムズ」の作成に着手し、2月20日に公開した。</p>	4	

	<p>る。状況に応じて、オンライン配信の取り組みを行う。ア 展示・収蔵環境、オンライン発信の整備等の各館に共通する課題について、情報・意見交換の場、研修を主催し、課題の改善に取り組む。</p> <p>・情報化ネットワークに関する検討を行う。</p>			
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 17 ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進</p> <p>博物館等資料や図書等のデータベース化を図る。博物館等資料のアーカイブ化とその公開と活用方法を検討する。</p>			<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3</p> <p>各館とも計画通りに館蔵資料の3Dモデルなどのデジタル化、アーカイブ化を進めた。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館) ア 再開館時をめざしてアーカイブ化を図るために、本年度はその基本情報を集約して来年度以降の計画を立てる。</p>	17	<p>(大阪市立美術館) ア 来年度以降の計画について計画策定を進めた。また、所蔵作品全点の基礎データ(名称・数量・年代等)のテキストをデータベースプラットフォーム(早稲田システム)へ入力し、「デジタル大阪ミュージアムズ」に所蔵作品データベースのテキストデータを提供、公開を実施し、合わせて来年度の予定として、現在撮影済の画像のアップロードを進め、データベースに関わるワークフローチャートを完成させる計画を立てた。さらに、来年10月頃以降にデータベースの一般公開も予定している。</p>	3
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 標本資料、自然科学関連の画像・映像資料、絵画資料について科学研究費などを活用したデジタル化を進め、アーカイブの形成を図る。デジタル化のさらなる加速に向けて検討を行う。講演やシンポジウムもYouTubeなどを活用してアーカイブ化を図り、公開する。 イ 標本情報について、Science-Museum Net、GBIFなどを通じた継続的な公開を進める。 ウ 図書情報について、大阪市立中央図書館などとの共有による活用促進に向けた準備を進める。 エ 研究報告などの研究成果をリポジトリによりインターネット公開を進める。</p>	17	<p>(大阪市立自然史博物館) ア デジタルコンテンツの追加は順調に行っている。ハイブリッド実施による講演会関連動画60本を公開(限定公開、公開停止済みを含む)。標本撮影スタジオも順調に稼働中。 イ Science Museum Netで公開する標本データを追加した。 ウ 図書情報の整理を進めている。 エ リポジトリのバージョンアップに対応し公開を強めた。</p>	3
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。 【令和3年度実績】 20件(中国陶磁9件、日本陶磁9件、絵画1件、その他資料1件) イ 館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化を進める。(「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトを活用し継続的に公開を行う)。 【令和3年度実績】 館蔵品のデジタル画像20件を追加撮影し、オープンデータサイトで公開した。</p>	17	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 新規資料撮影については、収蔵品データベースへのアーカイブ化を進めている。74件(中国陶磁3件、韓国陶磁5件、陶片資料66件) イ 既存撮影画像については収蔵品データベースに登録を行った。8件(中国陶磁3件、韓国陶磁5件)</p>	3

	(大阪市立科学館) ア 館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を行うとともに、広報や画像提供サービスに利用する。 イ 科学館天文台等から星空や天体の様子のリアルタイム画像配信を行う。	17	(大阪市立科学館) ア 館蔵品11点のデジタル撮影を行い、うち10点を「大阪博」のホームページで公開した。その他、既存のデジタルデータを広報や画像提供サービスに利用している。 イ 4/20に、大阪から見られない部分日食を、和歌山県からリアルタイム画像配信を行う事業を実施した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。	17	(大阪歴史博物館) ア 新規に館蔵資料撮影を実施し(No. 3に記載)、新規撮影の画像データを統合データベースへ登録予定。 ・3次元データから作成した考古資料・民俗資料の3Dモデルを外部の閲覧サイトSketchfabで公開中(25点)。 ・「大阪博」関連の統合データベースに参加し、館蔵品データと登録用の画像を新規に2件撮影・デジタルスキャンした。 ・新規寄贈・購入の図書(No. 3に記載)についても、図書データベースへの登録作業を随時行った。	3	
	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。 イ アーカイブズ情報室において、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。 ウ 作品資料の撮影を行う。 ・未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。	17	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して実施した。 開室日：87日間 予約閲覧利用者：15名 レファレンス対応：23件 収蔵資料(情報公開)：公開75件 収蔵図書(OPAC)：図書登録 一般書 9,876冊 雑誌 8,612冊(456タイトル) デジタルコンテンツ：公開資料数 5,180件 イ アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理・配架を進めた。 ウ 作品資料の撮影。 ・美術館にて大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施した。 ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図った。	3	
18 他 の 博 物 館 等 関 係 機 関 と の 支 援 及 び 協 働 を 通 じ た 資 源 の 保 全 及 び 効 果 的 な 活 用 災害時において関係館との連携を図り、博物館等資料の保全に努める。 他館の博物館等資料に関する情報の共有と相互利用を推進する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3 事：3 各館とも計画通りに、国内や海外の博物館等と協力・連携を図り、情報の共有を推進した。休館中の市立美術館や東洋陶磁美術館においても、国内外の博物館への館蔵品の貸し出しと、学術交流を行った。	3	
	(大阪市立美術館) ア 令和7年度までは改修期間となるため、通常の作品の貸借は原則として行わないが、館蔵作品の活用の観点から、昨年度に引き続き、大阪市立美術	18	(大阪市立美術館) ア 大阪市立美術館名品展(「美をつくし」展) 福島県立美術館 172点 熊本県立技術館 149点	3	

	<p>館の名品展を巡回させる。 「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」 福島県立美術館 令和5年3月～5月 熊本県立美術館 令和5年9月～11月 【貸出予定作品数】 約150件 イ 改修期間中、館蔵品の一部を大阪中之島美術館 および京都国立博物館において保全を図るととも に、同館学芸員との共同作品調査や、同館開催の 展覧会での活用をめざす。館蔵品・寄託品の一部 を大阪歴史博物館において保全を図る。</p>		
<p>(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立中央図書館、及び各区の図書館などで の巡回展示などを実施する。 イ 資料の保存状況や目的や手法を鑑みながら、研 究目的での資料の相互貸借を行い、資料の研究を 進め、学術的な価値の向上に努める。 ウ 大阪市理科系博物館連携クラスターに基づいた 大阪大学との研究交流を進める。 エ 西日本自然史系博物館ネットワークとの協働、 文化遺産防災ネットワークとの資料保全のための 協働を進める。</p>	<p>18</p>	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 毒展に関連した展示を実施した。また、自然史 のイラストレーション展に関連した図書館展示及 び地域館巡回展示を実施した。 イ 自然史のイラストレーション展に関連し、東大 の新資料などを紹介した。研究目的の資料貸借も 進んでいる。 ウ 大阪大学の要望がなく、進展がない。 エ 来年度に向けて自然史資料保全のための国際会 議および研修の企画が進んでいる。</p>	<p>3</p>

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 国内外の博物館・美術館等との協力により、休館中の館蔵品の効果的な活用を図る。</p> <p>イ 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを通して館蔵品の保全及び効果的な活用を図る。</p> <p>【令和3年度実績】5件（国内2件、台北故宮1件、韓国2件）</p>	18	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 当館所蔵の国宝や重要文化財をはじめとした主要作品を国内外の美術館・博物館へ、共催や特別協力の展覧会へ出品し、効果的な活用を図ることができた。また、作品の保全については各館と十分な協議と対策を行い、安全に実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国Leeum美術館と朝鮮白磁について学術交流を行い、「朝鮮の白磁、君子志向」展に館蔵品22件を出品した。 ・泉屋博古館東京との共催の特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」を開催し、安宅コレクション101点を展示した。 ・中之島美術館「デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン」展に黒田泰蔵作品を1件貸出した。 ・九州国立博物館との共催の特別展「うるわしき祈りの美—高麗・朝鮮時代の美術」を開催し、安宅コレクションをはじめとする88点を展示した。その後の特集展示「うるわしき祈りの美—高麗・朝鮮時代の美術」に1件を貸出した。 ・相互協力（姉妹館）提携のある台北・國立故宮博物院南院の「朝鮮王朝と清朝宮廷の芸術のめぐりあい」に特別協力として、館蔵品35件を出品し、展示や講演、関連普及事業等に協力した。また、北院の「16世紀の大航海時代における文化と芸術」には7件を出品した。 <p>イ 相互協力提携関係（姉妹館）にある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台北 國立故宮博物院での美術品の取り扱いに関する研修に当館の学芸員が講師として参加し、陶磁器の取り扱いに関する講義をするとともに、参集の専門家、職員らとの意見交換、学術交流を行った。 ・九州国立博物館での展覧会出品に併せて館蔵品3点についてCT調査を中心とした共同調査を実施し、その成果についても今後公表する予定である。” 	4	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。</p> <p>イ 气象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。</p> <p>ウ 全国理工系学芸員会議や日本ブラネタリウム協議会をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有と協働を行う。</p> <p>エ 中之島科学研究所事業やその人脈を通じて、調査研究や事業の質の向上を図る。</p>	18	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪公立大学と共催で講演会を1件実施した。また、大阪大学と連携し、常設展示場の博学連携コーナーで展示を行った。</p> <p>イ 大阪管区气象台、日本気象予報士会関西支部、電気学会関西支部、日本コンクリート工学会近畿支部ほかと連携した講座・教室を5件実施した。</p> <p>ウ 日本ブラネタリウム協議会の総会・大会へ参加したほか、同会が実施しているブラネタリウム100周年事業へ参画している。</p> <p>エ 中之島科学研究所コロキウムを6回実施し、外部の研究者と研究交流や議論を行った。</p>	3	

	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 共同研究における外部研究者との研究を行う。 【令和3年度実績】 共同研究2本</p> <p>イ 大阪市文化財協会が調査した埋蔵文化財資料の展示や、速報性を重視した年2～3回のパネル展を実施する。</p> <p>ウ 東京都江戸東京博物館との共同研究を継続実施する。</p> <p>エ コロナ禍の状況を勘案しつつ、韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流を行い、韓国・漢城百済博物館との交流について検討を進める。</p>	18	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 共同研究は令和5年度は3件を実施し、外部研究員との研究会や調査等を実施した。共同研究の内1本は大阪市文化財協会と連携している。 【令和4年度実績】 共同研究3件</p> <p>イ 大阪市文化財協会の調査成果を紹介するポスター展を3回実施した。また共催で特集展示「新発見！なにわの考古学2023」を開催し、設展示10階では特設コーナー展示を行った。</p> <p>ウ 東京都江戸東京博物館と連携した基礎研究は継続しているが、先方が大規模展示改修のため活動を休止している。</p> <p>エ 韓国・国立大邱博物館との交流はコロナ禍以来進展していない。漢城百済博物館とは交流を検討中である。ソウル歴史博物館とは2025年度開催予定の展覧会に館藏品貸出しについて協議を開始した。中国・上海万博博物館とは2025年以降の交流を検討中である。</p> <p>オ 全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、幹事館を務めるとともに各種情報交換を行い、また被災文化財レスキューへの協力体制に参画した。</p> <p>カ 日本博物館協会の被災博物館復興支援事業の担当者登録により、文化財レスキュー情報を収集した。</p>	3	
	<p>(事務局)</p> <p>ア 大阪公立大学との包括連携協定に基づき、共同の調査・研究、キャンパスメンバーズ制度や博物館学・実習の援助等の学生支援、講座開催等の社会貢献を行う。 【令和3年度実績】 大阪市立大学博物館学講座において「保存論」「展示論」「経営論」の3講座を実施</p> <p>イ 大阪市文化財協会との包括連携協定に基づき、共同の調査・研究、展示、普及事業等を実施する。</p> <p>ウ 大阪商工会議所と包括連携協定を締結し、大阪の地域活性化に資する事業を展開する。</p>	18	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 令和4年度に引き続き協定を締結し、キャンパスメンバーズ制度への継続加入、博物館学講座(保存論、展示論、経営論の3授業)への出講を行った。また、シンポジウム、ミュージアム連続講座等、共同開催を実施した。</p> <p>イ 大阪市文化財協会と連携し、以下の共同の調査、研究、展示、普及事業等を実施した。 ・歴史に関する連続講座「古代難波宮研究の最前線」：11月(4講演) ・ミュージアム連続講座「大阪 水辺をめぐる物語」：3月(6講演) ・博学連携講演会「森ノ宮には何があった？—大阪の「ヒガシ」の歴史をさぐる—」：3月2日(8講演)</p> <p>ウ 大阪商工会議所と包括連携協定を締結し(4月21日)、包括連携協定記念講演会(5月25日)を実施。大阪の地域活性化に資する事業として「なにわなんでも大阪チャレンジ」を共同実施した。</p>	3	
<p>19 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施</p> <p>各館の活用と魅力の発信に向けたユニークベニュー等を計画・実施する。 文化財指定された建物等の有効活用を促進する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、科：3、歴：3、中：4</p> <p>各館の建物や付帯施設を活用し、幅広い事業を行った。特に中之島美術館ではPFI事業者がユニークベニューを積極的に推進したほか、自然史博物館では、催事においてポーチやナウマンホールを活用した。</p>	3	

	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 「生きた建築ミュージアム フェスティバル (イケフェス大阪2023)」に参加して10月に改修工事期間中の美術館ガイドツアーを実施する。</p> <p>イ 大阪産業局などとの連携により「デジタル美術部」の取り組みを実施する。</p>	19	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 「生きた建築ミュージアム フェスティバル (イケフェス大阪)」の参加打診があり、大規模改修工事を請け負っている建設会社と改修工事期間中の美術館ガイドツアーを検討したが、危険が伴う可能性が高いため、安全を重視し、不参加を決定した。オープン以降には参画を計画する。</p> <p>イ 地下展会場でワークショップなどを開催する予定でしたが、後に10月～3月に工事が入ることが判明し、また大阪産業局の補助金が対象外となったことも合わせて開催中止としたが、美術研究所の新しい取り組みとして『子供から社会人まで、美術に親しむ方』を対象としたコースを設けることとした。加えて、民間連携講座も誘致することとし、3F「ワークルーム」などを活用した多様な企画を実施する方針を立てた。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 大阪市との調整が完了次第、学術関連催事を中心に、ポーチ（クジラ展示下）及びナウマンホールなどを活用したユニークベニュー事業に取り組む。</p>	19	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア ポーチについてホネホネサミット及び大阪自然史フェスティバルでの活用を実施。催事に関連したナウマンホールのイベント活用も実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア ブラネタリウム等を活用したイベントを実施することにより、需要創出を図る。</p>	19	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 夜間にブラネタリウムを利用した事業「スペシャルナイト」を2回実施した。2回の観覧者合計は、347名。また、平日限定で午後のブラネタリウム観覧券の2回目購入を2割引とするキャンペーン、「七夕・プラす1 キャンペーン」を7月4～28日に、「オータム・プラす1」を9月5日～11月2日に実施し、ブラネタリウムの観覧者の誘客に努めた結果、7月時は193枚、9～11月時は331枚購入された。また本件に関するポスターを製作・掲示した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアー等を実施する。</p>	19	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 難波宮遺跡探訪は1日1回・定員減で実施し、参加者は1,079人である（復元倉庫公開は中止）。</p> <p>【令和4年度実績】 難波宮遺跡探訪 663人(5/11～3/31)</p> <p>イ 令和3年度から継続中のリアル歴史巡礼クイズ「五代友厚と歩く幕末・明治の大阪」は累計464セットを販売し、10/30で終了した。</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 各種のトークイベント、シンポジウム等の事業を展開する。</p>	19	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア トークイベント、シンポジウムをはじめユニークベニュー事業を積極的に推進・実施した。</p>	4	

中期目標	1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」
	(3) 戦略的広報の展開 時機及びニーズを捉えた戦略的な広報活動を展開することを通じて、大阪における文化資源の蓄積及び各館の活動の成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信する <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 ・ マスメディア等への積極的な情報発信 ・ 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 ・ 生涯学習に関する施設その他の博物館等に関連する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 ・ 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・ 評価のコメント	評価
(3) 戦略的広報の展開						
大阪における文化資源の蓄積及び成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信するため、次の通り、時宜やニーズを捉えた戦略的な広報の展開を目指す。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 20 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 紙・マスメディア・SNS等各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。 最適な時期や場所を逃さない情報発信を行う。 外国人観光客の動向に応じた情報発信を行う。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 各館とも紙媒体・SNS等各種媒体の特性を生かし、情報発信を計画通りに進めた。	3		
	(大阪市立美術館) ア 美術館ウェブサイトや外部情報発信サイトなどでの情報発信を行う。 イ SNSでの情報発信を行う。 ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。 エ 美術館のリニューアルにあわせてウェブサイトリニューアルを実施する。(令和5～6年度)	20	(大阪市立美術館) ア ウェブサイト 535,117pv / 月平均 48,647pv イ SNS Xフォロワー数：4,323 投稿数5回 Instagramフォロワー数：4,207 投稿数4回 ウ 広報誌「美をつくし」(号外=198号)を発行(HP掲載)内容は「美をつくし」展巡回二会場(福島・熊本)の実施内容報告 エ 令和6年度に一部改修を実施する	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア ホームページ、Facebook、Twitter などの情報発信を継続して行う。特にYouTube, おうちミュージアムなどと連携した取り組みの発信を強化する。 イ インターネット広告、学校向け案内など多様な手段を用いて広報を実施する。 ウ 特別展などにおいて、テーマに相応しいイラストレーターやデザイナーの起用した魅力的なチラシ・ポスターの作成に努める。同時に、Web やグッズなどへの展開による効果的な特別展イメージ訴求に努める。	20	(大阪市立自然史博物館) ア オフィシャルアカウントはTwitterフォロワー数13,413人、Facebook 2,889人、Instagram 2,666人がフォローしている。伸びは鈍化している。特別展専用のアカウント、混雑状況の告知も運用し、一部情報を連携させた。YouTubeコンテンツも新規に追加し令和5年4月以降だけで10.1万回再生、総再生時間9886時間、YouTubeチャンネル登録者4,516人と成長している。 イ インターネット広告を試みたほか毒展や恐竜展では、新たな利用者の獲得につながる試みを試みてみた。 ウ 自然史のイラストレーション展では所蔵するイ	3		

			メージ素材を活用し、グッズ開発も行った。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア ホームページ(4ヶ国語対応、スマホ対応)、館案内パンフレット(5ヶ国語)、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTubeなどにより効果的な情報発信を継続して行う。 【令和3年度実績】 ・収蔵品画像オープンデータサイトのコンテンツ拡充 ・Instagram 投稿回数109件 ・テーマ展デジタル冊子発行・プレス資料用冊子 イ ジャパンサーチ、グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。 【令和3年度実績】5件	20	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア HP(展覧会概要を含む4ヶ国語スマホ対応)ポスター、チラシの印刷物のデザインや、ウェブでの多様な対応のためのデザインを進めた。国内外の関連雑誌、Instagram等により情報発信を継続して行った。また、YouTubeでの展観のためショート動画の配信計画を準備した。 ・Instagram投稿回数50件(4月-3月)フォロワー6,690人(4月1日より1,155人増) イ ジャパンサーチ、グーグル・アートなど各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行った。 ウ 次年度展覧会の広報の一環として、作品5件のショート映像の撮影を行い、SNSで発信する新たな広報戦略を準備し、実施した。	3	
	(大阪市立科学館) ア ホームページ、Twitter、YouTube、Instagram、チラシ等を利用した情報発信を行う。 【令和3年度実績】YouTube 動画公開数108件 イ 3カ月ごとに広報紙「科学館だより」を発行する。 ウ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。	20	(大阪市立科学館) ア HPでは、各種情報のほか、月刊「うちゅう」や研究報告誌等出版物や研究成果のオンライン発信、学芸員のページの設置を通じ、積極的な情報発信をしている。 ・YouTube上では、展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」108件の他、科学実験動画、天文学習用動画、サイエンスショー動画配信等も行った。 ・SNSでは、InstagramとX(旧Twitter)で情報発信している。Xでは「大阪市立科学館広報」と「学芸員@大阪市立科学館」のアカウントを開設している。 イ 「科学館だより」を2回発行した。 ウ 月刊「うちゅう」4~3月号を計12冊発行した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア ホームページ、Twitterで情報発信を行うとともに、令和4年度より開始したInstagramによる情報発信も継続する。 【令和3年度実績】ツイート数 919件 イ 公式YouTubeチャンネルで学芸員等による紹介動画を公開する。 ウ 事業に応じて特設のランディングページ(LP)を設け、発信力を高める。 エ 谷町四丁目駅での掲示板の効果的な活用を図る。	20	(大阪歴史博物館) ア 公式X(旧Twitter)で特別企画展・特集展示や常設展示の紹介を積極的に行った(ポスト(ツイート)数396件)。フォロワー数は11,281名。リアル歴史巡礼クイズは別アカウントによりツイートした。 【令和4年度実績】ツイート数 825件 ・令和4年度に開設した公式Instagramでは、常設展示、特別企画展、普及事業の魅力を動画を含めた画像でアピールした。(Instagram投稿数262件) イ 公式YouTubeチャンネルには、特別企画展の関連動画、「しげしげレキハク」、大阪の雑煮づくりや風づくりと風あげ、貸室案内動画を8本アップした。 ウ 特別企画展「異界彷徨」やリアル歴史巡礼クイズ+Q164ズでは、特設ランディングページ(LP)を設けて情報発信した。 エ 谷町四丁目駅において、構内掲示板で特別企画展・特集展示の広報を実施した。	3	

	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイトやSNS等を継続的かつ効果的に更新する。 イ 国内外のメディア、ネットワークに向けた発信を行う。	20	(大阪中之島美術館) ア 引き続き、Twitter、Facebook、Instagramアカウント、YouTubeチャンネルにて、継続的に情報発信を行った。 イ 美術専門誌、電波、新聞、交通広告、バナー等ターゲットごとにきめ細かく広告を掲出した。また、多くのメディアに取り上げられたことで、効果的な広報が実施できた。 【参考】令和4年度実績 Twitter 投稿数：301、フォロワー：5,063 Instagram 投稿数：88、フォロワー：9,561 YouTube 総再生回数：7,073回、登録者数：186人 Facebook いいね：10,311、フォロワー：1,818人	3	
	(事務局) ア インターネットのポータルサイト「Osaka Museums」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載する。 イ Twitter や Facebook といった SNS による展覧会情報等の広報を日常的に行う。 ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「Osaka Museums」を4回発行する。	20	(事務局経営企画課) ア インターネットのポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載している。また、 <u>グーグルアナリティクス</u> を利用して、アクセス解析とウェブサイトの改良企画を策定した。 イ XやFacebookといったSNSによる展覧会情報等の広報を見直し、日常的に計画的に実施した。(フォロワー数 X：6818、Instagram：1108、Facebook：1633) ウ 4回発行。デジタルブック化し、webでの情報発信媒体に変更した。	3	
21 マスメディア等への積極的な情報発信 プレスリリースや内覧会等、マスメディア向けの情報発信を行う。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3 各種事業の開催、コンテンツ制作、研究発表等について、適宜情報発信を行った。	3	
	(大阪市立美術館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、再開館に向けたプレスリリース等の情報発信を行う。	21	(大阪市立美術館) ア 読売新聞と協議し、リニューアルを予定している美術館についての記事を掲載した。内容は、中央ホールほか無料エリアの設定、年間300日開館、展示ケースの更新、カフェ、ショップ、授乳室の設置などリニューアルの概要と、コレクション展の充実等についての情報発信を行った。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。	21	(大阪市立自然史博物館) ア 展覧会やイベント、研究成果の発表など積極的なリリース等を実施した。PR TIMESの導入により、広報効果は向上した。特別展では、プレス内覧会、一般内覧会を数年ぶりに実施した。	3	

	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア マスメディアなどへのプレスリリースを実施する。 【令和3年度実績】9件	21	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア マスメディアなどへの次年度展覧会事業のプレスリリースを2回実施した。また、広報委託業者と連携し、次年度展覧会の紹介記事等への画像提供やテキストの校正を行った。また、次年度展覧会の公式X(旧Twitter)を開設し、展覧会開幕前から積極的に情報発信を行えるようにした。また、SNSに次年度展覧会の広告が掲載されるように準備を行っている。	3	
	(大阪市立科学館) ア 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。	21	(大阪市立科学館) ア メールマガジンの配信及びプレスリリースを計4件発行したほか、265件の記事・広告掲載があった。 【令和4年度実績】記事・広告掲載 318件	3	
	(大阪歴史博物館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行うとともに、記者内覧会を開催する。 イ 新たな事業の開始にあたっては、記者発表会等の開催を積極的に企画していく。	21	(大阪歴史博物館) ア 特別企画展・特集展示について、マスコミ等にプレスリリースを行った。特別企画展については記者内覧会を開催した。 イ 大阪観光局の新観光アプリ「Discover OSAKA」の基本機能として、JTBと協働する「大阪歴史博物館の特別貸切プラン」を報道発表した(6/22)。	3	
	(大阪中之島美術館) ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行う。 イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図る。	21	(大阪中之島美術館) ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行い、様々な受賞を受ける等、認知度の向上に繋がった。 イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図った。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 22 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う(再掲)。 各種活動への参加者に対するアンケート等を実施し、ニーズの把握に努める。 広報専門職員や外国人スタッフの確保等、外国人観光客や海外に情報発信するための体制整備や戦略立案に努める。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 事：3 各館とも計画通り事業を行った。携帯電話会社の人流データを用いて、展覧会のプロモーション活動を検討する等、広報戦略を策定することができた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとにリニューアル後のプロモーション施策をプランニングする。 イ 大阪観光局や旅行代理店、周辺宿泊施設など観光関連団体・企業との相互協力体制をベースに、文化観光の観点での情報発信、誘客計画を進める。	22	(大阪市立美術館) ア 価格調査のレポートや、他館調査を実施して、リニューアル後の魅力向上を踏まえ、適切な常設展価格等について経済戦略局と協議を行った。 イ 大阪観光局など外部団体や企業とリニューアル後における誘客企画など協議を開始した。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 他館のマーケティング調査レポートを参考に、次年度以降実施予定のマーケティング調査について	22	(大阪市立自然史博物館) ア e-tixの購入者属性分析、携帯電話会社の人流データ活用を事務局と連携して進めている。	3	

	て検討する。 イ これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。		イ 事務局と連携して調査を実施した。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。 イ これまでに実施したアンケート調査や外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努める。 【令和3年度実績】 ・機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動（「Osaka Museum」等の刊行）に参画した。 ・館のアンケート結果について報告し、機構の広報戦略策定に貢献した。	22	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 事務局で導入したプレスリリース配信サービスPR TIMESを活用し、リニューアル情報を発信した。また、経済戦略局文化部との調整による市政記者クラブへの投げ込み配信を行った。 イ 当館ホームページの多言語化への取り組みを行った。 ウ 館内パンフレットの刷新による多言語化とQRトランスレーターによるスマートフォン画面での多言語化の試みを実施した。	3	
	(大阪市立科学館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。 イ 入館者分析等により、来館者属性や来館動向を調査分析し、データに基づいた効果的なマーケティング、プロモーション、広報活動を実施する。	22	(大阪市立科学館) ア 観覧者の動向を分析し誘客をはかった。7月の平日には「七夕・プラす1 キャンペーン」、9～11月の平日に「オータム・プラす1」キャンペーンを実施し、プラネタリウム2回目の観覧料を割引いた。またポスターを製作・掲示し、本件の周知に努めた。 イ 観覧者の動向分析・調査結果を活用して、プラネタリウムやサイエンスショー等において館内の他の事業を紹介・告知するなど、観覧の誘導に努めているほか、上記「オータム・プラす1」キャンペーンに活かした。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。 イ 機構の広報誌「Osaka Museums」に参画し、それを配布して当館および機構各館の広報を行う。	22	(大阪歴史博物館) ア 事務局で新たに導入した人流データを展覧会のプロモーション活動に活用することを検討した。 ・館内で公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会による大阪市小中学生による訪日外国人へのアンケートに協力し、外国人向けプロモーションに活用した。 イ 機構の広報誌「OSAKA MUSEUMS」の編集に参画し、館内で配布した。	3	
	(事務局) ア カスタマーリレーションシップマネジメント（顧客DBを構築して分析を行い、関心層を育成する）を行う。 イ 機構における中長期を見据えた広報戦略を策定する。 ウ インバウンド需要を的確に把握するよう、ニーズ調査を実施する。	22	(事務局経営企画課) ア 引き続き CRMシステムを活用している。市立美術館においては、メールマーケティングを継続的に実施。 イ 令和5年度「日本博2.0最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」の補助金事業に関連し、インバウンド需要等ニーズ把握のため、調査を進行した。	3	
23 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 市立の生涯学習施設等を利用した講座等の事業展開や、施設との広報連携を進める。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 各館ともに生涯学習施設等と連携した展示や広報を展開した。	3	

	(大阪市立美術館) ア エルおおさかでの美術研究所展の開催や、公共施設を利用した美術研究所イベントなどを開催する。	23	(大阪市立美術館) ア エルおおさか美術研究所展開催 令和6年3月8日～13日 天王寺区民センターでの美術研究所ジョイントセミナーの実施（7月4日・11月25日）	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 長居わくわくパークプロジェクトチーム等と連携した情報発信に努める。 イ 咲くやこの花館・動物園など大阪周辺の生物多様性関連施設との連携した広報に努める。 ウ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(大阪市立自然史博物館) ア 特別展に合わせた掲出、イベント実施、案内看板更新を行った。 イ 「毒」展にて天王寺動物園の協力を得た公開講演会実施。咲くやこの花館でのスパイス展に出品する等実施している。 ウ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に年間2回（ミュージアムトピックス1、おすすめコレクション1）の記事協力等を実施している。大阪市職員互助会広報誌の「クローバー」に自然史博物館の特集記事を掲載した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。（年間2回） イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの生涯学習関連施設と継続的に連携しながら広報協力を推進する。 【令和3年度実績】 ・大阪中之島美術館、国立国際美術館、中之島香雪美術館とのチラシの相互設置など広報相互協力を継続して実施した。 ・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や広報協力を実施した。 ・中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力を実施した。	23	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する準備を進めた。（2月号、3月号に掲載） イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの生涯学習関連施設と継続的に連携しながら広報協力を推進した。 ・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との次年度の講演会などの連携事業や広報協力を実施した。 ・中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力を実施する準備を進めた。	3	
	(大阪市立科学館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。 イ クリエイティブアイランド中之島など連携各所へ情報提供を行う。 ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。	23	(大阪市立科学館) ア 「いちよう並木」への情報提供を11回提供した。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、実行委員会が開設したホームページに当館のイベント情報を掲載し、また館内に専用のチラシスタンドを設置して共同広報を行っている。加えて中之島ウエスト・エリアプロモーション協議会に参加し、広報協力等を行った。 ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。 イ NPO法人まち・すまいづくりと協働して、あべのハルカス近鉄本店内でポスター掲出を行い、同上本町店のデジタルサイネージで展覧会広報を行う。 ウ 当館が事業協力するシニアCITYカレッジ、大阪	23	(大阪歴史博物館) ア 「いちよう並木」に、年間3件（ミュージアムトピックス、おすすめコレクション、うちのイチ押し!）の記事を掲載し、各号にミュージアム情報を提供した。 イ NPO法人まち・すまいづくりと協働し、近鉄百貨店（あべのハルカス、上本町）で特別企画展・特集展示ポスター掲出やデジタルサイネージで広	3	

	府高齢者大学校等と連携して当館事業の広報を行う。		報を実施した。 ウ シニアCITYカレッジや大阪府高齢者大学校と連携し、展覧会の広報を行った。歴史街道倶楽部や南大江郷塾と展覧会を広報する講演会を実施した。		
	(大阪中之島美術館) ア 来館者や地域コミュニティに向けたプログラム等の企画を進める。	23	(大阪中之島美術館) ア 来館者や地域コミュニティに向けたプログラム等の企画を進めた。 また、採択された令和5年度文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業に基づき、運営委員会等により協議を進めた。	3	
	(事務局経営企画課) ア 生涯学習情報誌「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(事務局経営企画課) ア 生涯学習情報誌「いちよう並木」の原稿執筆に関して各館への割り振り執筆依頼を実施した。	3	
24 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開 地域の広報誌や新聞誌上への寄稿等を通じて、専門情報の平易な発信に努める。 テレビ等メディアへの出演機会を捉え、効果的発信を行う。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも順調に実施した。科学館では16件の取材対応を行い、時期に応じた科学情報を提供することができた。また、歴史博物館ではリアルタイム配信の番組に出演し、若い世代に向けた常設展の魅力発信ができた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 新聞・テレビ等のメディアへの寄稿を通じた情報発信を行う。	24	(大阪市立美術館) ア 中央ホールほか無料エリアの設定、年間300日開館、展示ケースの更新、カフェ、ショップ、授乳室の設置などリニューアルの概要と、コレクション展の充実について新聞社を通じて情報発信を行った。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 近隣の自然関連団体への学術的指導や学芸員による講演などを通じた広報活動を行う。 イ 外部の普及誌・学術誌の執筆を行う。	24	(大阪市立自然史博物館) ア 今年度もすでに大阪自然環境保全協会、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、環境事業協会、日本自然保護協会、大阪みどりのトラストをはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行っている。 イ 様々な雑誌媒体に寄稿している。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館藏品に関する研究成果等を発信する。 【令和3年度実績】11件 イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館藏品に関する研究成果等を発信する。 【令和3年度実績】3件	24	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館藏品に関する研究成果等を発信した。計2件 イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館藏品に関する研究成果等を発信した。計1件	3	
	(大阪市立科学館) ア 情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。	24	(大阪市立科学館) ア マスコミによる取材対応件数は16件あり、特に7月の「七夕・プラす1」キャンペーン、秋の「オータム・プラす1」キャンペーン、プラネタリウム100周年をはじめ、企画展、夏休みシーズンの自由研究、その時期に応じた科学情報を提供することができた。	3	

	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア さまざまなメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>NHKテレビ「先人たちの底力 知恵泉」「関西認定バラエティー ちゃうんちゃう」「ほっと関西(なんでやねん)」「ぐるっと関西おひるまえ」、関西テレビ「報道ランナー(兵動大樹の今昔さんぼ)」、NHKラジオ「関西ラジオワイド(関西 時の人)」、MBSラジオ「茶屋町怪談」、日経・毎日・読売・産経など新聞各紙等</p>	24	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア BS11「偉人・敗北からの教訓」、読売テレビ「す・またん」、「関西情報ネットten」、NHK「美の壺」、「有吉のお金発見突撃!カネオくん」、「ウィークエンド関西」、NHKラジオ第1「関西ラジオワイド」、ABCラジオ「ほたるまち発 ひろし・あさおのタビラジ!」等に出演し、テレビ・ラジオ等を通して学芸員の活動成果を紹介し、館の存在を周知する機会となった。また、産経新聞、北國新聞、読売新聞の各紙に学芸員が歴史・文化に関するコメント等を寄せた。</p> <p>・株式会社ドワンゴによる「ニコニコ美術館」に参画・出演し、8月5日に生配信した。常設展示の魅力を若者を中心としたネットユーザに届け、3月末までに11,525回視聴された。</p> <p>【令和4年度実績】 NHK「先人たちの底力 知恵泉」「関西認定バラエティー ちゃうんちゃう」「ほっと関西(なんでやねん)」「ぐるっと関西おひるまえ」、関西テレビ「報道ランナー(兵動大樹の今昔さんぼ)」、朝日放送「ニュースおかえり」、J:COM「LIVEニュース」、NHKラジオ「関西ラジオワイド(関西 時の人)」、MBSラジオ「茶屋町怪談」等出演。日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、共同通信等の各紙に学芸員が歴史・文化に関するコメント等を寄せた。</p>	3	
--	--	----	---	---	--

大項目 I-②	1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 (2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (3) 民間企業等との協働等
------------	--

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 法人は、各館が都市に立地するという特徴を活かし、国内外から幅広い利用者を獲得するとともに、各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携を図ることにより、大阪の活性化及び発展に貢献する。 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致 ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 ・芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 ・さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント
(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備					
各館の立地の優位性を活かし、幅広い利用者を獲得するため、次の通り、展覧会又は展示物に係るソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備を図る。					
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 25 マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致			【機構の評価】 美：3、自：5、陶：3、科：3、歴：3 中：4 自然史博物館では特別展が大変好評で、入館者が当初の目標を大きく上回り、盛況のうちに閉幕した。また、中之島美術館でもメディアとの連携により多くの来館者を獲得することができた。市立美術館、東洋陶磁美術館ではリニューアルオープン後の、歴史博物館では特別展示室のリニューアル後の展覧会について、メディアと協議し準備を進めることができた。	4	
(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催する(年3～4回程度)。なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が増減することがある。	(大阪市立美術館) ア 再開館後の特別展について新聞社・テレビ局等に働きかけ、共催での開催をめざす。また、各種の協力・協賛を得るべく努める。	25	(大阪市立美術館) ア 令和7年度の開催予定特別展を新聞社及びTV局と協議検討した。 「リニューアルオープン記念展」新聞社共催 「日本国宝展」新聞社共催 「ゴッホ展」TVメディア共催 「根来展」新聞社共催打診中 「妙心寺展」新聞社共催	3	
(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展	(大阪市立自然史博物館) ア 前年度に引き続き読売新聞社・関西テレビとの共催による「毒」展、NHK朝日新聞との共催によ	25	(大阪市立自然史博物館) ア 特別展「毒」読売新聞社、関西テレビ共催 通常の展示に比べ、20代、30代の来場がとて多	5	

<p>を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館やマスメディア等と連携して、特別展を開催する(年2~3回程度)。</p>	<p>る大恐竜博2023、来年度以降の企画に向け各社と準備を進める。 ・特別展「毒」 令和5年3月18日~5月28日</p>		<p>く、入館者数151,413人を得て盛況のうちに閉幕した。混雑への苦情を除けば来場者満足も高かった。また、特別展「恐竜博2023」朝日新聞社、NHK共催 こちらは親子連れ中心の来場となり、来場者数170,001人とこちらも盛況のうちに閉幕した。さらに2024年度開催予定の「ネコ」展を始め将来の企画に向け各社と準備を進めている。</p>		
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館等と連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3~4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数変動することがある。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアルオープンに向けてマスメディア等と連携した展覧会を検討・準備する。</p>	25	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアルオープン記念展に向けて、共催者のNHKエンタープライズ近畿と連携し、展覧会の内容や広報を検討して協働して準備し、特に展覧会広報に関しては、ネネラコを通じてSNS配信を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館) ア 読売新聞社が主催の「青少年のための科学の祭典」に参画する。</p>	25	<p>(大阪市立科学館) ア 読売新聞社等が主催する青少年のための科学の祭典に参画し、5月に科学館正面玄関前でプレイベントとして野外実験を行い、本大会(会場:大谷中学校・高等学校)を8月に実施した。 【令和4年度実績】実施1件</p>	3	
<p>(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学や企業等と連携し、巡回展や共催展等の特別展を開催する(年3~4回程度)。</p>	<p>(大阪歴史博物館) 在阪の新聞社・放送局等と展覧会企画に関する情報交換を行い、誘致に努める。 現在、特別展示室リニューアル後に向けて、「国宝・金印と黒田家の至宝(仮)」をはじめ、尾張徳川家の名宝、近世の浮世絵、大相撲(日本相撲協会百周年)等の大型展企画について、誘致の検討を行う。</p>	25	<p>(大阪歴史博物館) 特別展示室リニューアル後の令和6年度の特別「川瀬巴水」展について、NHKエンタープライズ近畿と企画調整を行い、読売新聞社との共催で準備を進めた。 他にも在阪の新聞社、放送局と、令和6~7年度の企画展の誘致について情報交換・検討、調整を実施中である。</p>	3	
<p>(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を開催する。</p>	<p>(大阪中之島美術館) ア 新聞社・テレビ局と協働して、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する特別展を開催する。 ・開館1周年記念特別展 佐伯祐三 一自画像としての風景 佐伯祐三展を15年ぶりに開催し、初出品や画家の代表作を含む約140点を一堂に展覧する。 会期:令和5年4月15日~6月25日 ・民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある 会期:令和5年7月8日~9月18日 ・Parallel Lives 平行人生 - 新宮晋+レンゾ・ピアノ展 会期:令和5年7月13日~9月14日 ※新宮晋の誕生日(7月13日)からレンゾ・ピアノの誕生日(9月14日)まで ・特別展 生誕270年 長沢芦雪 会期:令和5年10月7日~12月3日 ・テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ 会期:令和5年10月26日~令和6年1月14日 ・モネ 連作の情景</p>	25	<p>(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する展覧会をメディア等との連携により開催し、多くの観覧者を迎えた。 「佐伯祐三 一自画像としての風景」 (2023.4.15~6.25:63日間)最終:81,739人(1,293人/日) 「デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン」 (2023.4.15~6.18:57日間)最終:31,865人(558人/日) 「民藝 MINGEI—美は暮らしのなかにある」 (2023.07.08 - 2023.09.18:64日間)最終:52,756人(822人/日) 「Parallel Lives 平行人生 - 新宮 晋+レンゾ・ピアノ展」 (2023.07.13 - 2023.09.14:63日間)最終:21,293人(377人/日) 「特別展 生誕270年 長沢芦雪 一奇想の旅、天才絵師の全貌—」 (2023.10.07 - 2023.12.03:50日間)最終:82,171人(1,639人/日)</p>	4	

	<p>会期：令和6年2月10日～5月6日 ・決定版！女性画家たちの大阪 会期：令和5年12月23日～令和6年2月25日 ・没後50年 福田平八郎展 会期：令和6年3月9日～5月6日</p>		<p>「テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ」 (2023.10.26 - 2024.01.14 : 70日間) 最終：124,372人 (1,753人/日) 「決定版！女性画家たちの大阪」 (2023.12.23 - 2024.02.25 : 57日間) 目標：50,000人 (877人/日) 最終：29,121人 (509人/日) 「モネ 連作の情景」 (2024.02.10 - 2024.05.06 : 80日間) 2023年度：234,198人 (5,180人/日) 「没後50年 福田平八郎」 (2024.03.09 - 2024.05.06 : 55日間) 2023年度：13,099人 (648人/日)</p>	
26	<p>さまざまな利用者の受入れ体制の充実(中期目標にはないが、計画で追加) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する(再掲)。わかりやすいサインの掲出や安全な導線確保に努める。</p>		<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3 施設の大規模改修等によりバリアフリー化を計画するとともに、市立美術館や東洋陶磁美術館では施設案内等の他言語化やピクトグラム化を推進した。また、東洋陶磁美術館、科学館ではfree wi-fiを継続提供できるよう整備を行った。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館) ア 大規模改修を行うにあたり、こども、高齢者、障がい者、外国人など、多様な来館者に対応できるような工夫を行う。</p>	26	<p>(大阪市立美術館) ア 中央ホールの無料化や利便性向上のためのエスカレーター設置し、館内サインにピクトグラムの利用や多言語で報じる内容について決定した。</p>	3
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズなどの情報を収集する。 イ 受付カウンターなどでの外国人対応、障がい者対応などの充実を検討し進める。 ウ 現在館にこない潜在的利用者などに関するサービス検討を進める。 エ 授乳場所など、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。</p>	26	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 大規模改修の計画の一環としてヒアリングを行いながら、ニーズと実態把握を進めた。令和4年度実施したM3プログラムの総括と活用を進めた。 イ 受付スタッフにタブレット端末を備えているが、検討の結果、直接口頭での対応を中心としている。 ウ 博物館の使命及び中期計画において、潜在的利用者などに関するサービスについて策定を行った。 エ コロナ禍の状況を鑑み、救護室と授乳室を別に確保し、運用した。</p>	3
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進する。 イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設など来館者ニーズを踏まえた環境整備を行う。 ウ 新型コロナウイルス収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。 エ 増築するエントランス棟も含め、館内 Free Wi-Fiの継続提供の準備を行う。 オ 年間パス販売等によるリピーターの確保に努め</p>	26	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進した。 イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設など来館者ニーズを踏まえた環境整備を行った。 ウ 新型コロナウイルス収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やピクトグラム化を推進した。 エ 増築するエントランス棟も含め、館内 Free Wi-Fiの継続提供を行えるよう整備をおこなった。</p>	3

	る。 【令和3年度実績】販売件数65枚		オ 年間バス販売等によるリピーターの確保に努めた。 【令和5年度実績】販売件数5件		
	(大阪市立科学館) ア Osaka Free Wi-Fiサービスを提供し、来館者の利用に供する。 イ 平日の大人層の来館者層を対象としたサービスや事業を進める。 ウ 大活字ならびに点字、音声版による、科学館見学ガイドを利用に供する。 エ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース等、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。	26	(大阪市立科学館) ア Osaka Free Wi-Fiサービスを提供し、来館者の利用に供した。 イ 7月には「七夕・プラす1」キャンペーン、9月より「オータム・プラす1」キャンペーンを実施し、平日午後のプラネタリウムの観覧割引を行うことにより平日の大人層の来館者むけサービスを提供している。 ウ 大活字ならびに点字、音声版による、科学館見学ガイドを利用に供している。 エ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース、多目的トイレ等、来館者ニーズに応じたサービスを提供している。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。 イ 回復が予測される海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化等の計画策定を進める。 ウ ポストコロナも念頭に置き、来館者状況を注視しながら施設案内等の多言語化について見直しを進める。 エ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。 オ 電子チケット販売、電子マネー・クレジットカード利用を更に推進し、インターネットプロモーションとの連動により利用者の利便性向上を図る。 カ 講堂・貸室予約システムを導入し、インターネット広告を中心としたプロモーション活動を活性化し、利用促進を図る。 キ グッズ・図録のECを活用した販売を促進する。 ク 令和3年度より開始したリアル謎解きゲームの運営を完了させ、新たな展開を検討する。 ケ 館の収蔵品と施設を活用した個人参加型イベントを企画、運営する。 コ 講堂・貸室を活用した各種イベントを企画・実施する。	26	(大阪歴史博物館) ア 全館バリアフリー化（多目的トイレ設置、車椅子貸出しなど）対応済み。観光庁「心のバリアフリー認定制度」に申請し、全国の博物館組織に先駆けて令和5年11月に認定された。（再掲） イ トイレの洋式化については予算の目途がつき次第改修へ。（再掲） ウ 災害時対応マニュアルの見直しを進めた。（再掲） エ AED（自動体外式除細動器）を複数階に設置。被災時のマニュアルについて見直しを進め、アナウンスの多言語化を検討した。 オ 利用者の利便性向上のため、キャッシュレス決済の種類拡充、必要なエリアでの通信環境の整備を実施。特別企画展「異界彷徨」では、インターネット広告との連動により常設展電子チケットの販売が進んだ。また普及事業についても電子決済化を進めた。 カ 講堂・貸室予約システムを導入し、インターネット広告を中心としたプロモーション活動により利用促進を図った。 キ ECサイトを活用し、グッズ・図録の販売を継続した。 ク リアル歴史巡礼クイズは令和5年10月に終了。新たな展開の検討を進めた。 ケ 展示と見学会・外部施設での食事を合わせた連携事業を実施したほか、館蔵品を実見できる古文書講座や美術講座「日本美術入門」を実施した。 コ 「なにわ歴博講座」「極める!難波宮」の連続講座や「日本美術入門」「古文書講座」等の独自企画のほか、外部連携事業での講演会などを計画・実施した。	3	
	(大阪中之島美術館) ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の充実を図る。	26	(大阪中之島美術館) ア 非常時の案内も含めた施設案内等の見直しを行い、誘導サイン等の変更・補強を実施した。	3	

<p>27 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)等を活用した多言語対応を進める。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る。</p>		<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4 中：3、事：3 これまでの多言語対応を継続し、リニューアルを見据え、作品の解説文等の多言語化を進めた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館) ア 改修後の運用を見据え、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。 イ 大阪観光局との連携により留学生を対象としたプロモーション施策の実現に向けた準備を進める。(令和5~6年度) ウ 大阪・関西万博の開催時のインバウンド需要に備え、多言語標記等の外国人受入れの体制準備に着手する。 エ 大阪博(仮称)に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう、設計を行う。</p>	<p>27 (大阪市立美術館) ア 多言語化の検討開始した イ 大阪観光局との協議・連絡を開始した。 ウ 館内サインの多言語化について検討開始した。コレクション展についてはアプリ対応の検討を開始した。 エ 館蔵作品約270件のテキストデータの多言語化(英・中繁・中簡・韓)を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア これまでに実施した外国人を含む利用者調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。 イ 常設展示場内における外国語表記についてQRコードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。 ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。 エ 大阪・関西万博の開催時のインバウンド需要に備え、多言語標記等の外国人受入れの体制準備に着手する。 オ 大阪博(仮称)に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう、設計を行う。</p>	<p>27 (大阪市立自然史博物館) ア 大規模改修に向けミッションや展示計画の見直しの中で他館事例等を参考にし盛り込んだ。 イ QRコードにリンクさせる常設展示の情報を更新し、基盤を整理している。「大阪の宝」とも連動し情報創出の予定。 ウ 英語による非常放送等は実現しているが、スタッフによる対応の向上等さらなる改善手法について検討を続ける。 エ 自然史のイラストレーション展に対応し、英語版ハンドアウトを作成した。 オ 多言語展開は大阪博の令和6年度課題とした。生物には統一した英名がないものや、英名でも通じないものも多く検討を要しており、令和5年度においては設計には至らなかった。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア コレクション展における主要館蔵品61件の多言語対応解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供とその充実を図る。 【令和3年度実績】 コレクション展における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(ポケット学芸員)の提供を継続しながら多言語対応として中国語(簡・繁)、韓国語を追加した。 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。 【令和3年度実績】 ・作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・コレクション展の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・館蔵品のデジタル画像データの海外向け利用推進のため「写真利用規約」等の英語、中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行った。 ・館蔵品情報の研究成果を反映して解説の改訂を行</p>	<p>27 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアルオープンに向けて、コレクション展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供を継続しながら、作品動画等のコンテンツや多言語化の充実に向けての準備を行った。 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努めた。 ・作品解説やパネルのデザイン刷新を進めるなかで、英文併記など多言語化の検討を行った。 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記を継続して進めた。 ・館蔵品のデジタル画像データの海外向け利用推進のため多言語での発信を継続した。 ・館蔵品情報の研究成果を反映して解説の改訂を行い、それに伴い多言語への反映を行った。 ・ホームページに日本語のほか英語、韓国語、中国語(簡体字・繁体字)の5カ国語による展覧会情報を掲載した。 ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外か</p>	3	

	<p>い、それに伴い多言語への反映を行った。</p> <p>ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。</p> <p>エ 大阪・関西万博の開催時のインバウンド需要に備え、多言語標記等の外国人受入れの体制準備に着手する。</p> <p>オ 大阪博（仮称）に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう、設計を行う。</p>			<p>らの来館者の対応として、施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化やピクトグラム化などを含めたサインデザインの刷新を進めた。</p> <p>エ 大阪・関西万博の開催時のインバウンド需要に備え、ピクトグラム化や多言語標記等の外国人受入れの体制準備を進めた。</p> <p>オ 大阪博（仮称）に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう、設計を行った。</p>
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。</p> <p>イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記の充実に取り組み、国内外からの来館者の需要に対応する。</p> <p>ウ 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。</p> <p>エ 大阪・関西万博の開催時のインバウンド需要に備え、多言語標記等の外国人受入れの体制準備に着手する。</p> <p>オ 大阪博（仮称）に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう、設計を行う。</p>	<p>27</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア HPにおける各国語への誘導ページの作成や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語の対応を実施している。</p> <p>イ 常設展示物の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」において、英語、中国語、韓国語で運用した。また、YouTubeで公開中の展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」の一部に英語字幕を入れて公開している。</p> <p>ウ 非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更し、来館者が情報を得られる工夫を多言語で展開している。また、展示改装業務に合わせ、館内案内板の見直しも行っている。</p> <p>エ 展示改装に合わせて、施設案内等の多言語化について検討を行っている。</p> <p>オ 大阪博にむけて、機構内のワーキンググループに参加し、収蔵品データベース等について検討を行っている。</p>	<p>3</p>	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ポストコロナも念頭に置き、来館者状況を注視しながら施設案内等の多言語化について見直しを進める。</p> <p>イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。</p> <p>ウ 大阪・関西万博の開催時のインバウンド需要に備え、多言語標記等の外国人受入れの体制準備に着手する。</p> <p>エ 大阪博（仮称）に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう、設計を行う。</p>	<p>27</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 7種の外国語パンフレットの配布数を分析し、国別の来館者動向の把握に努めた。</p> <p>イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。音声ガイドは展示室のWi-Fi化と並行してクラウド型へ移行し、多言語対応する準備を進めた。</p> <p>ウ すでに多くが多言語化されている施設の表記について、日常の点検を継続中である。</p> <p>エ 機構内各館とともに、「大阪博」に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう検討した。</p>	<p>4</p>	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。</p>	<p>27</p> <p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 公式HP、オンラインチケット販売システム等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努めた。</p>	<p>3</p>	
	<p>(事務局)</p> <p>ア 大阪・関西万博の開催時のインバウンド需要に備え、多言語標記等の外国人受入れの体制準備に着手する。</p> <p>イ 大阪博（仮称）に向けた収蔵品データベースを多言語で展開できるよう、設計を行う。</p>	<p>27</p> <p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 大阪・関西万博に向けて、新たなWebサイトを構築し、多言語による発信を行うとともに、各館での外国人受入れ体制の準備に着手し、計画を進めた。</p> <p>イ 大阪博に向けて収蔵品データベースを公開した</p>	<p>3</p>	

<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 28 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する。</p>		<p>「デジタル大阪ミュージアムズ」は、日本語のみとなっているが、次年度に多言語展開できるように、計画した。</p>		
	<p>(大阪市立美術館) ア 令和7年度の募集を実施する。</p>	28	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場としてこどものためのジオカーニバル（11月）、大阪自然史フェスティバル（11月）を開催する。 イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。 ウ アーティストによる標本活用など、芸術分野とのコラボレーションを継続して模索する。 エ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。 オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。</p>	28	4	
	<p>(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドや科学デモンストレーターによるボランティア活動や、友の会会員有志によるサークル活動やイベントへの出展等の自主的活動を支援する。 イ こどものためのジオカーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会等の活動を支援する。 ウ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。</p>	28	3	
		<p>【機構の評価】 美：3、自：4、科：3、歴：3 自然史博物館では自然史フェスティバル、科学館と共催のジオ・カーニバルを実施するなど、関係団体の成果発表を支援した。美術館では、リニューアル後を見据え、地下展示会室における令和7年度公募展の募集を実施した。</p>	3	
		<p>(大阪市立美術館) ア 令和5年7月から4回にわたり、地下展示会室における令和7年度公募展の募集を実施した。</p>	3	
		<p>(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として、ホネホネサミット(10月)、こどものためのジオカーニバル（11月）、大阪自然史フェスティバル（11月）、自由研究展（12月）、地域自然史と保全大会（3月）を開催した。 イ 大阪自然史センター、大阪自然環境保全協会、大阪みどりのトラスト財団を始め、多くの団体に指導、支援を実施した。 ウ 「自然史のイラストレーション」展で多くのアーティスト作品を展示した。また、大阪湾のポスターコンテスト展示などを実施した。西日本自然史系博物館ネットワークと共同し、芸術分野とのコラボレーションであるSTEAM教育の研究会を開催した。 エ 地学団体研究会他とシンポジウムを開催した（再掲） オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努めた。また日本生物教育研究会に協力、エクスカーションを受け入れた。</p>	4	
		<p>(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドによるボランティア活動を支援し、展示場ガイドやワークショップ「科学の体験マルシェ」を実施した。また科学デモンストレーターによる活動として、エキストラ実験ショーを実施した。 イ 「青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会」の活動を支援し、5月には科学館正面玄関前でプレイベントとして野外実験を行い、本大会を8月に開催した(会場：大谷中学校・高等学校、来場者：12,000人、講演会400人)ほか、「こどものためのジオ・カーニバル」は企画委員会に協力し、11月に開催した(会場：自然史博物館)。 ウ 2025年の大阪万博に向けて、ボランティアの科学デモンストレーター有志による「SCIENCE de</p>	3	

			DOYA（サイエンスでどや！）」の活動を支援し、万博共創チャレンジの活動として、「タデアイの葉ですり染め実験」など2件を実施した。また、「SCIENCE de DOYA」の登録商標化を図った。	
	(大阪歴史博物館) ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。 【令和3年度実績】 歴史学入門講座（同講座実行委員会）は、感染拡大防止のためオンライン開催となった。	28	(大阪歴史博物館) ア 歴史学入門講座実行委員会と連携し、「歴史学入門講座」を7月に開催した。107名 【令和4年度実績】「歴史学入門講座」（同講座実行委員会）36名、科研費「中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究」シンポジウム100名、「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」との共催シンポジウム 76名	3
29 さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得 鉄道事業者や旅行社、宿泊施設等と連携した広報やチケット販売等を実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4 中：3 歴史博物館ではクラブツーリズムと共同でのツアーや、民間事業者との食事をセットとし企画・販売、JTBとの「夜間貸切開館」、中之島美術館でも宿泊施設への企画協力など、さまざまな事業者等と連携した広報・チケット販売等を実施した。	3
	(大阪市立美術館) ア 大阪観光局や旅行代理店、周辺宿泊施設など観光関連団体・企業との相互協力体制をベースに、文化観光の観点での情報発信、誘客計画を進める。 イ リニューアルオープンに向けて、天王寺駅・新今宮駅周辺の施設（てんしば、あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等）との共同広報展開を継続する。	29	(大阪市立美術館) ア 大阪観光局など外部団体や企業と、リニューアル後についての協議を開始した。 イ 3月にJR天王寺駅及び近隣の集客施設との協議を開始した。	3
	(大阪市立自然史博物館) ア 連携のための情報収集を行う。商業施設等との連携展示を実施するとともに、キャッシュレス利用と連動した広報活動について連携を検討する。 イ 広報につながるコラボ事業を積極的に開拓する。館の所蔵する画像などのコンテンツの共同展開や商品への活用などを含め検討する。	29	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪自然史センターと連携してイオンモール藤井寺、りんくうプレジャータウンなどでのワークショップの際のPRを実施した。 イ 毒展・恐竜展に関連して周辺の飲食店と協賛ドリンク等商品の展開を行い、SNS等でのプロモーションを促進した。	3
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、Osaka Metro、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に向けて検討する。 イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を検討する。 【令和3年度実績】 ・阪急・阪神駅構内ポスター掲出（柳原展） ・大阪駅デジタルサイネージ（柳原展） ・地下鉄駅構内ポスター掲出（柳原展3回） ・京阪沿線2駅の広告板「ミュージアムインフォメーション」における各展覧会の告知 ・展覧会のポスター・チラシ発送及び掲出依頼	29	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、Osaka Metro、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に向けて検討した。 イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を検討した。	3

	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 個人でのインターネットによる展示場やプラネタリウム予約・決済システム等を活用する。</p> <p>イ クリエイティブアイランド中之島の活動と連携し、チラシ配布等を行う。</p>	29	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア インターネットを通じて展示場やプラネタリウム、スペシャルナイト等のイベントのチケット購入ができるようシステムを構築し、運用した。また、時期チケットシステムでは、さらにオンライン販売の比重を重くし、団体予約もオンライン予約化できるように構築している。</p> <p>イ クリエイティブアイランド中之島の活動と連携し、チラシ配布や同プロジェクトのホームページに情報を掲載している。加えて、中之島ウエスト・エリアプロモーション協議会とも連携し、広報連携などを行っている。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 旅行事業者（クラブツーリズム等）や大阪観光局等との連携を深め、誘客を促進する。</p> <p>イ 新たな連携のための情報収集を行う。</p> <p>ウ 令和3年度より開始したクラブツーリズム株式会社と共同でマイクロツーリズム企画の開発・販売を更に推進する。</p>	29	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 大阪観光局が開発するアプリ「Discover OSAKA」立ち上げにあわせ、JTBの協力のもと夜間貸切プランをテスト実施（利用実績なし）。令和4年度に開始した大阪迎賓館（パリューマネジメント社・大阪城西の丸庭園内）によるナイトミュージアムとディナーのセット企画を7月・8月に2回継続実施した。また、大阪観光局と留学生イベント「大阪と世界の歴史交流ツアー」を実施、留学生のSNSを通じて館の魅力を発信した。</p> <p>イ 新たに株式会社ダウンゴと連携し、8月に「ニコニコ美術館」で常設展示の魅力を発信した。今後の連携についても検討中である。また、上記の結果をもとにJTBとMICE・ユニークベニュー事業での旅行コンテンツ化について検討を進めている。</p> <p>ウ 令和3年度より開始した、クラブツーリズム株式会社とのマイクロツーリズム共同企画の開発・販売を更に推進している。4年度から継続の「海賊たちの戦国時代」（1回）、「歩いてめぐる南都七大寺の仏像」（2回）を企画・販売し実施した。5年度は新たに「家康の決断と戦い」（全3回）、「大和の神々を巡る旅」（全6回）、「壬申の乱」（全4回：内2回は令和6年度）を企画・販売、実施した。</p>	4	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 大阪観光局等と協力し、観光広報媒体に情報を提供する。</p>	29	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 大阪観光局等と連携し、観光広報媒体に情報を提供した。また、周辺の施設や宿泊施設とのタイアップ（半券提示による割引等）を実施し、他企業との連携による集客に努めた。</p>	3	

中期目標	<p>2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」</p> <p>(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携</p> <p>各館の周辺エリアの魅力向上のため、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する</p> <ul style="list-style-type: none"> 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携						
各館の周辺エリアの魅力向上のため、次の通り、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する。						
<p>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>30 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客</p> <p>最寄り駅や近隣の商業施設との連携を図る。 近隣の集客施設や関連施設との相互連携による誘客を目指す。 周辺エリアの広報誌や地域情報誌等広報手段を積極的に活用する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3</p> <p>各館とも順調に実施できた。各館とも周辺の駅にポスターを掲出したり、近隣の飲食店や施設と連携したプロモーション施策を検討した。</p>	3		
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア てんしばやあべのハルカスなど天王寺駅周辺の施設との各種取り組みを通じた連携を深めることで、リニューアル後の相互広報、相互誘客につなげる。</p> <p>イ リニューアル後のチケットングや周辺施設との周遊性向上につながるようなICTを活用した取り組みの準備を進める。</p> <p>ウ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けた活動を積極的に進める</p>	30	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 天王寺公園マネジメント会議に出席し、各種情報共有を行った。今後も、リニューアル等について進捗状況の共有や、相互広報などについて検討していく。</p> <p>イ リニューアル後のチケットングにおいては、館内は当日券とともに、WEBチケットの導入を検討した。周辺施設との連携については、協議しながら進めていく。</p> <p>ウ 前年度より継続しているパビリオン出展企業との協議を行った。具体的な施策は、令和6年度に実施予定。</p>	3		
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 長居わくわくパークプロジェクトチーム植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者などと連携した情報発信に努める。</p> <p>イ 最寄りのOsaka Metro車内での放送やポスター掲出、Osaka Metroの事業への協力などを通じての広報を推進する。</p> <p>ウ 商業施設との連携・商店街との連携などによる広報及び誘客を進める。</p> <p>エ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けた活動を積極的に進める。</p>	30	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 特別展に際して「のぼり旗」の駐車場や公園内への掲出のほか、毒展や恐竜展ではセレッソ大阪のホームゲームに際し、告知映像掲出やチラシ配布等のプロモーション協力を行った。また、「長居植物園案内」は春以降、時間短縮や熱中症予防をしながら実施した。</p> <p>イ ポスター掲出を実施した(再掲)。</p> <p>ウ 毒展・恐竜展・自然史のイラストレーション展で「さくら珈琲」や長居ユースホステル等と連携した商品企画を実施し、また昨年引き続き東住吉区の伝統工芸品である「大阪錫器」と連携し、SNSでの話題拡散を景気とした誘客に努めている。(再掲)</p> <p>エ 住友EXP02025推進委員会との協働について、博</p>	3		

			博物館案内や協働の方向性などについて住友Gと打ち合わせを行った。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の国立国際美術館をはじめ、近隣及び中之島エリアの関連施設との広報協力や相互割引について検討する。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により中之島エリアの他の参加施設との共同広報を行う。 ウ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けた活動を積極的に進める。	30	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の国立国際美術館をはじめ、近隣及び中之島エリアの関連施設との広報協力や相互割引について検討した。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により中之島エリアの他の参加施設との共同広報の企画と実施の準備を進めた。 ウ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けた活動については、機構の万博PTや「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」などに参加するなかで、積極的に検討を行った。	3	
	(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。 ウ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けた活動を積極的に進める。	30	(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄等の交通機関にポスターを掲示している。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置している。また、大阪市包括連携協定を活用し、イオングループ、大阪シティ信用金庫にポスターを掲示した。加えて、大阪市老人クラブ連合会と広報協力をし、市内公共施設等へもポスターを掲示した。 ウ 万博に出展する電車連との交渉で、当館ボランティアなどが活動できる機会を調整している。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める。 イ 最寄りのOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する。 ウ 博物館周辺の商業施設（もりのみやキューズモールBASE、近鉄百貨店各店など）との共同広報展開を継続する。 エ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けた活動を積極的に進める。	30	(大阪歴史博物館) ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続して相互の連携を維持した。 イ Osaka Metro谷町四丁目駅構内での館内ポスターの掲出や谷町線車内音声案内を継続した。特別企画展・特集展示ポスターを市政広報板や京阪電車各駅に掲出し広報活動を展開した。 ウ 大阪迎賓館とナイトツアー・ディナー企画を実施し、館と周辺史跡の魅力アピールした。 ・リアル歴史巡礼クイズ「五代友厚と歩く幕末・明治の大阪」を大阪商工会議所、大阪観光局の後援を得て引き続き実施し、10月末に終了した。 ・もりのみやキューズモールBASEと連携を継続し、上町台地エリアでは、あべのハルカス近鉄本店と連携して店内に展覧会ポスター・チラシを設置し、また近鉄百貨店上本町店でもデジタルサイネージによる展覧会広報を行った。 エ 機構内各館と連携して検討に参画している。	3	
	(大阪中之島美術館) ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。 イ 特別展開催に伴い、グッズ等の商品開発を行う。	30	(大阪中之島美術館) クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業と広報の展開を実施した。	3	
	(事務局経営企画課) ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等	30	(事務局経営企画課) ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等	3	

	<p>の商業施設に広報誌「Osaka Museums」を設置し、広報を行う。</p> <p>イ Osaka Metroの「観光施設利用割引」等に協力し、観覧者の誘致を図る。</p> <p>ウ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けた活動を積極的に進める。</p>		<p>の商業施設に広報誌「OSAKA MUSEUMS」を設置し、広報を実施した。</p> <p>イ Osaka Metroの「おでかけKID's PASS」、「大阪周遊バス」等に協力し、観覧者の誘致を図った。</p> <p>ウ 大阪・関西万博会場に参画する企業との連携に向けて、具体的な取組内容に関する協議を進めた。</p>		
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>31 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施</p> <p>周辺エリアの博物館・美術館と連携した事業を展開する。</p> <p>近隣の公共施設や商店街等と連携したイベントへ参加する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3</p> <p>各館とも計画通りに、近隣事業者等と共同事業に参加し、企画・実施を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア てんしばやあべのハルカスなど天王寺駅周辺の施設との各種取り組みを通じた連携を深めることで、リニューアル後の相互広報、相互誘客につなげる。</p>	31	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 天王寺公園マネジメント会議に出席し、各種情報共有を行った。今後、リニューアルを受けて、相互広報や相互誘客について検討していく。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 大阪市環境局などの開催する環境イベント等に協力する。</p> <p>イ 長居わくわくパークプロジェクトチーム等の連携に努める。</p>	31	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 環境事業協会の実施する環境イベントに協力した(8月11-12日)。</p> <p>イ 2024年の50周年に向けて共同企画の構想を進めた。長居植物園の里山活動に関連して要請により学術的な協力をしている。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加とともに、水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行っていく。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>光のルネサンスでは、当館壁面にプロフェクションマッピングの投影などイベント協力を行った。</p> <p>イ 「こども本の森 中之島」との連携について検討する。</p>	31	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加とともに、水都大阪、中之島まつり、光のルネサンスなど中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行う準備をした。</p> <p>イ 「こども本の森 中之島」との連携についてはともに参画している「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」の共同事業の企画などで連携を進めた。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携したイベントに協力、実施する。</p> <p>イ 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリアB1、中之島ウエスト・エリアプロモーション等)と連携したイベントに協力、実施する。</p>	31	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島の実行委員会、企画チームに参加すると共に広報連携を実施した。また連携したイベントに協力を計画している。</p> <p>イ 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリアB1、中之島ウエスト・エリアプロモーション等)と連携した防災研修に関するイベントへの参加や、広報協力などを実施した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 隣接するNHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、NHK大阪BKワンダーランドにあわせた企画を実施する。</p>	31	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 5月にアトリウムでの「らんまん祭り」に参画し、展覧会の広報を実施した。11月のBK大感謝祭にもワークショップのブースを出展した。</p> <p>イ 「まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン</p>	3	

	<p>イ 書店や図書館等が実施するまちライブラリーブックフェスタに参画する。</p> <p>ウ 周辺のNPO法人等と連携し、歴史講座等を実施する。</p> <p>エ 周辺施設（大阪迎賓館等）と相互送客を図る共同企画を継続する。</p>	<p>2023」は参加要請がなく不参加。フェスタ内の探訪ブックスポットに登録した。</p> <p>ウ 次の企画にも参画・協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史街道推進協議会に協力し、「歴史ものがたりセミナー」の企画・講演・解説を実施した（3回） ・シニアCITYカレッジに協力して、コラボ講座「大阪人物誌」を企画立案し、館長・学芸員を講師派遣した（12回） ・徳島県人会近畿連合会「近畿とくしま歴史講座」の開催に協力した。 ・エリーニ・ユネスコ協会「第23回なにわ歴史シンポジウム」の開催を後援した。 ・大阪商工会議所主催「なにわなんでも大阪チャレンジ」の問題作成に協力した。 <p>エ 難波宮跡公園「みんなのにわ」プロジェクト（代表構成員：NTT都市開発株式会社）・株式会社キョードー関西が実施した「NANIWANOMIYA WORLD KITCHEN FEST.」（4/29～5/7）に広報の協力を行いブースを出展し、また3月の「はじめてフェス」にも協力、出展した。大阪迎賓館を運営するバリューマネジメント社とナイトミュージアムとディナーのセット企画を7月・8月の2回継続実施した。</p>	
--	---	---	--

中期目標	<p>2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」</p> <p>(3) 民間企業等との協働等 地域経済及び産業の活性化のため、民間企業等との協働及び相互支援を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実 ・民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 ・博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価 評価の判断理由(実施状況等)	評価	市長の評価 評価の判断理由 ・評価のコメント	
(3) 民間企業等との協働等						
<p>地域経済及び産業の活性化のため、次の通り、民間企業等との協働及び相互支援を推進する。</p> <p>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>32 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実</p> <p>ミュージアムショップやレストランについて、民間事業者の協力を得て、機能の維持と魅力向上を図る。</p> <p>図書やミュージアムグッズを扱う「オンラインショップ」の開設を目指す。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：4、陶：4、科：3、歴：4</p> <p>自然史博物館では、来館者数の増加に伴いミュージアムショップの利用者も増加し、過去最高の売上を記録した。また、東洋陶磁美術館ではリニューアルオープンに向け、カフェ及びミュージアムショップの運営事業者を決定し、オリジナルメニューを開発したほか、歴史博物館では令和4年度に採択された補助金事業により、レストラン等の新規事業者を決定した。</p>	4		

	(大阪市立美術館) ア 館蔵品を中心とした作品や美術館の建物をモチーフにしたグッズなど、商品力やデザイン力に定評のある地元企業とのコラボレーションにより、新たな開発を進めていく。	32	(大阪市立美術館) ア リニューアル後のショップ運営事業者募集の公募型プロポーザルを2月に公告した。来年度に業者を決定する見込み。プロポーザルの仕様書に、オリジナルグッズについては当館と協議しながら開発・製作することを明記する	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。 イ 自動販売機設置などアメニティを間断なく提供できるように努める。	32	(大阪市立自然史博物館) ア 順調に営業を継続している。毒展、恐竜博2023の期間中も特別展オフィシャルショップと別に、当館のオリジナルグッズを求める利用者が多く、ミュージアムショップも過去最高の期間売上を記録している。上記繁忙期を避けて、利用者アンケートを実施した。 イ 順調に提供している。	4	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力あるカフェ・ミュージアムショップの運営委託について検討する。 イ 来館者サービスの充実のため、ミュージアムショップなどのリニューアルやオリジナルグッズ作成を検討する。	32	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力あるカフェ・ミュージアムショップをプロポーザルで選定し、リニューアルオープン時に合わせてオープンする。 イ 来館者サービスの充実を目的としたカフェ・ミュージアムショップのオリジナルメニュー、オリジナルグッズをリニューアルオープンに合わせて提供できるよう業務を進めた。	4	
	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売を行う。 イ 展示改装に伴い、休憩スペースを兼ねたカフェスペースの検討を進める。	32	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携してオリジナルデザインのマグネットやボールペン、防水メモ帳等を開発し、ミュージアムショップやオンラインショップで販売をしている。また、プラネタリウム100周年に関連したノートやクリアファイル、ミニブック等の商品を開発・販売し、科学館とショップの魅力向上に貢献した。 イ 展示改装業務の一環として、地下1階にカフェスペースの設置計画を作成し、設計している。	3	
	(大阪歴史博物館) ア ミュージアムショップの魅力向上に努める。 イ レストランの機能維持に努め、実施している相互割引などに加えて魅力向上にも努める。 ウ グッズ・図録のECを活用した販売を促進し、グッズ開発を進める。 エ 講堂・貸室予約システムを導入し、インターネット広告を中心としたプロモーション活動を活性化し、利用促進を図る。 オ 更なるCS向上のためレストラン委託事業者の見直しを検討する。	32	(大阪歴史博物館) ア 今年度より新たなショップ運営事業者となり、商品開発もこれまで以上に積極的に展開。特別企画展「異界彷徨」でオリジナルグッズを作成し販売した。ショップ主導による商品開発（クッキー・記念メダル）も実施した。 イ 上記アのショップとともに団体見学に来た大阪市内小学生の保護者を対象とした優待キャンペーンを試験的に実施した。 ウ 公式オンラインショップによる図録・館蔵資料集・オリジナルグッズ等の販売を継続中。 エ 貸室予約システムを稼働させ、インターネット広告や動画投稿を中心としたプロモーション活動実施し、利用促進を図った。（再掲） オ 令和4年度文部科学省委託事業「文教施設における多様なPPP/PFIの先導的開発事業」に採択され、今年度、当館の付加価値向上と来館者層の拡大に向けたミュージアムショップやレストランを含む新規事業連携に関するプロポーザルを実施。	4	

			事業者を選定し、来年度から稼働。		
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>33 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発</p> <p>民間事業者等と連携したミュージアムグッズの企画と商品化を図る。</p> <p>民間事業者等と協働し、ICT技術を活用した仮想展示や解説端末等の研究・開発を進める。</p> <p>大阪にゆかりの深い企業の協力による資料の寄贈やデジタルアーカイブの構築・公開を目指す。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：4、歴：3</p> <p>各館とも民間事業者との協働を進めた。自然史博物館、歴史博物館では、新しいミュージアムグッズの製品化を行った。また、科学館ではプラネタリウムの新規商品開発に協力し、全国販売されたほか、雑誌などでも取り上げられた。</p>	3	
	(大阪市立美術館)	33	(大阪市立美術館)	3	
	ア 館蔵品を中心とした作品や美術館の建物をモチーフにしたグッズなど、商品力やデザイン力に定評のある地元企業とのコラボレーションにより、新たな開発を進めていく。		ア 来年度にリニューアル後のショップ運営者が決定した後、館蔵品などを使用したグッズを検討する計画の中で、今年度はショップ運営事業者募集の公募型プロポーザルを進める中で、2月に公告を実施した。		
	(大阪市立自然史博物館)	33	(大阪市立自然史博物館)	3	
	ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、ショップの魅力向上に努める。		ア 新たなクジラデザインのタオル、ホネホネサミットや自然史フェスティバルを契機とした新デザインTシャツなどを発売。昨年度に引き続き毒展の鍋器グッズを販売した。		
	イ 特別展などに合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上にも努める。		イ 恐竜展での新たなグッズ開発、自然史のイラストレーション展に関連したグッズ開発を進めた。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館)	33	(大阪市立東洋陶磁美術館)	3	
	ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する。		ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する準備を進めた。		
			・館蔵品画像のオープンデータの商用利用を含む利用促進に向け、ジャパンサーチとの連携を引き続き行った。		
			・民間事業者との提携による最新技術による館蔵品の画像データ化とそれを活用したコンテンツを開発、公開（NHKエンタープライズと共同制作「Future Museum」～体感！国宝 油滴天目茶碗）、番組化（NHK「謎解き！ヒミツの至宝さん」「国宝 油滴天目茶碗」の放映）		
	(大阪市立科学館)	33	(大阪市立科学館)	4	
	ア 民間事業者との連携で、ミュージアムショップの商品の充実を図る。		ア 民間事業者との連携でプラネタリウムのガチャ玩具（プラネタリウム模型）の商品開発に協力し、9月より全国販売され、雑誌などでも取り上げられ話題となった。		

	(大阪歴史博物館) ア 民間企業と協働で展覧会およびイベントを企画し実行する。 イ ミュージアムグッズの企画開発、販売を民間事業者と連携して促進する。 ウ 民間企業と共同でイベント等企画開発を行うべく営業活動を実行する。	33	(大阪歴史博物館) ア イベントについてはクラブツーリズムとのツアー企画開発、JTBとのナイトミュージアム企画などを推進した。 イ 令和3年度に開発したミュージアムグッズを引き続き株式会社フェリシモでも販売し、BASEを利用してネット販売を行っている。またミュージアムショップ運営事業者とも新たな商品化を進めた。 ウ 株式会社マッシュおよびABCラジオとの連携によりウォーキングアプリ「きくたび」のコンテンツ作成に協力した。	3	
34 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援 研修等を通じて、民間事業者の地元への理解促進や知識習得を支援する。 専門的知識に基づく助言等で、市民活動を行う団体等を支援する。 民間事業者による博物館等資料を使った出版活動や商品開発を支援する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 自然史博物館では、大阪府内の市町村を中心に、環境行政の協力を積極的に進めた。その他の館は計画通りに実施し、民間事業者による資料提供の問い合わせ等に対応した。	3	
	(大阪市立美術館) ア 「ミュージアムプラットフォーム/MU」のプラットフォームを利用して館蔵品データの公開や講演動画の紹介などを実施する。	34	(大阪市立美術館) ア 「ミュージアムプラットフォーム/MU」のプラットフォームを利用して館蔵品データの公開や講演動画の紹介を行った。(令和4年度から継続)	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 学芸員の知見を求める自治体などの自然環境行政や企業などの環境保全活動の要請にこたえる。 イ 館蔵資料やその情報を活用した自然環境保全など、自然環境行政、環境活動に協力する。 ウ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。 エ 学芸員の学術的知見を必要とする民間団体、市民団体の活動に協力する。	34	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として協力を行っている。 イ 能勢町の保護上重要な生き物の作成に協力している。 【令和5年度実績】大阪府の生物多様性地域戦略検討委員等、事例多数 ウ 月例ハイク等での連携を継続。人数制限を順次緩和。合宿観察会は新型コロナの影響で開催できていない。 エ 業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、及び問い合わせ対応などを通じて、企業や自治体活動などの要請に応えていく。 【令和3年度実績】写真貸出34件、取材協力1件	34	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応えた。 【令和5年度実績】写真貸出19件(国内15件、国外4件：有料6件、免除13件)	3	
	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料や展示物の画像データの提供、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。	34	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料画像の書籍掲載による依頼対応等、有償による画像提供を12件実施した。 【令和4年度実績】6件	3	

	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体、市民団体の要請に応える。 【令和3年度実績】222件</p> <p>イ 企業の研修等に協力し、地元への理解・愛着の促進を支援する。</p> <p>ウ 資料及び関連情報を活用し、市民が館外（自宅や学校・職場等）でも楽しめる事業・サービスを民間事業者と共同で検討する。</p> <p>エ 通常の博物館運営ならびに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。</p>	34	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 写真利用の申請は、合計178件（有料133件、免除45件）に対応した。問い合わせ対応は随時実施した。 【令和4年度実績】212件（有料126件、免除86件）</p> <p>イ 歴史街道推進協議会の歴史セミナーへの企画・実施協力を通して、関係企業の事業に寄与した。 ・大阪府建築士事務所協会機関誌「MACHINAMI」の歴史記事について、企画・編集に協力している。</p> <p>ウ 市民団体の要望については、引き続き「喜連村史の会」に講師を派遣し、活動の支援を行った。このほか、資料及び関連情報を活用し、市民が館外（自宅や学校・職場等）でも楽しめる事業・サービスを民間事業者と共同で模索中である。</p> <p>エ 通常の博物館運営ならびに展示改修の支援を得るべく、法人賛助会員の内容を再考し獲得活動を模索した。</p>	3	
--	---	----	--	---	--

大項目 I-③	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (1) こども及び教員等への支援 (2) 幅広い利用者への支援 (3) 参画機会の提供
------------	---

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 法人は、各館を人々が探究心を抱き、感受性及び創造性を育むことができ、多様な学習ニーズに応えるものとするにより、市民力の向上に貢献する。 (1) こども及び教員等への支援 ・ こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 ・ 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・ 評価のコメント	評価
(1) こども及び教員等への支援						
こどものリテラシーの向上及び教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 35 こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 こども・親子向け展示プログラムや体験型イベントを実施する。 学校利用向けのワークシートの作成や教材の開発・貸出しを行う。 団体鑑賞学習の受け入れや来館時のオーダーメイド講演へ対応する。 職場体験の受け入れを実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3、中：3 各館ともに、ワークシートの提供やワークショップの開催等、計画通りに実施できた。	3		
	(大阪市立美術館) ア 改修にあたり、3階に教育普及に使用する部屋を作り、ワークショップ等のこども向けの事業を行うことを可能にする。 イ 天王寺区との連携により、リニューアル後のプログラム化を進めていく。 ウ 大阪産業局などとの連携により「デジタル美術部」の取り組みを実施する。	35	(大阪市立美術館) ア 改修工事により3階に教育普及事業を行うスペース「ワークルーム」(114㎡)を設置した。 イ 天王寺区行政連絡調整会議に出席し、区や区内各施設との連携の検討を開始した。 ウ 地下展会場でワークショップなどを開催する予定だったが、後に10月～3月に工事が入ることとなり、また大阪産業局の補助金が対象外となったことも合わせて開催中止としたが、美術研究所の新しい取り組みとして『子供から社会人まで、美術に親しむ方』を対象としたコースを設けることとした。	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化。参加者アンケートなどの取り組みを強化する。	35	(大阪市立自然史博物館) ア ワークショップは開催形態等を工夫して継続して実施している。 イ 常設展ワークシートは「たんけんノート」として改良、貸出資料を提供中、新規のキット等も積	3		

	<p>イ 常設展での小学生・中学生向けワークシート、学習用貸出資料の開発と提供を継続的に行う。</p> <p>ウ 特別展での見学用「ワークシート」、「キッズマップ」、「キッズパネル」の開発と提供を行う。</p> <p>エ 学校団体を対象とした遠足下見、説明会、相談対応を実施する。</p> <p>オ 事前の要請に応じた博物館内での学芸員による特別授業を実施する。</p> <p>カ 中学生、高校生、大学生への職業体験、インターンに対応する。</p> <p>キ 常設展での自己学習型シート「たんけんクイズ」の配布を継続する。</p>			<p>極的にYouTubeやホームページに提供、「おうちミュージアム」に整理、再編、積極的に行った。</p> <p>ウ 自然史のイラストレーション展に向けて、キッズマップ・キッズパネルを開発。</p> <p>エ 遠足下見、説明会、相談対応を随時実施した。</p> <p>オ 館内での特別授業は増加してきている。</p> <p>カ 学芸員実習はほぼ例年通りに実施している。</p> <p>キ 「たんけんクイズ」は「たんけんノート」としてのリニューアルを行い、試行を経て改良したものを実施している。</p>
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの利用促進を図る。</p> <p>イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行などに関する学習理解の助けとなる学習用資料を作成する。</p> <p>【令和3年度実績】19回</p> <p>ウ 幼児～小学校低学年を対象とした展示コーナーを常設するとともに、プラネタリウムにも「ファミリータイム」を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】ファミリータイム243回実施</p> <p>エ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。</p> <p>オ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。</p> <p>【令和3年度実績】30校30件</p>	<p>35</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 小学生向けの展示場ワークシート「たんけんラリー」5種類を科学館HP上で公開し、利用に供した。</p> <p>イ 学習投影の投影実績は151回。観覧者には、学習用のパンフレット「学習のしおり」を無料配布した。</p> <p>【令和4年度実績】234回</p> <p>ウ 「ファミリータイム」の投影実績は280回。また展示場2階において「おやかでかがく」をテーマとした常設展示を行った。</p> <p>【令和4年度実績】ファミリータイム実施450回</p> <p>エ ジュニア科学クラブは4～9月に5回実施したほか、月刊「うちゅう」での各種情報紹介等を実施した。会員数：50名</p> <p>オ 大阪市立小学校向けの出張サイエンスショーは、市教委との連携のもと10～12月の期間に10件実施した。</p> <p>【令和4年度実績】計10校10件実施</p>	<p>3</p>	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 地元の小中学校への郷土史学習コンテンツやイベントを企画し、参画・利用を働きかける。</p> <p>イ 常設展示場内でのスタンプラリー実施や8階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布を行う。</p> <p>ウ 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」等のこども向け事業を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>凧づくりと凧あげ（4組9名）。手作りおもちゃで遊ぼう、和同開珞の拓本でしおりをつくらう、綿くり・糸つむぎ体験、ダンボールでつくる、考古学体験教室はコロナ禍のため中止。</p> <p>エ 小中学校向け展示ガイドブックやワークシートを当館ホームページにアップし、教員への周知を図る。</p> <p>オ 学校からの要望に応じて中・高生向け職業体験を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>職業体験等：中学校1校、高校1校、出前授業</p>	<p>35</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 出張授業として中大江小学校で綿繰り体験、大阪府立南視覚支援学校で考古学体験を実施した。</p> <p>イ ボランティア事業の再編のため常設展示場内のハンズオン・スタンプラリーは中止した。「歴史を掘る」は土器復元パズル・顕微鏡などを再開したが、ワークシートは配布を見合わせた。</p> <p>ウ わくわく子ども教室として「ふわふわの綿花からタネを取り出そう！@れきはくコットンプロジェクト」（5/3・4：116名）、「なりきり三英傑～戦国武将のお面を作つこう」（5/5：24名）、「さわって作って！ナニコレ？のこうかがく」（7/29：20名）、「組みもにチャレンジ！」（8/11：22名）、「凧作りと凧揚げ」（1/27：23名）を実施した。</p> <p>【令和4年度実績】「考古学者になってみよう」（8/20：17名）、「ふわふわの綿花からタネを取り出そう！@れきはくコットンプロジェクト」（7/30：70名）、「近代建築ダンボールクラフト体験」（12/17・18：9名）、「凧づくり</p>	<p>3</p>	

	等：小学校1校、中学校1校		と夙あげ」（1/28：38名） エ 学校利用促進のため、小学校、および中学校向けに作成した2冊の手引書をホームページ上で公開した。 オ 職場体験として、中学校2校5名、高等学校1校2名を受け入れた。また、高等学校2校の職業インタビューに対応した。 【令和4年度実績】 中学生向け職業体験：3校6名、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等：中学校1校、高等学校4校		
	(大阪中之島美術館) ア 外部専門家と連携して、子どもを対象としたワークショップ等を実施する。	35	(大阪中之島美術館) ア 外部専門家と連携して、子どもを対象としたワークショップ等を実施した。 ・キッズプラザ大阪等との協働による子どものためのラーニングプログラムを実施した。	3	
36 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施 教員に対する博物館活用に関する研修会やワークショップを開催する。 教員による施設利用の事前学習を支援する。 大阪府・市教育センター等と連携を図り、教科部会や教員を支援する。			【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：4、事：3 各館とも教育施設等と連携した教員等を対象とした研修を実施するとともに、授業内容の充実のための資料提供等に協力した。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 教員のための博物館の日を開催し、学校利用のための研修や相談を実施する。 イ 教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用法の周知に努める。 ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。	36	(大阪市立自然史博物館) ア 教員のための博物館の日は人数を限定し、対面で開催した。また、博学連携のための研究会を科研費事業の一環として行っている。 イ 教員向けサポート連絡誌TM通信の発行を再開した。特別展等を含め館のより良い利用につなげる情報を提供している。 ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発について、科研費事業等で取り組んだ。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 学校との連携を促進し、教員や子ども向けの研修・ワークショップへの協力・施設利用のための事前学習への支援について検討する。 イ 館藏品画像オープンデータ化を通し、各種教材や教育プログラムへの利用推進を図る。 【令和3年度実績】 2件	36	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の子ども向けの研修・ワークショップについて検討するため、令和5年9月15日、16日に長野県立美術館における子ども向けワークショップを視察し、次年度以降の実施に向けての参考とした。 イ 館藏品画像オープンデータ化を通し、各種教材や教育プログラムへの利用推進を図った。 【令和5年度実績】 高等学校、大学の教科書・教材への掲載 2件	3	
	(大阪市立科学館) ア 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。 【令和3年度実績】 2件 イ 教員と連携を行い、事業の教育効果を高める。	36	(大阪市立科学館) ア 大阪市教育センター、大阪教育大学と連携した研修「科学館セミナー」を1回、大阪市教育センターと連携し「大阪市立科学館連携研修」を2回、「小学校理科研修B」を1回、大阪市中学校教育研究会理科部研修を1回実施した。 【令和4年度実績】 4件実施。 イ 大阪市教育センターと連携し実施した教員研修「大阪市立科学館連携研修」では、教員からもサイエンスショーに対する意見、提案等を受け、サ	3	

			イエンスショーの実施に役立てた。		
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 教員向けの利用講座を通じ、ワークショップ等で当館の魅力を伝えることにより、当館の活用を図るようにする。</p> <p>イ 教員研修への協力をを行う。</p> <p>【令和3年度実績】50名(オンライン開催)</p> <p>ウ 教員のための博物館の日を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】50名(オンライン開催)</p> <p>エ 授業づくりの支援のため、教員に素材となる資料・情報を提供する。</p>	36	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 阿倍野区常盤小学校の社会科研究授業において、授業作りのための資料提供等を協力した。次年度に向けて野田小学校での難波宮に関する授業支援の協議を開始した。</p> <p>イ 大阪市教育センターと協力して、8/7に教員研修を実施した(47名)。今年度は令和4年度に実施した「和菓子プロジェクト」を活用した学校向け調べ学習の成果について報告し、研修では体験プログラム(綿くり・拓本・土器パズル)を実施し、学校団体での来館および出前授業等の促進を図った。</p> <p>【令和4年度実績】47名</p> <p>ウ 機構事務局と協力して「教員のための博物館の日」を教員研修と同時開催した(21名)。「和菓子プロジェクト」を紹介し、新たな教材の参考として特集展示「ナニコレの考古学」における取組や、「ふわふわの綿花かタネを取り出そう!@れきはくコットンプロジェクト」を紹介した。</p> <p>【令和4年度実績】10名</p> <p>エ ウとおなじ。</p>	4	
	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 「教員のための博物館の日」を自然史博物館、歴史博物館で各1回開催する。</p> <p>【令和3年度実績】オンライン開催(自然史博物館45名、歴史博物館53名)</p>	36	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 「教員のための博物館の日」を自然史博物館、大阪歴史博物館で開催した。(8月4日 68名、8月7日68名 計136名が参加)</p> <p>・教員等を対象にした研修及び教材の開発に係る支援等を推進するため、大阪市教育委員会と包括連携協定を締結した(3月21日)。</p>	3	

中期目標	<p>3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」</p> <p>(2) 幅広い利用者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと(再掲11) ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(再掲12) ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(再掲23)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価 評価の判断理由(実施状況等)	市長の評価 評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
------	------	--------	---------------------------	------------------------------	----

(2) 幅広い利用者への支援					
さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるため、支援メニューの充実に取り組む。					
<p>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>37 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施</p> <p>学校を単位としたメンバーズ制度による高校・大学生等の利用促進を図る。</p> <p>大学院生や若手研究者への研究協力(インターン制度を含む)を行う。</p> <p>市民による高度な研究を支援するための制度を継続的に実施する。</p> <p>関連団体への専門的助言等を通じて支援を行う。</p>		<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3</p> <p>各館とも、計画通りにキャンパスメンバーズや、学生・大学等への支援を実施した。</p>	3		
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 改修後の美術研究所の運営方法について検討を進める。</p> <p>イ 休館中の美術研究所の活動として作品画像による添削を中心としたオンラインサポートを実施する。</p> <p>ウ 大阪府立水都国際高校などでの出張講義を行う。</p>	37	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア リニューアル後の美術研究所の運営方法について検討し、決定した。</p> <p>イ オンラインサポートの実施を継続(26名が参加)</p> <p>ウ 大阪公立大学 博物館資料保存論及び博物館経営論への講師派遣を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 博物館実習などを通じ、学生への支援を行う。</p> <p>イ 要請に基づき、大学での博物館学関連講座への出講を行う。</p> <p>ウ 館蔵資料の閲覧対応などを通じて研究者の活動を支援する。</p> <p>エ ジュニア自然史クラブを通じた自然科学に興味を持つ中高生への直接的な指導を行う。</p> <p>オ 周辺地域の Super Science Highschool 指定校などへのサポートを要請に基づいて行う。</p> <p>カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。</p> <p>キ 大学生ワークショップサポートスタッフへの教育的指導を含めたエデュケーターとしての育成に努める。</p> <p>ク キャンパスメンバーズ対応館であることを PR し、大学生等の来館を促す</p>	37	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 博物館実習を通常通り受け入れた。</p> <p>イ 大阪公立大学(博物館経営論・展示論・資料保存論、分担)、和歌山大学博物館経営論、奈良女子大学博物館展示論等に出講。その他、近畿大学等各大学の博物館での実習に協力している。</p> <p>ウ 館蔵資料の研究目的での閲覧は日常的に受け入れている。</p> <p>エ 112名がメーリングリスト登録、今年度は雨天中止を除き、少人数での野外行事を多数実施した。</p> <p>オ 高校生物教育研究会等を通じ支援、(11/23生徒研究発表会等で発表)、また、「地域自然史と保全大会」でも高校生による発表があった。</p> <p>カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行って(再掲)</p> <p>キ ワークショップサポートスタッフの育成は順調に進み3月には成果発表を博物館こどもまつりとして実施した。</p> <p>ク キャンパスメンバーへの来館促進のため、SNS等で告知を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 東洋陶磁研究の世界的な拠点として、外来研究員や研修生(インターン)の受け入れを推進する。</p> <p>【令和3年度実績】研修生(インターン)4名</p>	37	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 研修生(インターン)2名の受け入れを行った。</p> <p>イ 包括連携協定を締結している大阪公立大学の博物館学関連講座への出講を行った(博物館経営</p>	3	

	<p>イ 包括連携協定を締結している大阪公立大学の博物館学関連講座への出講を行う。 【令和3年度実績】大阪市立大学46名・大阪芸術大学47名</p> <p>ウ 館蔵資料の調査対応等を通じて研究者の活動を支援する。 【令和3年度実績】2件2名</p> <p>エ キャンパスメンバーズ制度に加入している大学の学生をはじめとした、学生等の来館促進の方策について検討する。 【令和3年度実績】443人</p>		<p>論、展示論)。 ウ 館蔵資料の調査対応等を通じて研究者の活動を支援した(1件2名)。 エ キャンパスメンバーズ制度に加入している大学の学生をはじめとした、学生等の来館促進の方策について検討した。</p>		
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 天文学を学べる大学と連携し、その分野への進学に興味を持っている生徒に情報提供を行う場を設け、大学と高校生の仲立ちを担う活動を実施する。</p> <p>イ 市井の研究者と学芸員の協同による中之島科学研究所事業を行う。</p> <p>ウ 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い市民に対する専門的な助言等の支援を行う。 【令和3年度実績】友の会 会員数645人</p> <p>エ 博物館実習を実施し、学芸員資格の取得をめざす学生の支援を行う。</p> <p>オ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。 【令和3年度】来館者1,182名</p>	37	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 全国の大学と協力し、天文を学べる大学や大学院に興味のある高校生教員、保護者等を対象にしたイベント「天文学者大集合!宇宙を学ぶ大学紹介イベント」を実施した。36名参加。 【令和4年度実績】実来場24名参加</p> <p>イ 中之島科学研究所事業を実施し、研究員と学芸員等による講演、議論を行う「コロキウム」を5回実施した。 【令和4年度実績】11回実施</p> <p>ウ 友の会の活動を支援し、例会での講演をはじめとした各種支援を実施した。(友の会会員数567人)</p> <p>エ 博物館実習を9月に実施した。受講生5名。その他、大阪公立大学との包括連携に伴い、公立大学の講義、「展示論」「博物館経営論」に学芸員等が出講し、学生の支援を行った。</p> <p>オ 今年度のキャンパスメンバーズ制度の利用者数は、1,939名であった。(開催期間4月1日(土)～11月5日(日))</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 夏季に博物館実習等を通じ、学芸員資格の取得をめざす実習生を受け入れる。 【令和3年度実績】11大学42名</p> <p>イ 包括連携協定にもとづき、大阪公立大学への出講等を行う。 【令和3年度実績】大阪市立大学3講座</p> <p>ウ 館蔵資料の閲覧対応等を通じて研究者の活動を支援する。 【令和3年度実績】15件</p> <p>エ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。 【令和3年度実績】1,147名</p>	37	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 8/21から9/1まで2期に分けて博物館実習を行い、12大学50名の実習生を受け入れた。見学実習は7大学255名を受け入れた。 【令和4年度実績】博物館実習9大学 52名</p> <p>イ 大阪公立大学3講座に学芸員を派遣した。 【令和4年度実績】大阪市立大学3講座、大阪大学2講座、大阪芸術大学、関西大学、京都橘大学(後期)、同志社大学</p> <p>ウ 26件の資料閲覧申請に対応した。 【令和4年度実績】15件</p> <p>エ キャンパスメンバーズの令和5年度の実績は1,032名。 【令和4年度実績】981名</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 博物館実習生を受け入れる。</p> <p>イ 外部研修生(インターン)制度と博物館実習の重複を整理し実施を検討する。</p>	37	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア これまでの外部研修生(インターン)制度を見直し、研修プログラムを策定した。</p> <p>イ 博物館実習生の受け入れ計画を作成するとともに、R5年度の実習生の受け入れ開始の準備を行った。</p>	3	

	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア キャンパスメンバーズを実施し、大学生等が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解を深められるようにする。</p> <p>【令和3年度実績】提携校 大学4校 高校3校</p> <p>イ 包括連携協定に基づき、大阪公立大学の博物館学講座「資料保存論」「展示論」「博物館経営論」の3講座に対する取りまとめを行い、職員の出講を行う。</p>	37	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア キャンパスメンバーズ制度を実施した。提携校 大学2校、高校2校。特に、大阪公立大学とは、本制度を利用しながら博物館学講座(保存論、展示論、経営論の3講座)との連携を実施した。</p>	3	
<p>38 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業</p> <p>講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。(再掲)</p> <p>踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。(再掲)</p> <p>ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。(再掲)</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4</p> <p>中：3、事：3</p> <p>各館とも計画通りにセミナーや講座等を実施した。市立美術館、東洋陶磁美術館ではリニューアルオープン後の講演会や講座等の計画案を策定した。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 改修に際し、1階多目的室やカフェに講演会やレクチャー等に使用可能な設備、3階にワークショップ等に使用可能な部屋を作り、再開館後の教育普及事業の充実に備える。</p>	38	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 改修後に講演会やレクチャーに使用できる設備を1階に設け、普段はフリースペースとしてお客様に開放する。また、3階に教育普及事業を行う「ワークルーム」(114㎡)を設置し、再開館後の教育普及事業の事業に備える。合わせて、美術教育事業を行う美術研究所も「ワークルーム」を活用し教育事業を行うこととした。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 各種の自然観察会など多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。</p> <p>イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。</p> <p>ウ 外部の学術団体などと連携したシンポジウム・講演会などを誘致開催する。</p>	38	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 野外観察会は雨天や熱中症警戒アラートによる中止等を除き、順調に実施している。人数制限を順次緩和している。</p> <p>イ 『自然史オープンセミナー』はハイブリッドによる開催を行っている。</p> <p>ウ 地学団体研究会との共催によるセミナー、関西自然保護機構等との共催シンポジウムをハイブリッドで開催した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討する。</p> <p>【令和3年度実績】 実来場1回、オンライン4回</p>	38	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画案を検討、策定した。また、泉屋博古館東京と九州国立博物館で館蔵品の魅力を発信する展覧会を実施し、それぞれの内容に関する講演会を計5回実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】 12件</p> <p>イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。</p> <p>【令和3年度実績】 サイエンスガイドによる展示解説を実施</p>	38	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員等による各種実験教室・講座・講演会として、天体観望会(4回)、中之島科学研究所コロキウム(6回)、夏休みの自由研究教室(3回)、会員制のジュニア科学クラブ(5回)を開催した。</p> <p>【令和4年度実績】 15件</p> <p>イ サイエンスガイドによる展示ガイドを実施したほか、エキストラ実験ショーを58回開催した。</p>	3	

	<p>ウ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。</p> <p>エ オンラインによる事業を実施する。</p>		<p>【令和4年度実績】2件</p> <p>ウ 中之島科学研究所コロキウムを6回実施した。</p> <p>【令和4年度実績】1件</p> <p>エ 大阪では見られない部分日食を和歌山県からインターネットで中継するオンライン事業を実施した。</p>		
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連携を図りつつ「なにお歴博講座」やテーマをもった連続講座を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】なにお歴博講座6回</p> <p>イ 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する。</p> <p>ウ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。</p>	38	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア なにお歴博講座は9月から毎月実施し、計7回279名の参加者があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なにわの日講演会」と連続講演会「極める！難波宮」を計画し、難波宮関連の講演会を7月から計8回開催し、590名の参加者があった。(再掲) <p>【令和4年度実績】11回 784名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドレンジャーを利用した見学会として、10月から考古学入門講座「考古学散歩」、「はじめての歴史散歩」、「おおさか街歩き」、「「大坂の陣」激戦地を歩く」を計13回実施し、198名の参加者があった。(再掲) <p>【令和4年度実績】2回 38名</p> <p>イ 特別企画展「異界彷徨―怪異・祈り・生と死―</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 227名、スライドトーク 4回 488名 ・異界'生'通信(Twitterスペース) 2回 202名 <p>特集展示「新発見！なにわの考古学2023」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 76名(再掲) <p>ウ 「中世大阪の沿海開発と村・城館」(10月)で館長が講演し、見学会「「大坂の陣」激戦地を歩く」(3回)でも案内を担当した。(再掲)</p>	4	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連携を図りつつ「なにお歴博講座」やテーマをもった連続講座を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】なにお歴博講座6回</p> <p>イ 展覧会等の関連事業としての講演会等を開催する。</p> <p>ウ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。</p>	38	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア トークイベント、シンポジウム等を、展覧会関連を中心に積極的に実施した。</p> <p>イ アーカイブズの方針、収集や整理、システム開発や運用方法等にかかる研修、普及事業を実施した。</p>	3	
	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。</p> <p>【令和3年度実績】学芸員連続講座 Talk & Think16回実施</p> <p>イ 大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回程度、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。</p> <p>【令和3年度実績】大阪市立大学との連携で1シリーズ(6講演実施)、歴史に関する連続講座を</p>	38	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を2月13日～3月5日に合計15講座を配信。</p> <p>イ 大阪公立大学等と連携して以下の事業を実施した。</p> <p>理系講演会「素粒子と宇宙」：7月29日</p> <p>歴史に関する連続講座「古代難波宮研究の最前線」：11月(4講演)</p> <p>ミュージアム連続講座「大阪 水辺をめぐる物語」：3月1シリーズ(6講演)</p> <p>博学連携講演会「森ノ宮には何があった？―大阪の「ヒガンシ」の歴史をさぐる―」：3月2日(8講演)</p>	3	

	<p>1シリーズ（4講演実施）、近世、近代、近現代までの大坂画壇についてのシンポジウムの実施、理系講演会の実施</p> <p>ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】1回</p>		ウ 2件実施した。（4月24日、8月17日）		
39 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開	<p>図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する(再掲)。</p> <p>収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する(再掲)。</p> <p>講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録等のアーカイブ化と公開を促進する(再掲)。</p>		<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3</p> <p>中：3</p> <p>各館とも展覧会の図録や研究報告等を計画どおり発行した。一部インターネットを介して公開するなど、博物館の活動の成果の公開を行うことができた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 研究紀要を発行し、ホームページ上で公開する。</p> <p>イ 広報誌『美をつくし』を発行する。</p> <p>ウ メールマーケティングのプラットフォームを活用した情報発信を休館中も実施していく。</p>	39	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 大阪市立美術館紀要24号発行し、HPに掲載した。</p> <p>イ 広報誌「美をつくし」（198号・号外）を発行しHPに掲載した。内容は「美をつくし」展巡回二会場（福島・熊本）の実施内容を報告した。</p> <p>ウ メールマガジンの配信を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開</p> <p>イ 共同研究報告書、館蔵資料集などの継続的な発行</p> <p>ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。</p> <p>エ SNS やブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。</p>	39	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 大阪市立自然史博物館研究報告78号（再掲）、自然史研究4巻7号を発行した。（再掲）</p> <p>イ 収蔵資料目録55集を発行した。（再掲）</p> <p>ミニガイドに変えて常設展展示解説（新版）を発行した。（再掲）</p> <p>ウ 館報48号を発行した。（再掲）</p> <p>エ 特別展解説書『自然史のイラストレーション』を製作発行。（再掲）</p> <p>オ 友の会発行の月刊誌Nature Study69巻4号から69巻3号の12冊を順次発行した。（再掲）</p> <p>カ 共著書籍「ニッポンの氷河時代：化石でたどる気候変動」が発行された。（再掲）</p>	4	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行及びその準備を行う。</p> <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。</p>	39	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売等を行った。（再掲）</p> <p>編集（編著）3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品図録『李秉昌コレクション韓国陶磁ー純真なる美』のデザイン制作（編集・発行、印刷・発行は翌年度以降） ・泉屋博古館東京展覧会図録「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」展図録（編著、一般書籍） ・九州国立博物館展覧会図録「憧れの東洋陶磁 大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」展図録（編著、一般書籍） <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告については、HPでの発信を目指した見直しならびに公開講座の見直しにより、紙媒体での発行は取りやめること</p>	3	

			になった。		
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、ホームページを通じて公開する。</p> <p>イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。</p> <p>【令和3年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。</p> <p>エ 展示解説の動画配信や SNS ツールを利用した情報発信を行う。</p> <p>オ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。</p> <p>カ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。</p>	39	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪市立科学館研究報告誌や月刊「うちゅう」等の発行物をHP上で公開し、成果を広く公開している。また、学芸員による研究成果の学会・研究会発表(口頭、論文を含む)を3件行った。</p> <p>イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。</p> <p>【令和4年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 「科学館だより」を2号発行した。</p> <p>【令和4年度実績】4号発行</p> <p>エ HP上で展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」108件を配信している。またX(旧Twitter)では「大阪市立科学館広報」、「学芸員@大阪市立科学館」の2つのアカウント、その他Instagramにて情報発信を行っている。</p> <p>オ ミニブックは18冊を販売している。9月に新たに新刊1冊の刊行を実施した。</p> <p>また、「こよみハンドブック2024-2026」を発行した。</p> <p>【令和3年度実績】12冊発行。</p> <p>カ HP上においては、月刊「うちゅう」や研究報告誌等のオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、ホームページ上で公開する。</p> <p>【令和3年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第20号</p> <p>イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を継続的に発行する。</p> <p>【令和3年度実績】「共同研究報告書」第16号、「大阪歴史博物館館蔵資料集」第18号</p> <p>ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。</p> <p>エ 開催する特別企画展のリーフレットを作成する。</p> <p>【令和3年度実績】2本の特別展において、それぞれ図録、参考図書を作成。</p> <p>オ 特集展示リーフレットの印刷・配布方法を見直し、ホームページでPDFを公開する。</p> <p>【令和3年度実績】6本の特集展示において作成した。</p>	39	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 研究紀要第22号を発行した。データは総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」で公開予定である。(再掲)</p> <p>【令和4年度実績】研究紀要 第21号</p> <p>イ 共同研究報告書と館蔵資料集の発行計画を見直し、隔年ごとに交互に制作することとした。よって今年度は館蔵資料集19「興上清雅」を発行した。</p> <p>【令和4年度実績】作成なし</p> <p>ウ 令和4年度年報を10月に発行し、ホームページに掲載した。(再掲)</p> <p>【令和4年度実績】「大阪歴史博物館年報」令和3年度を発行・HP掲載</p> <p>エ 特別企画展「異界彷徨」ではリーフレットおよびコーナー開設を作成・配布した。(再掲)</p> <p>【令和4年度実績】1本の特別展で図録を作成した。</p> <p>オ 開催した5本の特集展示で作成した。印刷・配布方法の見直しを行い、ホームページでのPDF公開を実施した。(再掲)</p> <p>【令和4年度実績】開催した6本の特集展示において作成・配布した。</p>	3	

	(大阪中之島美術館) ア アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。 イ 撮影済みの画像データの公開 撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。 ウ 特別展の図録を作成・販売する。	39	(大阪中之島美術館) ア アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理・登録等の業務を進めた。(再掲) イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開した。(再掲) ウ 作品資料の撮影を行うとともに、撮影済みの画像データの登録を進め、収蔵品管理システムの充実を図った。(再掲)	3	
40 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)等を活用した多言語対応を進める(再掲)。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る(再掲)。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4 中：3 これまでの多言語対応を継続し、リニューアルを見据え、作品の解説文等の多言語化を進めた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 改修後の運用を見据え施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。 イ これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。	40	(大阪市立美術館) ア 館内サインを多言語化も考慮しながら進めた。 イ 来年度のHP改修で、Google翻訳による多言語化を組み込む予定。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。 イ 常設展示場内における外国語表記についてQRコードを利用した解説など多様な手法を用いる検討を行う。 ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証と検討を進める。	40	(大阪市立自然史博物館) ア 昨年度のやさしい日本語への取り組みを、webに順次取り込んでいる。 イ 充実に向けて引き続き検討を行った。大規模改修に向けた他館の調査、検討の中で充実化に向けて検討を進めている。(再掲) ウ 英語による非常放送等は実現しているが、スタッフによる対応等ならぬ改善手法について検討した。(再掲)	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア コレクション展における主要館蔵品 61 件の多言語対応解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供とその充実を図る。 イ 作品解説やパネル、出版物などの多言語化に努める。 ウ 新型コロナウイルス収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。	40	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアルオープンに向けて、コレクション展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供を継続しながら、作品動画等のコンテンツや多言語化の充実に向けての準備を行った。(再掲) イ 刷新した作品解説やバナーなどの英語併記を行った。また、ホームページに日本語のほか、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語の5カ国語による展覧会情報を掲載した。 ウ 館内パンフレットの5言語での印刷とQRトランズレーターによるスマートフォンでの多言語表示を試みた。	3	
	(大阪市立科学館) ア ホームページ、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。 イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記の充実に取り組み、国内外からの来館者の需要に対応する。 ウ 施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。	40	(大阪市立科学館) ア HPにおける各国語への誘導ページの作成や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語の対応を実施している。 イ 常設展示物の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」において、英語、中国語、韓国語で運用した。また、YouTubeで公開中の展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」の一部に英語字幕を入れて公開している。 ウ 非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすい	3	

			ものに変更し、来館者が情報を得られる工夫を多言語で展開している。また、展示改装業務に合わせ、館内案内板の見直しも行っている。		
	(大阪歴史博物館) ア ポストコロナも念頭に置き、来館者状況を注視しながら施設案内等の多言語化について見直しを進める。 イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。	40	(大阪歴史博物館) ア 7種の外国語パンフレット配布数を分析し、国別の来館者動向の把握に努めた。 イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。音声ガイドについては展示室のWi-Fi化と並行してクラウド型へ移行し、多言語対応する準備を完了した。(再掲)	4	
	(大阪中之島美術館) ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。	40	(大阪中之島美術館) ア 公式HP、オンラインチケット販売システム等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努めた。	3	

中期目標	<p>3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」</p> <p>(3) 参画機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進 ・各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ・さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(3) 参画機会の提供						
市民活動に寄与するため、次の通り、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。						
<p>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>41 ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進</p> <p>友の会の組織と自主性を活かした運営を支援する各種ボランティア(ガイドや学芸補助等)活動の拡充を図る。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>自：3、陶：3、科：3、歴：4</p> <p>自然史博物館および科学館では、ボランティア活動等を実施した。また、東洋陶磁美術館や歴史博物館では、休止していたボランティア活動再開に向け、新たな活動方針の取り決めを行った。</p>	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう継続して検討を行う。 イ 学生向けのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。 ウ 関連NPO法人などとの協働事業を積極的に実施する。 エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。	41	(大阪市立自然史博物館) ア 補助スタッフとしてボランティアに各種野外行事・実習等を支援してもらっている。この他にも、資料整理ボランティア(魚類標本等)が活動を活発化させている。 イ 昨年度から継続の学生も多く参加し、充実した研修を受けている。博物館以外に自然史センターでのインターン受入を予定。 ウ 各NPOと連携を進めている。4月には大阪自然史センターとの活動報告会を連携してオンラインにて実施。9月までに614回再生。8月には環境事業協会の講座に協力。 エ 月例ハイク等を含め連携を継続。(再掲)	3		

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 当館活動に賛同・支援、参画する機会を広く提供するため、新たなボランティア制度を検討する。</p> <p>【令和3年度実績】 展覧会ごとの研修1回、意見交換会1回</p>	41	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 当館活動に賛同・支援する機会を広く提供するため、ボランティア制度を再検討し、新たな制度を策定した。また、ボランティアに対し休館中の取り組みを発信するとともに、リニューアル開館後の新プロジェクトの企画準備等を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア制度を自主的かつ持続可能な活動として進められるようになるよう再検討し、新たな制度を策定した。 	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 展示解説ボランティアによる展示ガイド、プチサイエンスショー、実験教室並びにその実施に向けての研修を行う。</p> <p>イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーの実施、並びにその実施に向けての研修とスキルアップ活動を行う。また、オンライン教室を行う。</p> <p>ウ 友の会活動、東亜天文学会の活動支援を行う。</p> <p>エ 展示改装に伴い新設する企画フロアを活用したボランティア活動を検討する。</p>	41	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 展示解説ボランティア「サイエンスガイド」が開館中はほぼ全日、展示場にて展示解説などの活動を行った。またプチ・サイエンスショーなどの研修も行った。</p> <p>イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーを実施した。</p> <p>ウ 友の会活動では、例会やサークル等の実会場実施・オンライン開催を支援した。東亜天文学会へは、月1回の大阪支部例会の開催を支援している。</p> <p>エ 展示改装業務の一環として、改装後に新設する企画フロアを活用したボランティア活動実施にむけた検討を行っている。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア コロナ禍・コロナ後を見据えてボランティア活動を再編するとともに、展示の見学、館内の講座への参加等の研修を行い、ボランティアスタッフの資質を高める。</p> <p>【令和3年度実績】 「ボランティアだより」27～34号を発行。オンラインによるボランティアミーティング(2月)、研修(3月)を実施。</p> <p>イ 近隣地域に活動拠点を置くNPO法人等と、わくわく子ども教室「凧づくりと凧揚げ」等の協働事業を実施する。</p> <p>【令和3年度実績】 凧づくりと凧揚げ9名</p>	41	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア コロナ禍で休止していたボランティア活動については、活動内容を再編するために5/14に一旦解散し、12月に新規の募集説明会、1月に募集締切、2月に面談、3月に研修を実施し、次年度4月から活動を再開する予定である。あらたな活動は、今後起こり得る感染症対策とともに、博物館や観覧者にとって何が必要か、ボランティア活動の根本に立ち返って検討した結果、「展示室サポーター」「難波宮遺跡ガイドサポーター」の2活動を行う予定である。今年度のボランティアの自己研修は5/14まで実施し、展示見学の参加者は5名であった。</p> <p>【令和4年度実績】 「ボランティアだより」35～39号を発行。オンラインによるボランティアミーティング(2月)、研修(3月)を実施。</p> <p>イ NPO法人まち・すまいづくりと協働し、日本凧の会・大阪の協力で1月27日に「凧づくりと凧揚げ」を開催した(23名)。</p> <p>【令和4年度実績】 凧づくりと凧揚げ 38名</p>	4	

<p>42 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取する。 友の会会員等との意見交換の場を設け、意見を聴取する。 市民団体との共同事業を通じて、利用者との対話を図る。</p>		<p>【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館ともボランティアや友の会等との意見交換の場を作り、利用者との対話の機会を作った。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 市民連携のあり方を検討する館長諮問の協議会を設置し、ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を検討する。 イ 友の会の総会および評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。</p>	<p>42 (大阪市立自然史博物館) ア 大規模改修をめぐる検討の中で、ボランティアやNPO関係者の参加を求め、博物館の開かれた運営のあり方を検討している。これらの協議を優先した結果、当初検討した協議会設置は先送りしている。 イ 友の会総会での大規模改修に関わるアンケート調査実施、評議員会（年間5回）、各種ワーキンググループ（随時）で意見交換を重ねている。 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行っている。 エ 博物館内でのルールに基づいた円滑なコミュニケーションを促進するために「自然史博物館でのコミュニケーションの原則」を制定しHP上で公開した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の新たな活動を含むボランティア制度の検討において、従来のボランティアガイドらとの議論や意見交換の機会を設定する。</p>	<p>42 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の新たな活動を含むボランティア制度の検討において、従来のボランティアガイドらとの議論や意見交換の機会を設定した ・意見交換会（2回） ・ボランティア有志による勉強会を実施した（3回）</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、意見徴収を行う。</p>	<p>42 (大阪市立科学館) ア サイエンスガイドリーダーと定期的に打ち合わせを行い、ガイドの日々の活動から得られる意見や要望などを集約し、学芸に提出して展示の改善などに役立てた。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館) ア 「ボランティアだより」の配信やアンケート・懇談会等を通じて、ボランティアとの意見交換を行う。 【令和3年度実績】意見交換会（オンライン）を1回実施 イ 友の会の総会および幹事会を通じ、意見を聴取する。</p>	<p>42 (大阪歴史博物館) ア ボランティア活動を再構築するために、5/14をもって現行のボランティアを解散した。新たな活動内容を策定し、11月からボランティアを再募集、3月までに研修を終え、次年度4月から活動を再開する予定である。 【令和4年度実績】ボランティアだより 35～39号 イ 友の会では、6月に総会が実施された。当館から役員として顧問を派遣し、博物館への要望等の聴取を行うとともに、友の会事業に講師を派遣して協力した（全4回）。 【令和4年度実績】友の会総会1回（6月）、幹事会13回。当館から総会を含めた友の会事業に講師を派遣して協力した。</p>	3	

<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 43 さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する(再掲)。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する(再掲)。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する(再掲)。</p>			<p>【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3、中：3 各館とも計画通りに、事業をすすめ、市民の活動・学習成果の発表の場を提供することができた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館) ア 改修後を見据え、新たな教育普及事業のあり方について検討を進める。 イ 作品修復体験など、地元企業との連携による体験型ワークショップに関する企画を進め、改修後の教育普及活動でのコンテンツとして展開をめざす。</p>	43	<p>(大阪市立美術館) ア 教育普及WGによる実践事例研究として周辺館で実施したヒアリング調査を提言としてまとめた。 イ 上記のヒアリングのなかで、実践事例を数多く把握するとともに、ワークショップを企画する企業と協議を行い、実現可能性（IPMとの整合性、収容人数、備品など）についての刷り合わせを行った。合わせて、事業実施のための予算確保の必要性を検討した。</p>	3	
	<p>(大阪府立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。 イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。 ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。 エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。</p>	43	<p>(大阪府立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場としてホネホネサミット2023、ジオ・カーニバル2023、大阪自然史フェスティバル2023を開催した。(再掲) イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行っていた。(再掲) ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会として各学会のポスター発表を支援するとともに、2月に『地域自然史と保全』研究発表大会を開催した。 エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展等生徒・児童の発表の機会を確保した。(再掲)</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドや科学デモンストレーターによるボランティア活動や、友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展等の活動を支援する。 イ こどものためのジオカーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会等の活動を支援する。 ウ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。</p>	43	<p>(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドによるボランティア活動を支援し、今年度は夏に「科学の体験マルシェ」と秋に「サイエンスガイドの日」の2件ワークショップや展示場でのガイド・ツアーやプチ・サイエンスショーを実施した。また科学デモンストレーターによる活動として、エキストラ実験ショーを実施した。 イ 「青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会」の活動を支援し、5月には科学館正面玄関前でプレイベントとして野外実験を行い、本大会を8月に開催した(会場：大谷中学校・高等学校、来場者：12,000人、講演会400人)ほか、「こどものためのジオ・カーニバル」は企画委員会に協力し、11月に開催した(会場：自然史博物館)。 ウ 2025年の大阪万博に向けて、ボランティアの科学デモンストレーター有志による「SCIENCE de DOYA (サイエンスでどや!)」の活動を支援し、</p>	3	

			万博共創チャレンジの活動として、「タデアイの葉ですり染め実験」など2件を実施した。また、「SCIENCE de DOYA」の登録商標化を図った。	
	(大阪歴史博物館) ア 館の活動に係る学術団体等と連携し、市民が最新の研究成果を享受できる報告の場を設ける。 【令和3年度実績】 歴史学入門講座(同講座実行委員会)は、感染拡大防止のためオンライン開催となった。	43	(大阪歴史博物館) ア 歴史学入門講座実行委員会と連携し、「歴史学入門講座」を7月に開催した(参加者107名)。(再掲) ・歴史街道推進協議会に協力し、「歴史ものがたりセミナー」の企画・講演・解説を実施した(3回)(再掲) ・シニアCITYカレッジに協力して、コラボ講座「大阪人物誌」を企画立案し、館長・学芸員を講師派遣した。(12回)(再掲) ・徳島県人会近畿連合会「近畿とくしま歴史講座」の開催に協力した。(再掲) ・エリーニ・ユネスコ協会「第23回なにわ歴史シンポジウム」の開催を後援した。(再掲) ・大阪商工会議所主催「なにわなんでも大阪チャレンジ」の問題作成に協力した。(再掲) 【令和4年度実績】 歴史学入門講座(同講座実行委員会)、科研費「中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究」シンポジウム、「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」との共催シンポジウム	3
	(大阪中之島美術館) ア 多様な層を対象としたプログラムを企画、実施する。	43	(大阪中之島美術館) ア 歴史学入門講座実行委員会と連携し、「歴史学入門講座」を7月に開催した(参加者107名)。(再掲) ・歴史街道推進協議会に協力し、「歴史ものがたりセミナー」の企画・講演・解説を実施した(3回)(再掲) ・シニアCITYカレッジに協力して、コラボ講座「大阪人物誌」を企画立案し、館長・学芸員を講師派遣した。(12回)(再掲) ・徳島県人会近畿連合会「近畿とくしま歴史講座」の開催に協力した。(再掲) ・エリーニ・ユネスコ協会「第23回なにわ歴史シンポジウム」の開催を後援した。(再掲) ・大阪商工会議所主催「なにわなんでも大阪チャレンジ」の問題作成に協力した。(再掲) 【令和4年度実績】 歴史学入門講座(同講座実行委員会)、科研費「中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究」シンポジウム、「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」との共催シンポジウム	3

大項目 II	II 業務運営の改善及び効率化に関する事項 5 業務運営の改善及び効率化 (1) 人材の活用と育成 (2) 評価制度の活用 (3) ICTの導入及び活用 (4) 民間活力の導入
-----------	---

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 法人は、業務運営の改善及び効率化を図ることで、法人の事業の持続的かつ安定的な実施を目指す (1) 人材の活用と育成 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置 ・職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 ・包摂的な社会にふさわしい人材の獲得 ・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲5)
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(1) 人材の活用と育成						
49 職員の意欲及び能力を活かすため、必要な体制整備を図るとともに、職員の育成に取り組む。 【法人として充実を目指す事項】 49 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置	(事務局) 職員の意欲及び能力向上に資するため、職員の能力が発揮できる組織体制の構築や職員の適切かつ柔軟な配置を進める。	49	(事務局総務課) 引き続き、時機に囚われず採用・配置を進めるとともに、再任用制度を活用し経験豊富な人材の配置に努めた。	3		
50 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 法人内での人事交流を積極的に実施する。 職員のスキルアップに寄与するため、職員の職能別・階層別の研修を実施する。	(事務局) 職種や職階を超えた職員に共通する研修を実施する。 係長級職員向けの研修を実施する。 新採・新任研修を実施する。 学芸員の資質向上を目的に、専門的研修を実施する。 法人の内部統制の推進のための研修を実施する。	50	(事務局総務課) 評価に関する研修を実施し、職員に資料を公開し、動画も配信した。 博物館のDX研修を職種や職階を超えた職員共通研修として実施した。 4月及び8月採用の新規採用者に対する新採研修を行うとともに、11月には契約事務にかかる研修を実施した。 公的研究費のコンプライアンス研修も2月に実施した。	3		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 51 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	(事務局) 年齢・性別等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を、すべての職種において採用する。	51	(事務局総務課) 職員採用にあたり、年齢・性別にとらわれずその能力に応じた人材を採用した。	3		
52 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲) 業務の中核を担う職員を安定的に確保するために、中長期的な採用計画及び育成計画を立案し、運用する。 年齢等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を採用する。 館藏品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす(再掲)。	(事務局) 新任の学芸員に対して各館横断的な研修を実施するとともに、人材育成の体系的な研修計画について検討を行う。	52	(事務局総務課) 4月採用の学芸員に新採研修を行った。 新規採用者も含め、博物館のDX化にかかる研修を2回実施した。	3		

【中期計画期間中の目標】 2021年度の大阪中之島美術館の開館後は、準備業務に従事した職員の削減を予定(3名程度)					
--	--	--	--	--	--

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (2) 評価制度の活用 ・法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 ・能力に応じた人事評価の実施 ・法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 ・インセンティブが適正に働く人事制度の導入
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価	評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント
(2) 評価制度の活用						
評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、適正な制度の構築及び運用を目指す。						
【法人として充実を目指す事項】 53 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 中期計画及び年度計画(以下「中期計画等」という。)の策定及び評価に関する規程等を整備し、その適切な運用に努める。	(事務局) 第1期中期計画のみなし評価及び令和4年度計画の自己評価については、6月末までに大阪市長に提出する。また上半期終了後に令和5年度の間中評価(仮評価)を実施し、下半期の業務改善につなげる。 令和4年度上期に取りまとめた「法人化の成果と今後(3年間のあゆみから)」や第1期中期計画期間のみなし評価結果に基づき、大阪市から提示される次期中期目標を受け、次期中期計画及び令和6年度年度計画を作成する。	53	3	(事務局総務課) 6月末に、令和4年度の自己評価及び第1期中期計画のみなし評価をとりまとめ、大阪市に提出した。その後の大阪市評価委員会において、評価内容の記載内容等について意見を頂き、機構内で情報共有を行い、次期の計画策定に活かすこととした。 令和5年度上半期の間中評価を取りまとめ、下半期の業務改善に活かした。 令和4年度上期に取りまとめた「法人化の成果と今後(3年間のあゆみから)」や第1期中期計画期間のみなし評価結果に基づき、大阪市から提示される次期中期目標を受け、第2期中期計画を策定し大阪市へ申請するとともに、令和6年度年度計画を策定し大阪市へ届出を行った。		
54 能力に応じた人事評価の実施 職員の能力向上を図るため、業務の成果を総合的に評価する人事評価制度を構築し、その運用をめざす。	(事務局) 職種に応じた能力が的確に把握できる人事評価制度の深化を図る。	54	3	(事務局総務課) 現在実施している評価制度については、一定、組織内に浸透し、概ね順調に評価実施がなされていると考えている。今後は、インセンティブ等の導入について検討を行っていく。		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 55 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 他館の事例研究等、博物館運営に関する調査・研究を実施する。(再掲)	(事務局) 展覧会事業における観覧者数や事業費を始め、適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する他館情報も含めた調査研究を実施する。	55	3	(事務局総務課) ・各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じて、業務改善を促した。 ・モバイル端末による人流データを用いた来館者分析を試行的に取り入れ、経営会議で分析結果を共有した。		
56 インセンティブが適正に働く人事制度の導入 適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する調査研究を実施する。 職員の資質向上を図るため、自己評価や人事評価	(事務局) 事業評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度の構築を検討し、その運用を実現する。	56	3	(事務局総務課) 館長業績評価制度を適正に運用し、業績に応じた給与支給等を実施した。また、人事評価制度についても、適正に実施した。		

に基づき、インセンティブが適正に働く制度を構築し、その運用を目指す。					
------------------------------------	--	--	--	--	--

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (3) ICTの導入及び活用 ・財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		評価
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	
(3) ICTの導入・活用					
業務の標準化及び迅速な処理のため、ICTの導入及びその活用を図る。					
【法人として充実を目指す事項】 57 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用 業務の効率化を図るため、法人の各館を結ぶネットワークを構築し、各種システムを稼働させる。	(事務局) 各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図る。人事・給与や財務会計システムを利活用し、業務の円滑化・省力化を図る。利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。 また、文書管理システム・電子決裁システムを導入し、意思決定の迅速化や事務の効率化を図る。	57	(事務局総務課) 各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図った。 人事・給与や財務会計システムを利活用し、業務の円滑化・省力化を図った。 大阪博の関連webサイトをCMSを用いて構築し、コンテンツ制作の業務効率化と、利用者への情報発信の改善を図った。 多岐に渡る法人諸規程を整理するとともに、各種のヒアリングや研修を行いつつ、文書管理システム・電子決裁システムを導入し意思決定の迅速化や事務の効率化を図った。	4	

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 (4) 民間活力の導入 ・事業効果を見極めた外部委託の推進 ・専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 ・民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(4) 民間活力の導入						
利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。						
【法人として充実を目指す事項】 58 事業効果を見極めた外部委託の推進 施設の管理・運営業務等における効率化を図る観点から、競争入札等を継続するとともに、各館の特性を踏まえて、新たな仕組みの導入について検討す	(事務局) 事務局や各館の進める事業における外部委託を進める。	58	(事務局総務課) 引き続き案内・受付・清掃・設備保守等の部門について外部委託を実施するとともに、非常に事務負担の大きかった会議議事録の作成についても外部委託を行った。	3		

る。			(事務局施設管理課) 市立美術館改修工事及び東洋陶磁美術館エントランス工事においてCM(コンストラクション・マネジメント)業務の委託により、スケジュール管理やコスト管理等業務の効率化に加え、工事発注方法等の手法や工事における協議の体制づくり等の改善を図った。 大阪市立美術館大規模改修工事では、総合評価方式一般競争入札を取り入れ、工程管理や環境対策等についての提案が行われた。			
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 59 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 広報や教育等適材適所で、専門的知識を有する外部人材の登用を検討する。	(事務局) 民間から登用した職員のスキルやノウハウ等を活用し、寄附金など外部資金の獲得に向けた取組を行う。	59	(事務局総務課) 民間から登用した職員を要職に配し、万博関連事業の一環として外部資金の獲得し、万博関係事業の進捗に寄与することが出来た。	3		
60 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	(事務局) 1. 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。	60	(事務局総務課) 文書管理システムについては、公募型プロポーザルを実施し、機構に置いて最適な仕様のシステム導入に至り、事務軽減が図れると考えている。 (事務局経営企画課) 大阪博関連事業については、公募型プロポーザルを実施し、民間事業者からの企画提案を受けて実施したほか、事業実施において旅行会社や交通事業者等民間事業者に対するヒアリングを行い、企画・進行の参考にした。 (事務局施設管理課) 設計価格の算出に当たっては、実勢価格を反映した民間の市場単価を採用する積算基準を採用し実施してきており、契約不調はほぼない状況だった。市立美術館大規模改修工事及び東洋陶磁美術館エントランス増築工事において、CM業務の委託により、スケジュール管理やコスト管理等業務の効率化に加え、工事発注方法等の手法や工事における協議の体制づくり等の改善を図った。	3		

大項目 III	III 財務内容の改善に関する事項 6 財務内容の改善 (1) 収入の確保 (2) 経費の節減
------------	--

中期目標	6 財務内容の改善 法人は、財務内容の改善を図り、持続可能な事業の実施に必要な資金を確保することで、安定的な経営を目指す (1) 収入の確保 ・幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 ・各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価 評価の判断理由(実施状況等)	評価																		
(1) 収入の確保																						
<p>持続可能な事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、各館の収入の増加に努めるとともに、外部からの資金獲得に努める。</p> <p>61 <u>幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加</u> 観覧料収入や法人資産の有効活用等により、安定的な収入確保を図る。 【法人として充実を目指す事項】 観覧料収入の安定的確保を図るため、館毎の特性に応じた常設展及び特別展の集客力を高める取り組みを実施し、観覧料収入の増加に努める。</p> <p>【中期計画期間中の増収目標(5年での割合)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>常設展</th> <th>特別展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美術館</td> <td>3%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>自然史博物館</td> <td>—</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>東洋陶磁美術館</td> <td>—</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>科学館</td> <td>5%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>歴史博物館</td> <td>3%</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>保有資産について、新たなテナントの誘致や適切なテナント料の設定、貸会議室の稼働率上昇の取り組み等を実施し、施設の有効利用による増収を図る</p>		常設展	特別展	美術館	3%	5%	自然史博物館	—	5%	東洋陶磁美術館	—	3%	科学館	5%	—	歴史博物館	3%	3%	<p>(事務局) 令和3年度より実施している機構中期戦略(CRS)によって、収入確保を推進する。 【法人として充実を目指す事項】 次の中期目標期間中の増収目標をめざす。 ・中期計画期間中の増収目標(2019年4月1日版 中期計画より抜粋) (大阪市立科学館) 常設展: 5年で5% (大阪歴史博物館) 常設展: 5年で3% 特別展: 5年で3% (大阪市立自然史博物館) 特別展: 5年で5%</p>	61	(事務局経営企画課) 機構中期戦略(CRS)を引き続き実施し、サービスのデジタル化やデジタル化による新規利用者層の開拓を行い、顧客満足度の向上及び収入確保を図った。	3
	常設展	特別展																				
美術館	3%	5%																				
自然史博物館	—	5%																				
東洋陶磁美術館	—	3%																				
科学館	5%	—																				
歴史博物館	3%	3%																				
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 62 <u>各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得</u> 積極的な寄附金や協賛金等の獲得のため、法人の担当者を定め、取り組みを強化する。 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討し、その適用に努める。</p>	<p>(事務局) 1. 法人寄附、協賛獲得に向けて制度設計を行い、実施準備に取り組む。</p>	62	(事務局経営企画課) 既に先行している館の事例を会議にて共有する等、情報共有を図ったものの、十分な活動には至らなかった。	2																		

	2. オンラインショップを運営し、SNSによる発信や積極的な商品開発により、新たな収益の獲得を実現する。	62	(事務局経営企画課) オンラインショップ4店舗を運営し、収益確保を実現した。	3		
--	--	----	---	---	--	--

中期目標	6 財務内容の改善 (2) 経費の節減 ・契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 ・共同調達による経費の縮減
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(2) 経費の節減						
安定的な経営を実現するため、経費の縮減に努める。 【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 63 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 委託費等の契約内容を点検し、契約期間や単価の見直しを実施する。 【中期計画期間中の削減目標】 2022年度から一括契約を導入し、美術館を除く各館の維持管理費(委託費)の5%削減を見込む	(事務局) 業務委託や高額物品の調達等において、規程に従い、競争入札を積極的に実施する。 一層の競争性の確保に努め、一括調達や長期契約に向けた規程等を整備し経費の縮減を図る。	63	(事務局総務課) 積極的に競争入札を実施するとともに、長期契約においても、可能なものについては実施した。	3		
64 共同調達による経費の縮減 各施設の業務内容等を考慮し、消耗品や役務について、具体的な品目を定めたうえで共同調達を進める。	(事務局) 各施設の業務内容などを考慮し、消耗品や役務について具体的な品目を定めたうえで、各館等との共同調達を進める。	64	(事務局総務課) 引き続き、共同購入が可能な物品等については一括購入を行うなどして、経費の縮減に努めた。	3		

大項目 IV	IV その他業務運営に関する重要事項 7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (1) 環境整備 (2) 重要なリスク回避のための体制の構築
-----------	--

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) 法人は、業務を恒常的に維持し発展させることのできる組織を確立するため、リスクを回避できる仕組みを構築し、機能させることで、内部統制の強化に努める (1) 環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 ・法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保 ・情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用の促進 ・内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(1) 環境整備						
内部統制の確立のため、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。						
【法人として充実を目指す事項】 65 法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 コンプライアンスの遵守を徹底するため、法令や社会的規範に基づいて法人の内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 法令や業務方法書等に基づいた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。 役員及び職員としての倫理指針及び行動指針を遵守する。	65	(事務局経営企画課) ・公益通報にかかる制度の整備は行っていたものの、法人内部での周知徹底が不十分であり、職場環境の改善を要する事案が発生した。 ・職場改善プロジェクトチームによる職場課題の洗い出しを行い、組織としての共有を図り、今後の改善に向けた取り組みを実施する体制づくりにも取り組んだ。 ・契約監視委員会を9月、2月に開催し、機構の契約事務が適正に行われているか、外部委員による確認等を行った。 また、科学研究費にかかるリスクアプローチ監査を実施し、規程等に基づく適正な会計処理が行われているかについて確認を行った。	2		
66 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 研究者や博物館人としての倫理観を確保するため、内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。	66	(事務局経営企画課) 科研費従事者への研究者倫理研修を2月に実施した。	3		
67 各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 役員の役割を明確にし、法人業務を監理・監督を遂行する。 業務執行のための体制と役割分担を明確にし、確実な執行に努める。	(事務局) 組織や役員の分掌に関する規程に沿って、法人業務を監理・監督する。	67	(事務局総務課) 組織が分掌規程に則って運営できているかを監督するため、監事による各種会議への出席、役員との面談等を行った。	3		
68 法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関	(事務局)	68	(事務局総務課)	3		

<p>における適切な意思形成の確保 理事会や業務執行のための会議体を整備し、迅速な意思決定や情報共有を図る。 業務分担と執行および責任の所在を明確にするための規程を整備し、その確実な運用を図る。</p>	<p>理事会や業務執行のための会議の他に業務執行の会議を必要に応じて開催し、迅速な意思決定や情報共有を図る。</p>		<p>機構における会議体として、「理事会」「経営会議」「総務連絡会」「学芸連絡会」を定期的に開催し、各階層において迅速な意思決定や情報共有等を行った。また、「館長意見交換会」なども開催し、積極的な意見交換等を行った。</p>			
<p>69 情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用を促進 意思疎通や情報共有のため、テレビ会議システム等のICT技術の活用を検討する。</p>	<p>(事務局) 意思疎通や情報共有のため、導入したグループワークやウェブ会議のシステムなどのICT技術を積極的に活用する。</p>	69	<p>(事務局総務課) 引き続き全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 遠隔会議のシステムを利用してオンライン会を積極的に実施して、移動のための経費や時間の削減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。</p>	3		
<p>70 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施 内部監査等により定期的に内部統制環境の整備状況・有効性をモニタリングするとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、内部統制に関する必要な見直しを行う。</p>	<p>(事務局) 監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを継続して行う。</p>	70	<p>(事務局総務課) 内部監査計画書を策定し、事務局及び各館において業務監査及び会計監査を実施した。 9月より監事による各館往査を実施し、内部統制環境や年度計画の進捗状況等の監査を行った。監事、会計監査人、内部監査室が連携し、内部統制の有効性についてモニタリングを進めた。</p>	3		

<p>中期目標</p>	<p>7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (2) 重要なリスク回避のための体制の構築 ・リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 ・ネットワークセキュリティの強化</p>
-------------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(2) 重要なリスク回避のための体制の構築						
<p>重要なリスクを回避するため、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。</p> <p>【法人として充実を目指す事項】 71 リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 適切なリスク管理を行うため、業務の遂行、入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見に努める。</p>	<p>(事務局) 業務実施の障害となるリスクを調査し、当該リスクへの適切な対応を可能とする規程に沿った運用を行う。 入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見とリスク回避を図る。 建築物(付帯設備も含む)管理・点検を行い施設障害発生時のリスク回避に努める。</p>	71	<p>(事務局総務課) 事前に定めた規程に沿った運用が不十分であり結果として未然のリスク回避を行うことが出来なかった。 リスク管理委員会を開催し、機構としてリスクのある課題を抽出し、来年度以降の課題解消に向けた予算措置も行うことが出来た。</p>	2		
<p>72 ネットワークセキュリティの強化 個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を一元化し、徹底する。 訓練等を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善に努める。</p>	<p>(事務局) 訓練や研修を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、その結果に基づいて改善に努める。</p>	72	<p>(事務局総務課) 情報セキュリティに関して、物理的リスクに関する課題が抽出されたことから、来年度は改善に向けた取り組みを行っていく。</p>	3		

大項目 IV	IV その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置 8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (1) 利用者等の安全確保 (2) 環境保全の取組み (3) 情報公開の推進
-----------	--

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) 法人は、時代の要請に応え、社会の理解や支持を得ることで、公共的な施設としての役割を果たす (1) 利用者等の安全確保 ・利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲9) ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲)
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(1) 利用者等の安全確保						
さまざまな人々が快適に利用できるようにするため、各館の施設における安全を確保する。						
【法人として充実を目指す事項】 73 利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 職員に対する研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	(事務局) 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練や措置を行う。啓発活動や研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	73	(事務局総務課) 台風接近に伴う安全確保について、各館と連絡を密に取り迅速に対応することができる体制を確保する事が出来た。その対応を通じて、安全に対する意識も向上した。	3		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 74 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設として必要な機能や快適な利用環境の確保に向けた計画的整備・改修を行う。	(事務局) 快適な利用環境の確保に向けた計画的な整備を行う。 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施する。	74	(事務局施設管理課) 現状の令和5年度までの中期5ヶ年の改修計画について、点検結果報告や劣化状況、工事手順等を勘案し、計画を修正した。また、施設の老朽化状況や更新時期を勘案し、令和6年度からの次期5か年の改修計画についても計画を見直した。	3		
75 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。(再掲) さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。(再掲)	建築物の大規模改修時において、博物館の設置及び運営上の望ましい基準に基づきバリアフリー及びユニバーサルデザインを推進する。	75	(事務局施設管理課) 既設建築物のエレベーターやエスカレーター、自動扉の作動状況等、現状のバリアフリーの維持管理状況について、毎月の点検結果に基づいて適切に維持管理されていることを確認した。 東洋陶磁美術館の増築、市立美術館の大規模改修時に、トイレやスロープ、エレベーター等のバリアフリー化を推進した。	3		

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (2) 環境保全の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 ・再生紙その他の資源の有効利用の促進 ・環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 ・新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(2) 環境保全の取組み						
環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、環境に配慮した取組みを進める。						
【法人として充実を目指す事項】 76 省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。	(事務局) 環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。	76	(事務局施設管理課) 各館における適正な空調温度の設定・維持に必要な普及・啓発を行った。 電気料金の軽減に繋がる省エネや電気の使い方をサポートする関電のDRプロジェクト(eリスポンス特約)に参加し、省エネ意識の向上を図った。	3		
77 再生紙その他の資源の有効利用の促進 ICTを活用したペーパーレスの推進や、再生紙利用の促進等を図る。 リデュース・リユース・リサイクルの徹底に努める。	(事務局) 再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図る。	77	(事務局総務課) 引き続き、ICT活用(全館のグループウェア導入、オンラインソフト導入)によりペーパーレス化を推進した。また、事務局及び各館で、再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図った。	3		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 78 環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 環境への取組状況を明らかにするため、その成果を公表する。	(事務局) 建物の大規模改修時にトップランナー機器等の先端省エネルギー機器の導入を図る。 制定した「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画」や定めた指標に沿って、環境に配慮した取組みに努める。	78	(事務局施設管理課) 設備更新時に省エネ機器を導入するように努めた。 「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画」に沿って、引き続き環境に配慮した取組みに努めた。	3		
79 新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進	(事務局) 環境への取組状況をエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき管理する。	79	(事務局施設管理課) エネルギーの使用の合理化等に関する法律の下に以下の省エネに取り組んだ。 文部科学省・近畿経済産業局へ提出している「中長期計画書」で計画している市立美術館のエレベーター改修や照明器具のLED化について、大規模改修工事へ反映した。 予防保全による空調機器等の更新を行った。	3		

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (3) 情報公開の推進 ・ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 ・情報公開請求に対する迅速な対応
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(3) 情報公開の促進						
運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。 【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 80 ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 業務内容等を広く理解してもらうため、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。	(事務局) 法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。	80	(事務局総務課) 法令に定める情報のみならず、HP等により、様々な情報を広く公表した。 (事務局経営企画課) 業務の実績に関する評価結果や、第2期中期計画等について、HP等で積極的に公表した。	3		
81 情報公開請求に対する迅速な対応 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対して、迅速に対応する。	(事務局) 情報公開請求があった際には、情報提供に切り替えることで、より迅速に対応するよう努める。	81	(事務局総務課) 今年度、情報公開請求はなかったが、今後も請求された場合は迅速に対応する。	3		